Form No. 3453-260 Rev B

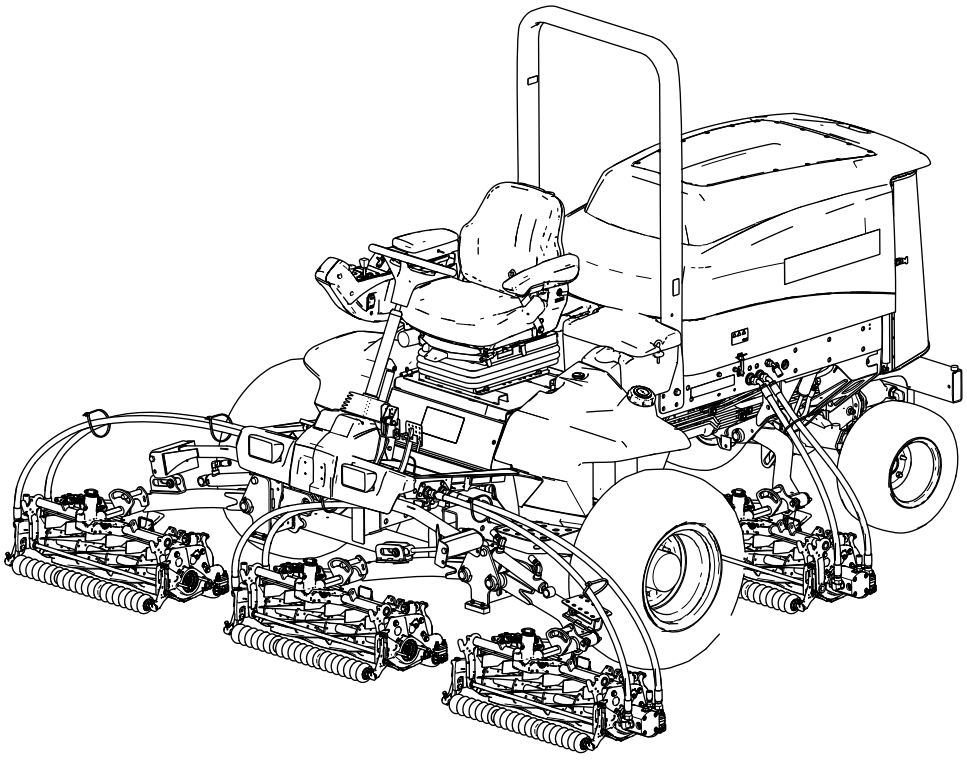
TORO®

Count on it.

オペレーターズマニュアル

Reelmaster® 7000-D 4輪駆動トラクションユニット

モデル番号 03780—シリアル番号 410400000 以上



製品の登録は www.Toro.com.
この文書は翻訳です。 (JA)

CE UK CA

3453-260

この製品は、関連する全ての欧州指令に適合しています。詳細については、別添えの規格適合証明書DOCをご覧ください。

カリフォルニア州の森林地帯・潅木地帯・草地などでこの機械を使用する場合には、エンジンに同州公共資源法第4442章に規定される正常に機能するスパークアレスタが装着されていること、エンジンに対して森林等の火災防止措置をほどこされていることが義務づけられており、これを満たさない機械は、第4442章または4443章違犯となります。

エンジンの保守整備のため、および米国環境保護局EPA並びにカリフォルニア州排ガス規制に関連してエンジンマニュアルを同梱しております。エンジンマニュアルはエンジンのメーカーから入手することができます。

⚠ 警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告

カリフォルニア州では、ディーゼルエンジンの排気には発癌性や先天性異常などの原因となる物質が含まれているとされております。

バッテリーやバッテリー関連製品には鉛が含まれており、カリフォルニア州では発ガン性や先天性異常を引き起こす物質とされています。取り扱い後は手をよく洗ってください。

米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとされております。

はじめに

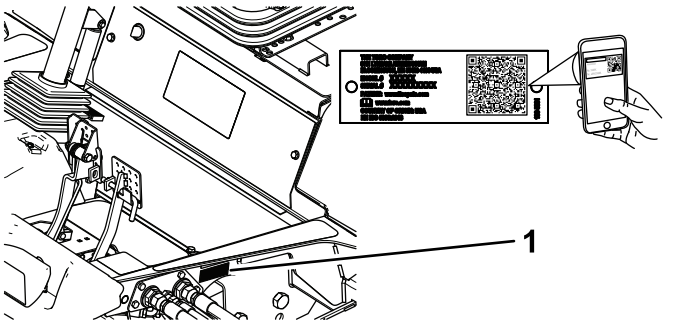
この機械は回転刃を使用するリール式乗用芝刈り機であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、適切な管理を受けている芝生の刈り込みに使用することを主たる目的とする機械です。この機械は本来の目的から外れた使用をすると運転者本人や周囲の人間に危険な場合があります。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

安全上の注意事項、取扱い説明書、アクセサリについての資料、代理店の検索、製品のご登録などについては www.Toro.com へ。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図1 は、モデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置機械の右前フレーム部材を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

重要 **シリアル番号プレートについている QR コード無い場合もありますをモバイル機器でスキャンすると、製品保証、パーツその他の製品情報にアクセスできます。**



g233760

図 1

1. 銘板取り付け位置

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

目次

安全について 4
　安全に関する一般的な注意 4
　安全ラベルと指示ラベル 5
組み立て 11
　1 前カッティングユニットのローラ位置を調整する 11
　2 カッティングユニットを取り付ける 12
　3 マシンの準備を行う 19
　4 CE 規格に適合させるためにフードにロックを取り付けます。 20
　5 CE デカルを貼り付ける 21
製品の概要 23
　各部の名称と操作 23
　仕様 28
　トラクションユニットの仕様 29
　アタッチメントとアクセサリ 29
運転の前に 29
　運転前の安全確認 29
　燃料を補給する 30
　毎日の整備作業を実施する 31
　インタロックスイッチの動作を点検する 31
　座席を調整する 32
運転中に 32
　運転中の安全確認 32
　燃料計 33
　エンジン速度スイッチの使い方 33

© 2023—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

連絡先 www.Toro.com.
Printed in the USA
禁無断転載

エンジンの始動手順 34
エンジンの停止手順 34
カッティングユニットのピボット動作を禁止する 34
刈り込み 35
移動走行モードでの運転 35
ターフ補正スプリングを調整する 35
カッティングユニットのカウンタバランスの調整 36
カッティングユニットの旋回時高さを調整する 37
ROPSを折りたたむ 37
ROPS バーを立てる 38
ディーゼル微粒子フィルタDPF の再生 38
ヒント 50
運転終了後に 50
運転終了後の安全確認 50
トレーラへの積み込み 50
ロープ掛けのポイント 50
緊急時の牽引移動 51
保守 53
保守作業時の安全確保 53
推奨される定期整備作業 53
始業点検表 55
整備前に行う作業 56
整備作業にかかる前に 56
フードを開ける 56
フードを閉じる 56
バッテリーコンパートメントへのアクセス 57
座席を倒す 57
座席をもとに戻す。 57
ジャッキアップポイント 57
潤滑 58
ベアリングとブッシュのグリスアップ 58
エンジンの整備 60
エンジンの安全事項 60
エアフィルタの点検 60
エアフィルタの交換 60
オイルの仕様 62
エンジンオイルの量を点検する 62
エンジンオイルの量 63
エンジンオイルとフィルタの交換 63
ディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの整備 63
燃料系統の整備 64
水セパレータからの水抜き 64
燃料ラインとその接続の点検 65
水セパレータのフィルタの交換 65
エンジン側燃料フィルタの交換 65
燃料タンクを空にして内部を清掃する 66
燃料ろ過スクリーンの清掃 66
電気系統の整備 67
電気系統に関する安全確保 67
バッテリーの接続を外す 67
バッテリーを接続する 67
バッテリーを充電する 67
バッテリーの整備 68
ヒューズの交換 68
走行系統の整備 69
タイヤ空気圧を点検する 69
ホイールナットのトルクを点検する 69
プラネタリドライブ端部のガタの点検 69
プラネタリギアオイルの点検 70
プラネタリギアオイルの交換 70
後アクスルのオイル量を点検する 71
後アクスルのオイル交換 72
減速ギアケースのオイルを点検する 72
刈り込み速度スペーサ表 73
最大刈り込み速度・移動走行速度の調整 73
走行ドライブのニュートラル調整 74
後輪のアライメント点検 75
後輪のトーインの調整 75
冷却系統の整備 76
冷却系統に関する安全確保 76
冷却液の仕様 76
冷却液の量の点検 76
エンジンの冷却システムの整備 77
ブレーキの整備 78
ブレーキの調整 78
ベルトの整備 79
オルタネータベルトの整備 79
油圧系統の整備 80
油圧系統に関する安全確保 80
油圧ラインとホースの点検 80
油圧作動液の仕様 80
油圧オイルの量を点検する 80
油圧フィルタの交換 81
油圧オイルの容量 82
油圧オイルの交換 82
カッティングユニットの保守 83
刈り込みブレードについての安全事項 83
カッティングユニットのバックラップ 83
中期整備 85
シャーシとエンジン 85
洗浄 86
機体の洗浄 86
保管 86
格納保管時の安全確保 86
トラクションユニットの整備 86
エンジンの整備 87
バッテリーの保管 87

安全について

安全に関する一般的な注意

この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。

- エンジンを始動する前に必ずこの*オペレーターズマニュアル*をお読みになり内容をよく理解してください
- この機械を運転する時は常に十分な注意を払ってください。運転中は運転操作に集中してください注意散漫は事故の大きな原因となります。
- 機械の可動部の近くには絶対に手足を近づけないでください。
- ガードなどの安全保護機器が正しく機能していない時は、運転しないでください。
- 作業場所に、無用の大人、子供、ペットなどを近づけないでください。子供に運転させないでください。
- エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部の動作が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。

危険警告記号

危険警告記号図 2は、このマニュアルと実機上とに表示され、事故防止のために守るべき重要な注意事項を示します。

g000502

図 2
危険警告記号

危険警告記号に続いて、**危険**、**警告**、または**注意**という文字が表示され、危険についての具体的な内容が示されます。

危険人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が**起こります**。

警告人の生命に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が**起こる恐れがあります**。

注意安全に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないとけがをする**可能性があります**。

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

安全ラベルと指示ラベル

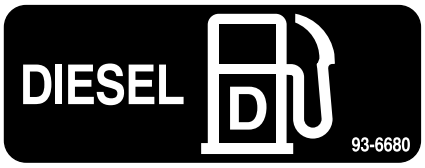
危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。

decalbatterysymbols

バッテリーに関する注意標識

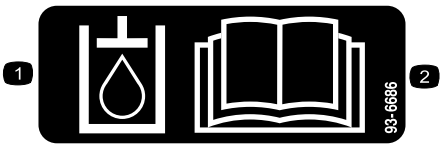
全てがついていない場合もあります。

1. 爆発の危険
2. 火気厳禁、禁煙厳守のこと
3. 劇薬につき火傷の危険あり
4. 保護メガネ等着用のこと。
5. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
6. バッテリーに人を近づけないこと。
7. 保護メガネ等着用のこと爆発性ガスにつき失明等の危険あり。
8. バッテリー液で失明や火傷の危険あり。
9. 液が目に入ったら直ちに真水で洗眼し医師の手当てを受けること。
10. 鉛含有普通ゴミとして投棄禁止。



decal93-6680

93-6680



decal93-6686

93-6686

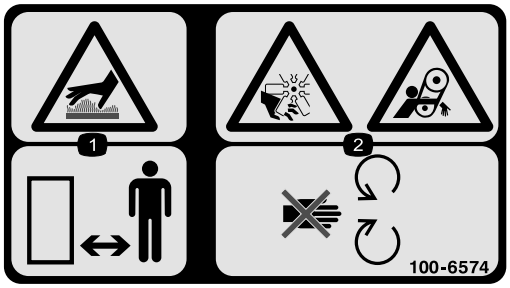
1. 油圧作動液
2. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。

---

decal98-4387

98-4387

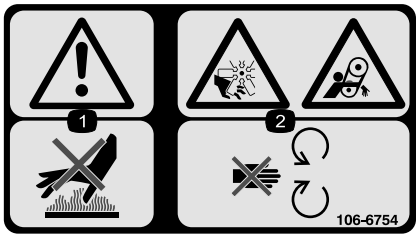
1. 警告 聴覚保護具を着用のこと。



decal100-6574

100-6574

1. 高温危険人を近づけないこと。
2. インペラに巻き込まれたり手を切断したりする危険可動部に近づかないこと。



decal106-6754

106-6754

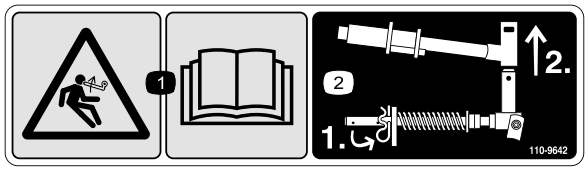
1. 警告高温部に触れないこと。
2. ファンによる手足の切断など、ベルトによる巻き込み事故の危険可動部に近づかないこと。

---

decal106-6755

106-6755

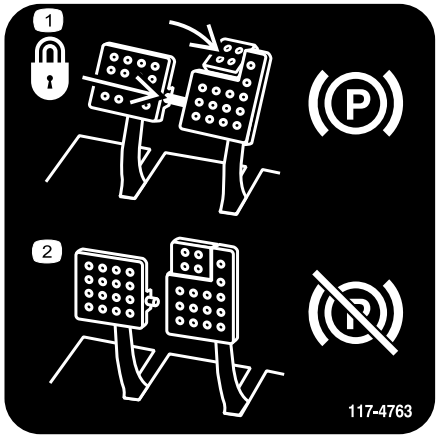
1. 冷却液の噴出に注意。
2. 爆発の危険*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 警告高温部に触れないこと。
4. 警告 *オペレーターズマニュアル*を読むこと。



decal110-9642

110-9642

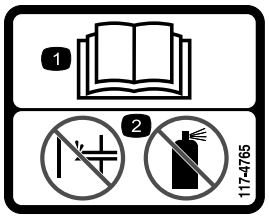
1. 負荷が掛かっている危険 *オペレーターズマニュアル* を読むこと
2. ロッドブラケットに一番近い穴にコッターピンを移し、昇降アームとヨークをを外す



decal117-4763

117-4763

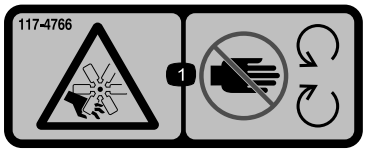
1. 駐車ブレーキの掛け方左右のペダルをピンでつなぐ 駐車ブレーキペダルを踏み込んで、つま先ペダルを掛ける。
2. 駐車ブレーキの解除のし方 ロックピンを外し、ペダルを踏んで解除する。



decal117-4765

117-4765

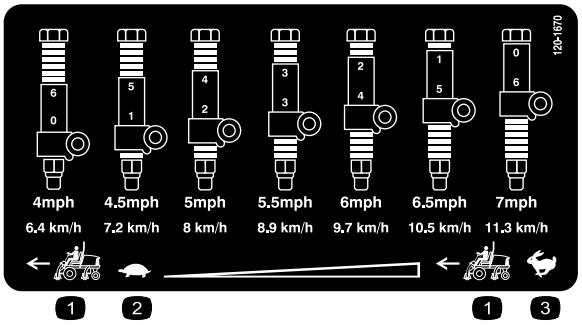
1. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. 始動補助剤の使用禁止



decal117-4766

117-4766

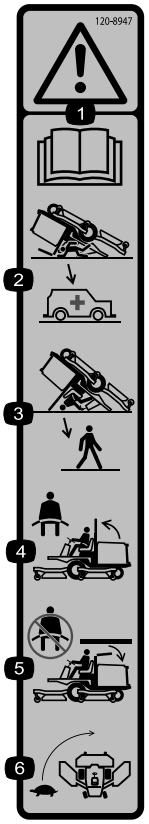
1. ファンによる切傷や手足の切断の危険可動部に近づかないこと 使用時にはすべての安全カバー類を正しく取り付けておくこと。



decal120-1670

120-1670

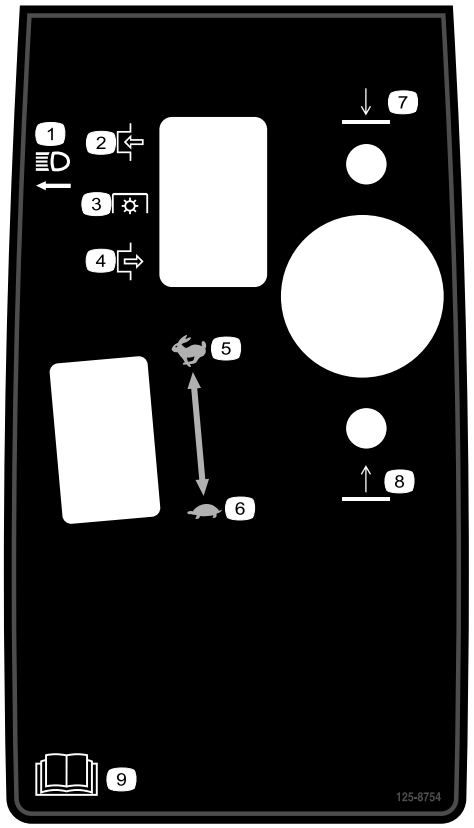
1. トラクションユニットの速度
2. 低速
3. 高速



decal120-8947

120–8947

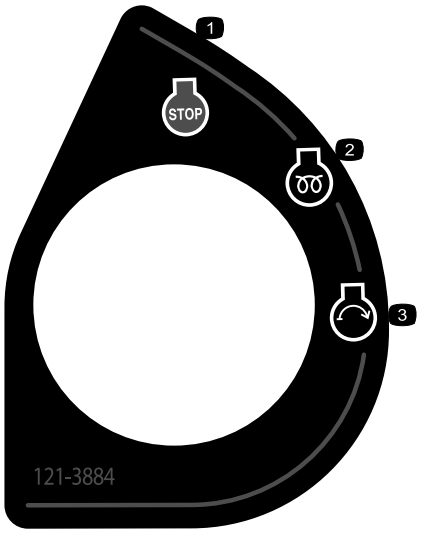
1. 警告*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. ROPS を下げた状態では、ROPS による安全保護は機能しない。
3. ROPS を立てれば転倒時の保護が機能する。
4. ROPS を立てて運転する時はシートベルトを着用すること。
5. ROPS を降ろして運転する時はシートベルトを着用しないこと。
6. 旋回操作はゆっくり行うこと。



decal125-8754

125–8754

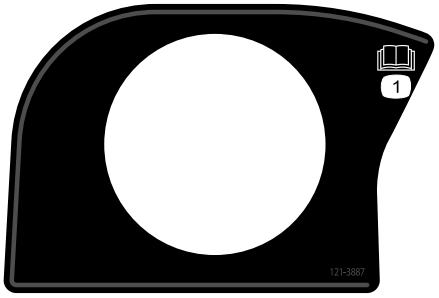
1. ヘッドライト
2. 入
3. PTO
4. 切
5. 高速
6. 低速
7. カッティングユニット下降
8. カッティングユニット上昇
9. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。



decal121-3884

121-3884

1. エンジン 停止
2. エンジン予熱
3. エンジン 始動



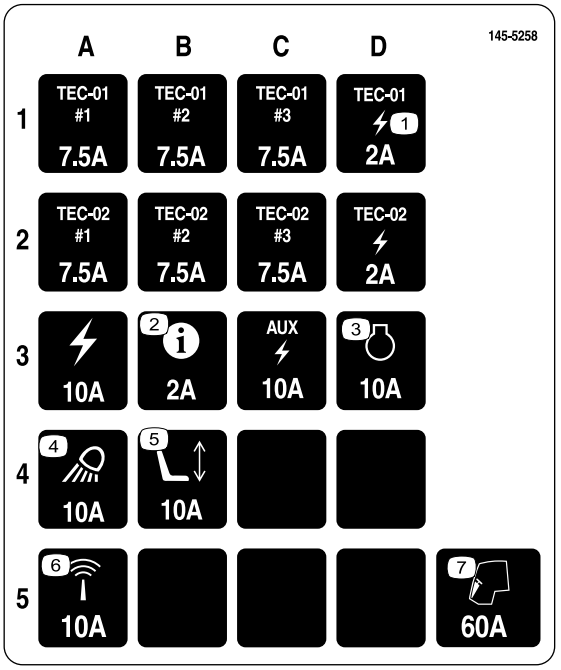
decal121-3887

121-3887

1. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。

decal133-8062

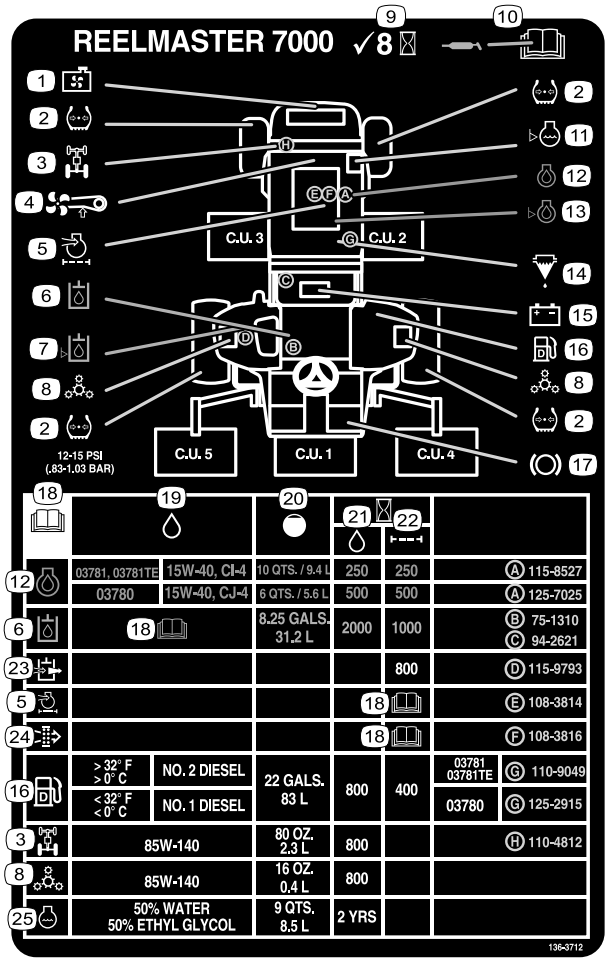
133-8062



decal145-5258

145-5258

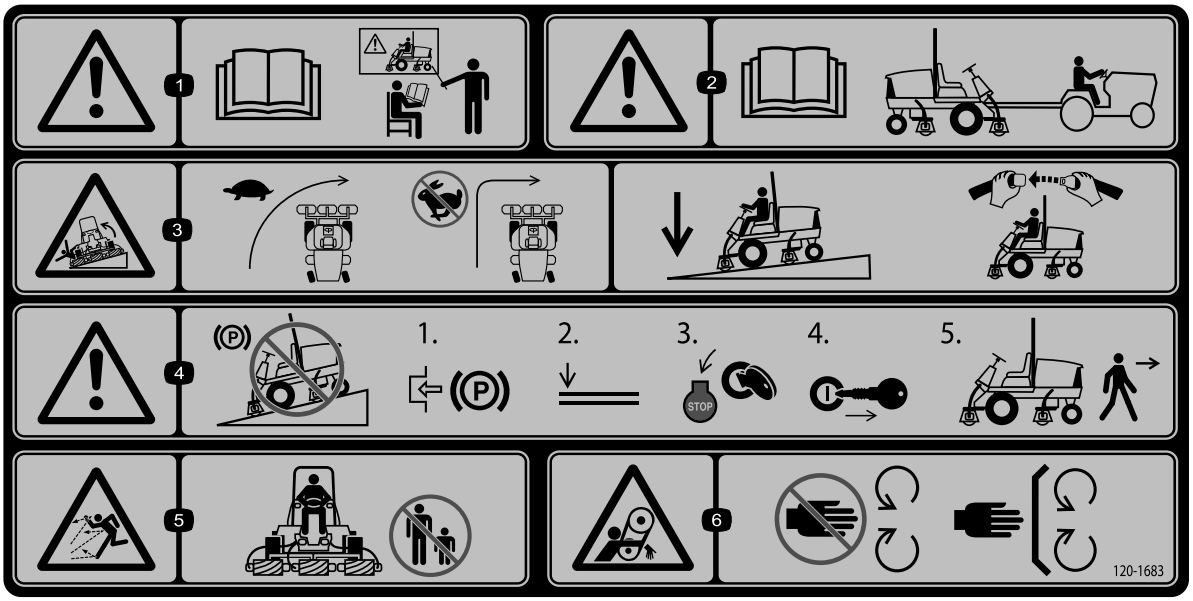
1. 電源
2. インフォセンター
3. エンジン
4. 作業用ライト
5. 電動シート
6. センサー
7. キャブ



decal136-3712

136-3712

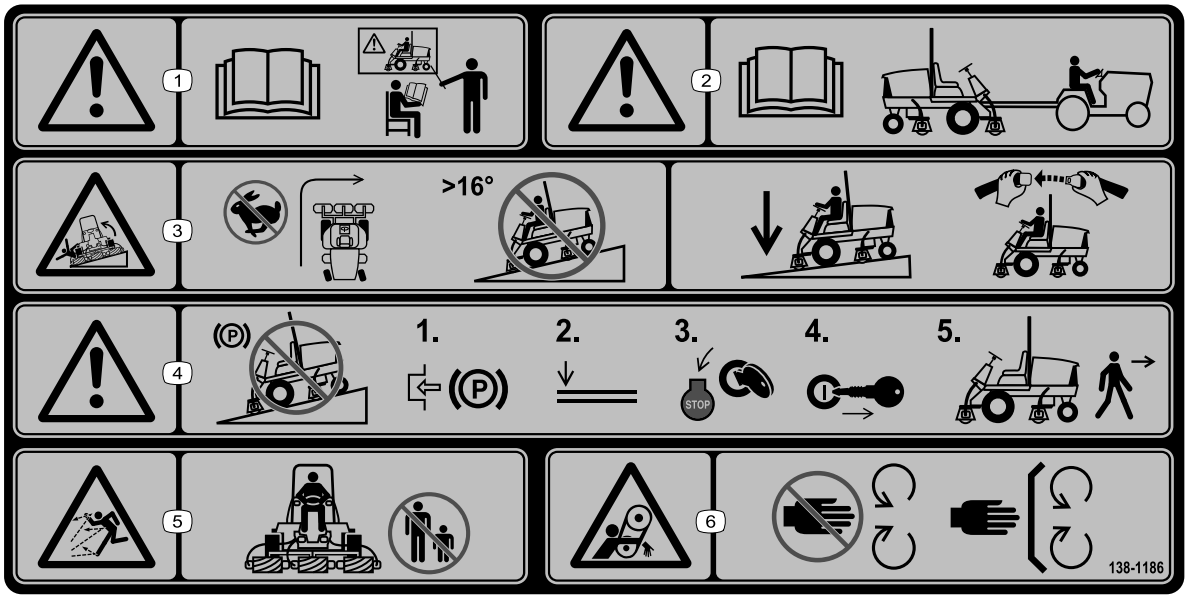
1. ラジエタースクリーン
2. タイヤ空気圧
3. 後アクスル
4. ファンベルト
5. エンジンエアフィルタ
6. 油圧作動液
7. 油圧オイルの量
8. プラネタリドライブ
9. 8 運転時間ごとに点検
10. 潤滑に関する情報は*オペレーターズマニュアル*を参照のこと。
11. エンジン冷却液の量
12. エンジンオイル
13. エンジンオイルの量
14. 燃料水セパレータ
15. バッテリー
16. 軽油
17. ブレーキの機能
18. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
19. 油脂類等
20. 容量
21. オイル等交換間隔時間
22. フィルタ交換間隔時間
23. 油圧ブリーザ
24. 安全エアフィルタ
25. エンジンの冷却液



decal120-1683

120-1683

1. 警告*オペレーターズマニュアル*を読むこと。使用する前に全員がトレーニングを受けること。
2. 警告 このマシンの牽引を行う前に、*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 警告旋回時には減速すること高速で急旋回しないこと斜面を下る時にはカッティングユニットを下げておくことROPS とシートベルトを使用すること。
4. 警告斜面に駐車しないこと平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、マシンから離れる場合にはキーを抜き取ること。
5. 異物が飛び出す危険人を近づけないこと。
6. ベルトに巻き込まれる危険 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。



decal138-1186

138-1186

注 この機械は、業界で推奨される最大傾斜角度を用いた前後方向および左右方向の標準安定試験に合格しており、使用を認められる法面の最大角度がデカルに記載されています。斜面で運転する場合の条件や注意点について、また、特殊な天候や場所条件のもとでこの機械を使用することができるかどうかを判断する方法について、*オペレーターズマニュアル*で確認してください。同じ斜面上であっても、地表面の条件が変われば運転条件が変わります。斜面では可能なかぎりカッティングユニットを地表面まで下げておいてください。斜面上でカッティングユニットを上昇させると機体が不安定になる恐れがあります。

1. 警告*オペレーターズマニュアル*を読むこと。使用する前に全員がトレーニングを受けること。
2. 警告 このマシンの牽引を行う前に、*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 転倒の危険高速で走行中に急旋回をしないこと傾斜が 16° 以上の斜面に乗り入れないこと。下り坂ではカッティングユニットを下降させることROPS横転保護バーとシートベルトを使うこと。
4. 警告斜面に駐車しないこと平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、マシンから離れる場合にはキーを抜き取ること。
5. 異物が飛び出す危険人を近づけないこと。
6. ベルトに巻き込まれる危険 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	–	前カッティングユニットのローラ位置を調整します。
2	前ホースガイド右 前ホースガイド左	1 1	カッティングユニットを取り付ける。
3	必要なパーツはありません。	–	マシンの準備を行う。
4	フードロックブラケット リベット ねじ¼ x 2" 平ワッシャ ¼" ロックナット¼"	1 2 1 2 1	CE規格適合用フードロックを取り付けます.
5	CE 用ステッカー 製造年デカル 警告表示ステッカー	1 1 1	CE デカルを貼り付けます。

その他の付属品

内容	数量	用途
オペレーターズマニュアル	1	運転をする前にマニュアルを読んでください。
エンジンマニュアル	1	エンジンを初めて始動する前にマニュアルを読んでください。
規格適合認定書	1	欧州規格CE適合証明書です。

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

前カッティングユニットのローラ位置を調整する

必要なパーツはありません。

手順

注

1. ローラ位置の調整が必要かどうかを判断する。
   取り付けるカッティングユニットによってローラの位置が異なる
   - 27" カッティングユニット ローラサポートの上側取り付け穴
   - 32" カッティングユニット ローラサポートの下側取り付け穴

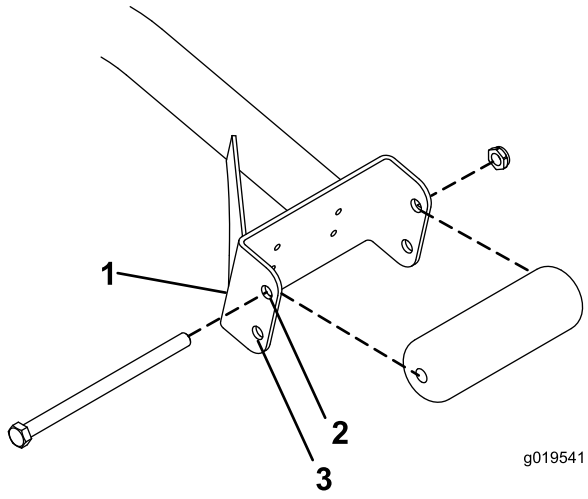


図 3

1. ローラサポート
2. 上穴27" カッティングユニット
3. 下穴32" カッティングユニット

2. 必要であれば、キャップスクリュ、ロックナット、ローラを外す。
3. ローラを新しい取り付け穴に合わせる。
4. ローラを取り付け、キャップスクリュとロックナットで固定する。
5. マシンの反対側でも 2 - 4 の作業を行う。

2

カッティングユニットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	前ホースガイド右
1	前ホースガイド左

マシンの準備を行う

1. 出荷用ブラケットからリールモータを取り出す。
2. 出荷用ブラケットを外して廃棄する。

カッティングユニットの準備

1. カッティングユニットをカートンから取り出す。
2. 同梱されているカッティングユニット用*オペレーターズマニュアル*に従って、希望の設定に組み立て、調整を行う。
3. カウンタウェイト図 4を、決められた側に取り付けるカッティングユニットの*オペレーターズマニュアルを参照*。

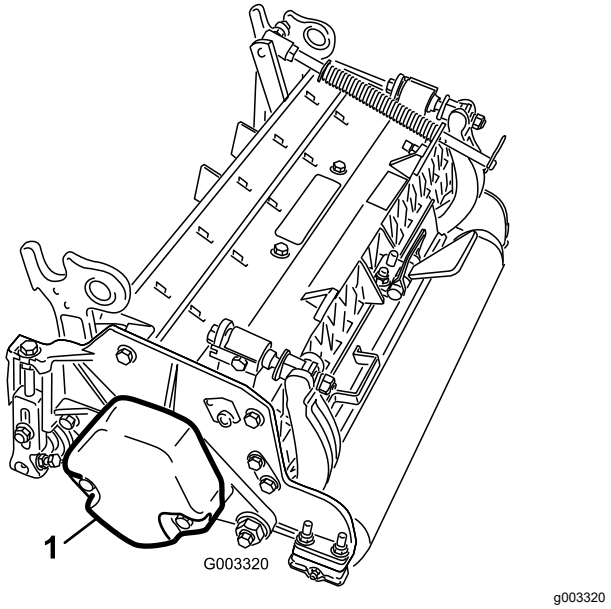


図 4

1. カウンタウェイト

ターフ補正スプリングの位置調整とホースガイドの取り付けを行う

カッティングユニット4番

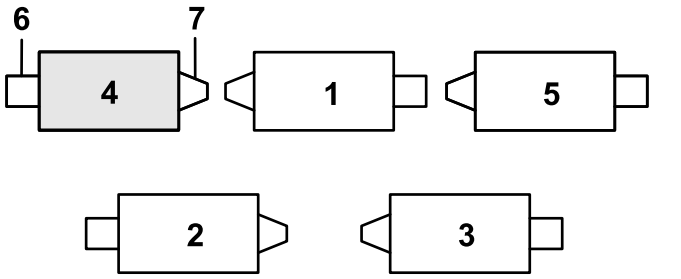
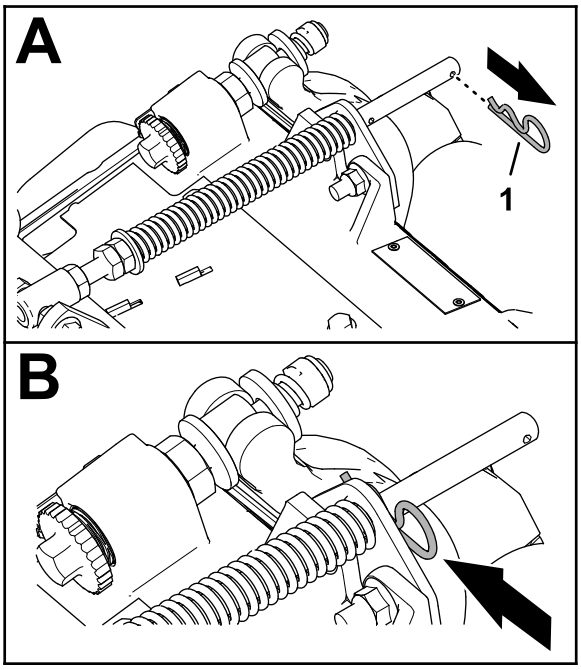


図 5

1. 1番カッティングユニット
2. 2番カッティングユニット
3. 3番カッティングユニット
4. 4番カッティングユニット
5. 5番カッティングユニット
6. リールモータ
7. ウェイト

1. 補正スプリングのロッドの後穴にヘアピンが取り付けられている場合は、ヘアピンを外してブラケットの隣にある穴に移す図 6。

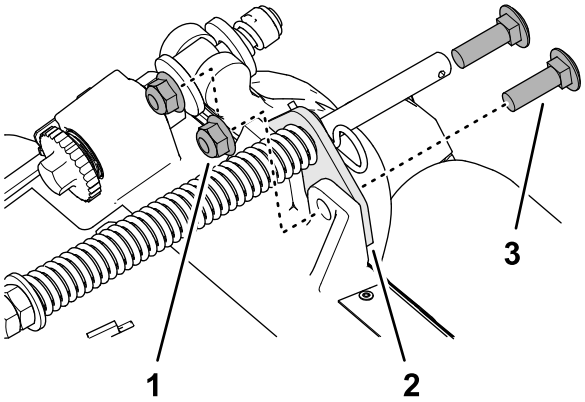


g375689

図 6

1. ヘアピン

2. ターフ補正器用ブラケットをカッティングユニットのフレームに固定しているフランジロックナット⅜"2個、キャリッジボルト⅜ x 1-¼"2本を外す図 7。



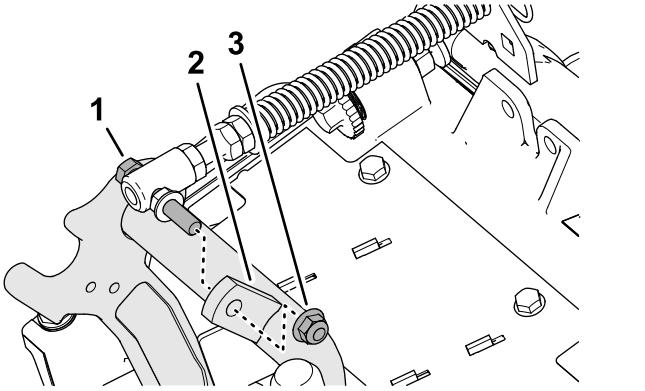
g375690

図 7

1. キャリッジボルト⅜ x 1¼"
2. ターフ補正器用ブラケット
3. フランジロックナット⅜"

3. ターフ補正スプリングのキャップスクリュをキャリアフレームの右側タブに固定しているフランジロックナット⅜"を外して、補正スプリングをカッティングユニットから外す図 8。

   注 キャリッジボルトについているギギザギザ付きフランジナットは外さないでください。

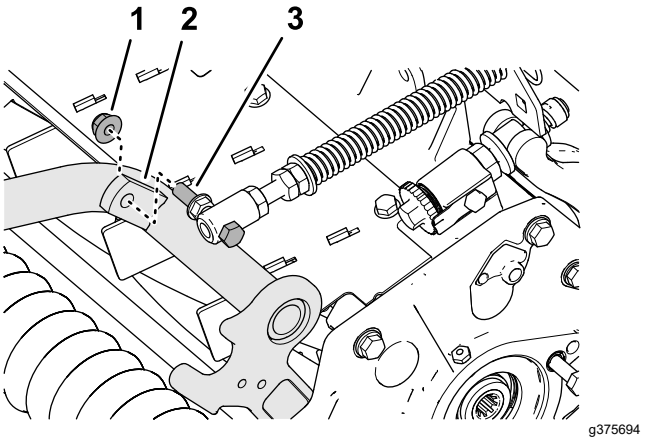


g375691

図 8

1. キャップスクリュ
2. 右側タブキャリアフレーム
3. フランジロックナット⅜"

4. ターフ補正スプリングのキャップスクリュを、キャリアフレームの右側タブに組み付ける図 9フランジロックナット3/8"を使用する。



g375694

図 9

1. フランジロックナット⅜"
2. 右側タブキャリアフレーム
3. キャップスクリュ

5. 左側ホースガイドのスタッドを、カッティングユニットのフレームの穴とターフ補正器の穴に合わせて取り付ける図 10。

   注 ホースガイドのサポートループが車両のセンターラインに向かうようになります。

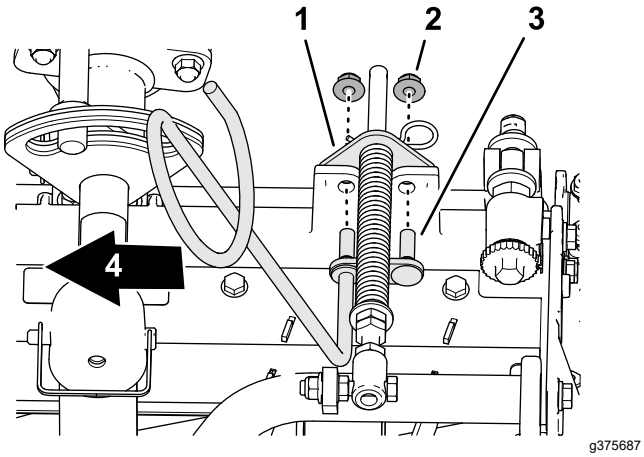


図 10

1. ターフ補正器用ブラケット
2. フランジロックナット⅜"
3. スタッドホースガイド
4. 車両中央側

6. ホースガイドとターフ補正器用ブラケットをカッティングユニットのフレームに取り付けるフランジロックナット3/8"2個を使用する。
7. ボルトとロックナットを 37-45 N·m 3.8-4.5 kg.m = 27-33 ft-lb にトルク締めする。

ホースガイドを取り付ける

カッティングユニット5番

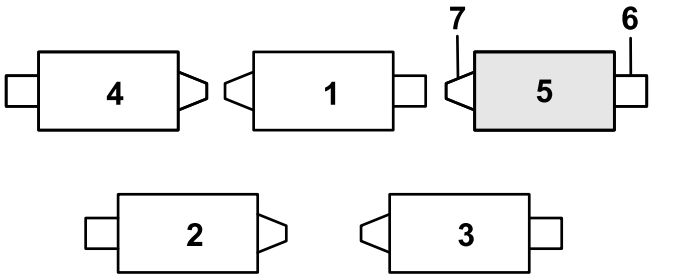


図 11

1. 1番カッティングユニット
2. 2番カッティングユニット
3. 3番カッティングユニット
4. 4番カッティングユニット
5. 5番カッティングユニット
6. リールモータ
7. ウェイト

1. 補正スプリングのロッドの後穴にヘアピンが取り付けられている場合は、ヘアピンを外してブラケットの隣にある穴に移す図 11。

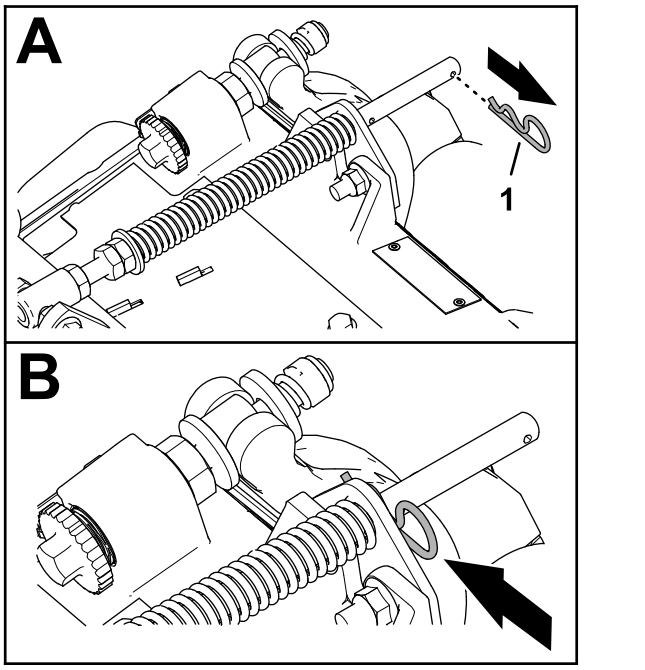


図 12

1. ヘアピン

2. ターフ補正器用ブラケットをカッティングユニットのフレームに固定しているフランジロックナット⅜"2個、キャリッジボルト⅜ x 1-¼"2本を外す図 13。

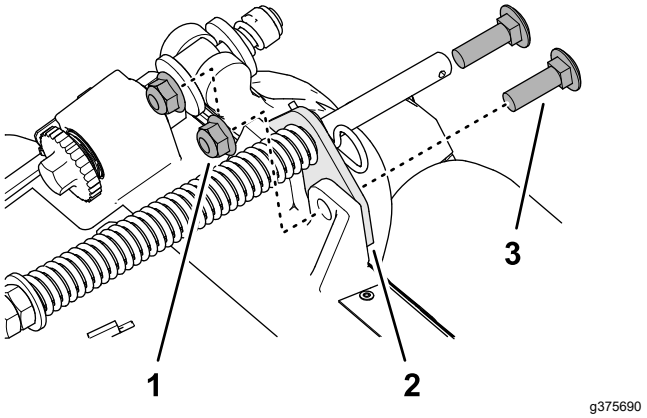
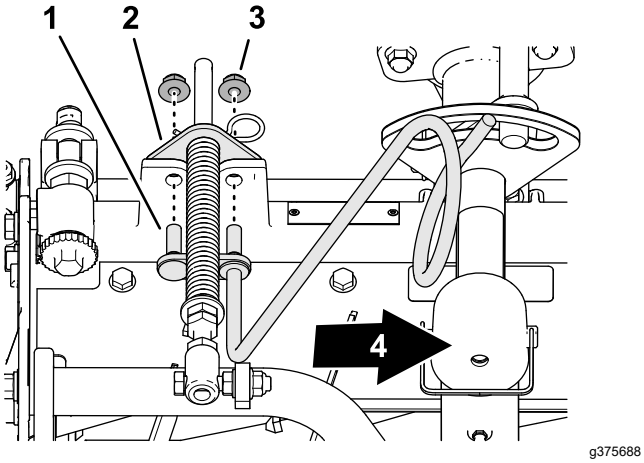


図 13

1. キャリッジボルト⅜ x 1¼"
2. ターフ補正器用ブラケット
3. フランジロックナット⅜"

3. 右側ホースガイドのスタッドを、カッティングユニットのフレームの穴とターフ補正器の穴に合わせて取り付ける図 14。

   注 ホースガイドのサポートループを車両のセンターラインに向けてください。



g375688

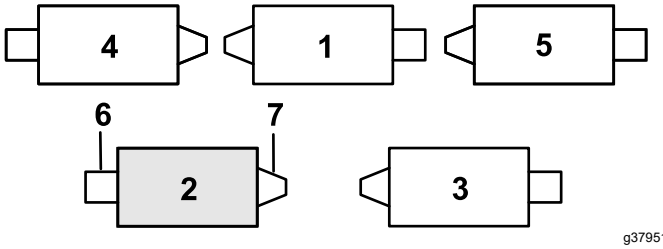
図 14

1. スタッドホースガイド
2. ターフ補正器用ブラケット
3. フランジロックナット⅜"
4. 車両中央側

4. ホースガイドとターフ補正器用ブラケットをカッティングユニットのフレームに取り付けるフランジロックナット3/8"2個を使用する。
5. ロックナットを 3745N·m 3.84.6kg.m = 2733ft-lbにトルク締めする。

ターフ補正スプリングの位置調整を行う

カッティングユニット2番

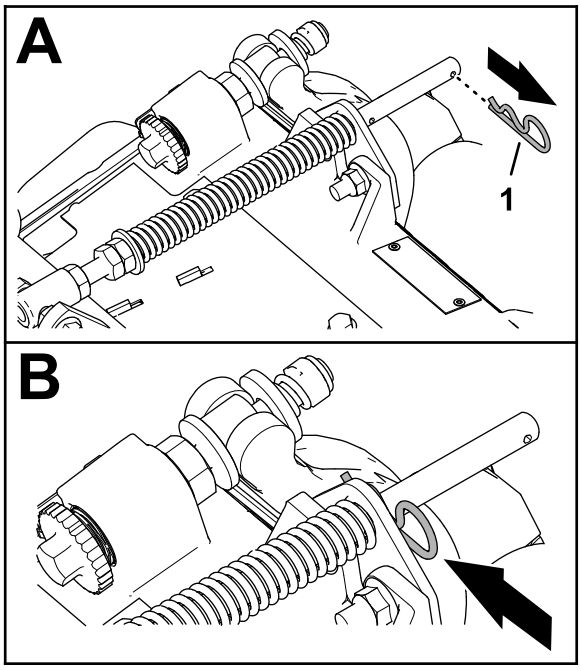


g379514

図 15

1. 1番カッティングユニット
2. 2番カッティングユニット
3. 3番カッティングユニット
4. 4番カッティングユニット
5. 5番カッティングユニット
6. リールモータ
7. ウェイト

1. 補正スプリングのロッドの後穴にヘアピンが取り付けられている場合は、ヘアピンを外してブラケットの隣にある穴に移す図 16。

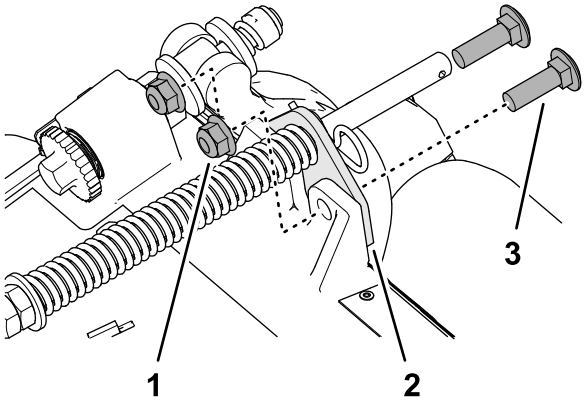


g375689

図 16

1. ヘアピン

2. ターフ補正器用ブラケットをカッティングユニットのフレームに固定しているフランジロックナット⅜"2個、キャリッジボルト⅜ x 1-¼"2本を外す図 17。



g375690

図 17

1. キャリッジボルト⅜ x 1¼"
2. ターフ補正器用ブラケット
3. フランジロックナット⅜"

3. ターフ補正スプリングのキャップスクリュをキャリアフレームの右側タブに固定しているフランジロックナット⅜"を外して、補正スプリングをカッティングユニットから外す図 18。

注 キャリッジボルトについているギギザギザ付きフランジナットは外さないでください。

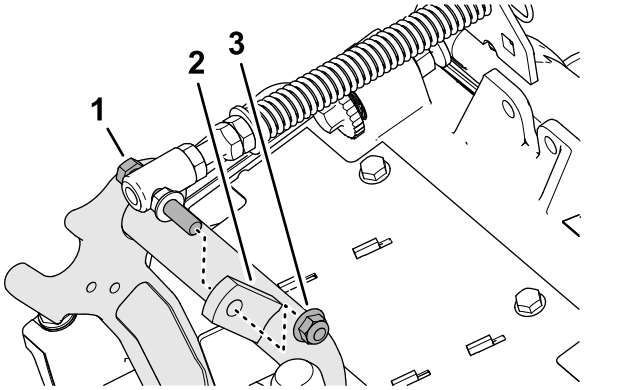


図 18

1. キャップスクリュ
2. 右側タブキャリアフレーム
3. フランジロックナット⅜"

4. ターフ補正スプリングのキャップスクリュを、キャリアフレームの右側タブに組み付ける図 19フランジロックナット3/8"を使用する。

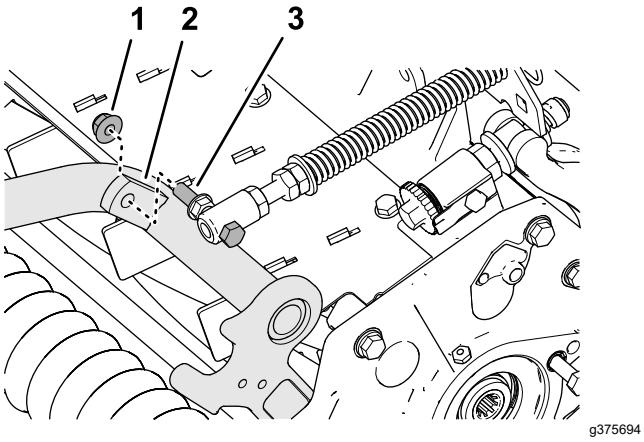


図 19

1. フランジロックナット⅜"
2. 右側タブキャリアフレーム
3. キャップスクリュ

5. ターフ補正器ブラケットの穴を、カッティングユニットのフレームの穴に合わせる図 20。

   注 ホースガイドのサポートループが車両のセンターラインに向かうようになります。

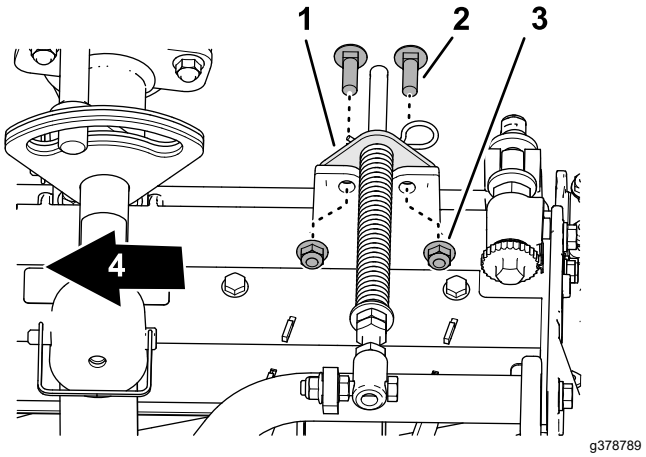


図 20

1. ターフ補正器用ブラケット
2. キャリッジボルト⅜ x 1¼"
3. フランジロックナット⅜"
4. 車両中央側

6. ターフ補正器用ブラケットをカッティングユニットのフレームに取り付けるキャリッジボルト⅜ x 1-¼"2 本とフランジロックナット⅜"2 個を使用する。
7. ボルトとロックナットを 37-45 N·m 3.8-4.5 kg.m = 27-33 ft-lb にトルク締めする。

キックスタンドを取り付ける

各カッティングユニットについて、スナッパピンでキックスタンドをチェーンブラケットに固定します図 21。

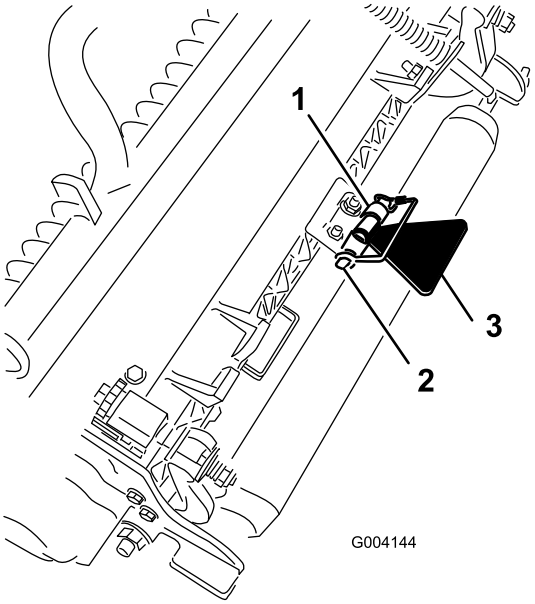
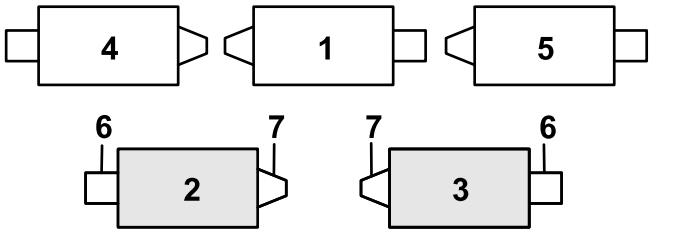


図 21

1. チェーンブラケット
2. スナッパピン
3. カッティングユニットのキックスタンド

後カッティングユニットのピボット角度を大きくするには

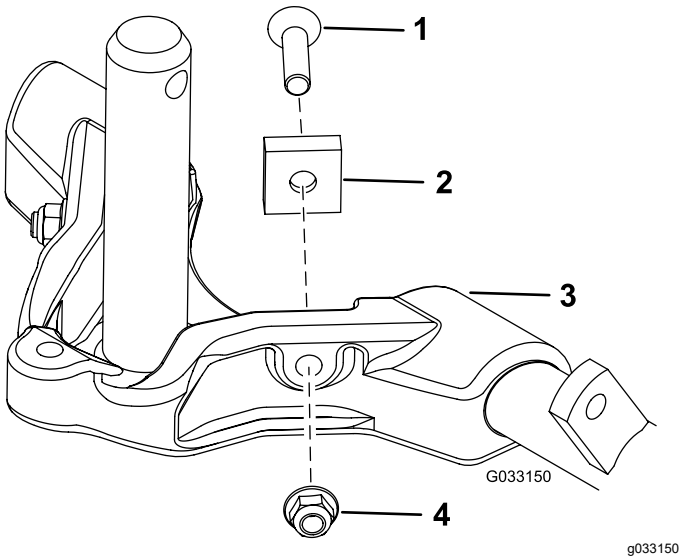
後カッティングユニットのピボット角度を大きくするには、2番と3番のカッティングユニットのキャリアフレームから、スペーサ2個、六角ソケットねじ2本、フランジロックナット図 22と図 23を外します。



g367812

図 22

1. 1番カッティングユニット
2. 2番カッティングユニット
3. 3番カッティングユニット
4. 4番カッティングユニット
5. 5番カッティングユニット
6. リールモータ
7. ウェイト



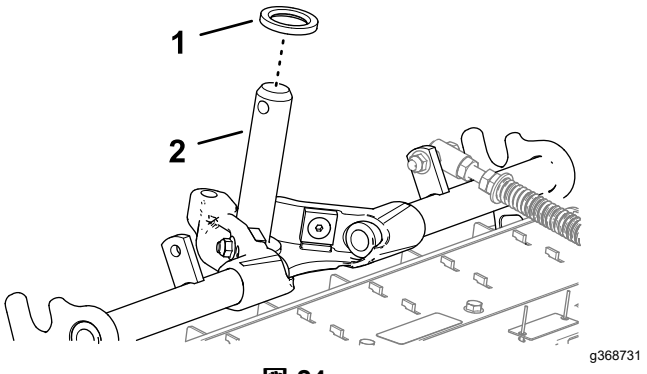
g033150

図 23

1. 六角ソケットねじ
2. スペーサ
3. キャリアフレーム
4. フランジロックナット

カッティングユニットを取り付ける準備

1. 皿穴スラストワッシャをキャリアフレームのシャフトに取り付ける図 24。

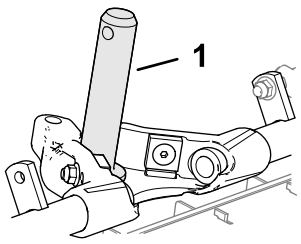


g368731

図 24

1. スラストワッシャ皿穴ワッシャ
2. キャリアフレームのシャフト

2. キャリアフレームのシャフトにきれいなグリスを塗る図 25。



g367814

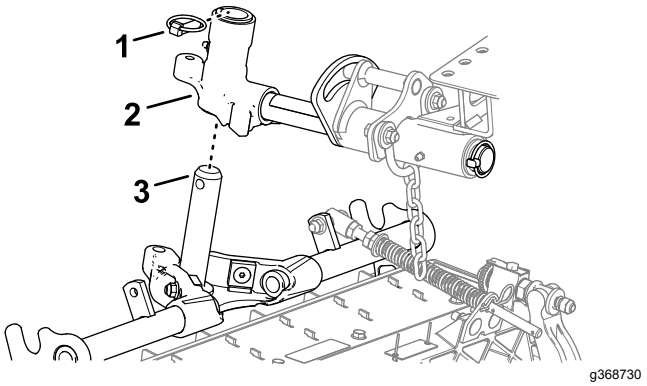
図 25

1. キャリアフレームのシャフト

3. 他のカッティングユニットについても、上記の手順1と2を行う。

前方のカッティングユニットを取り付ける

1. カッティングユニットを昇降アームの下に置く図 26。



g368730

図 26

1. リンチピン
2. ピボットヨーク
3. キャリアフレームのシャフト

2. キャリアフレームのシャフトを昇降アームのピボットヨークに通す。

3. リンチピンを使って、キャリアフレームのシャフトをピボットヨークに固定する。
4. 残りの前カッティングユニットについてもステップ1と3を行う。

後カッティングユニットを昇降アームに取り付ける

刈高が 12 mm 以上のカッティングユニット

1. カッティングユニットを昇降アームの下に置く図 27。

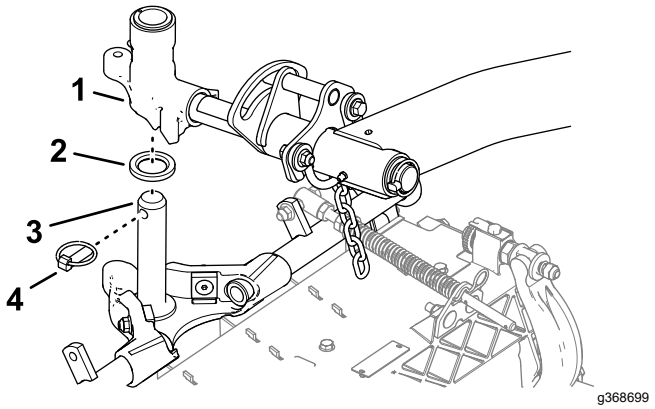


図 27

1. 昇降アームのピボットシャフト
2. スラストワッシャ皿穴ワッシャ
3. キャリアフレームのシャフト
4. リンチピン

2. 昇降アームのシャフトを昇降アームに通してリンチピンで固定する。
3. 残りの後カッティングユニットにも、ステップ2の作業を行う。

後カッティングユニットを昇降アームに取り付ける

刈高が 12 mm 以下のカッティングユニット

1. 昇降アームのピボットシャフトを昇降アームに固定しているリンチピンとワッシャを外し、昇降アームからピボットシャフトを抜き出す図 28。

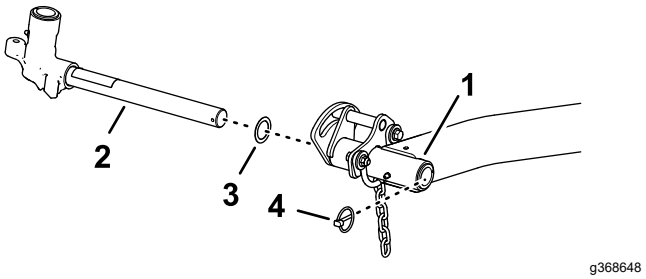


図 28

1. 昇降アーム後カッティングユニット
2. 昇降アームのピボットシャフト
3. スラストワッシャ
4. リンチピン

2. 昇降アームのヨークをキャリアフレームのシャフトに通す 図 29。

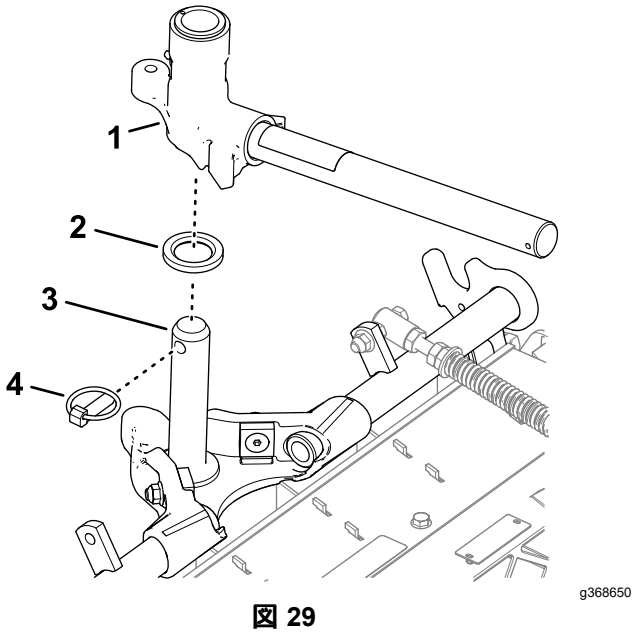


図 29

1. 昇降アームのピボットシャフト
2. スラストワッシャ皿穴ワッシャ
3. キャリアフレームのシャフト
4. リンチピン

3. カッティングユニットを昇降アームの下に置く図 30。

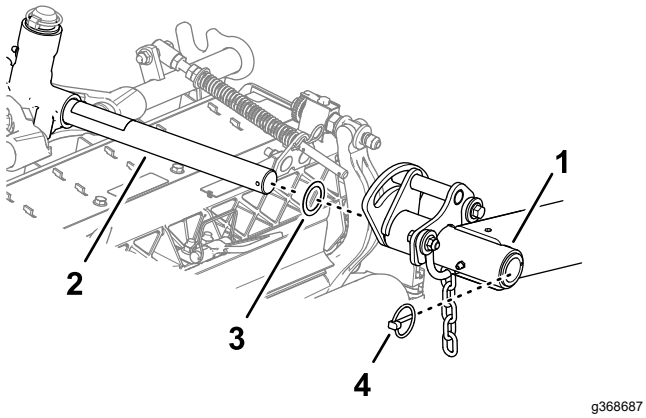


図 30

1. 昇降アーム後カッティングユニット
2. 昇降アームのピボットシャフト
3. スラストワッシャ
4. リンチピン

4. 昇降アームのシャフトを昇降アームに通してリンチピンで固定する。
5. 残りの後カッティングユニットにも、ステップ1から4の作業を行う。

カッティングユニットの昇降アームにチェーンを取り付ける

スナッパピンで、昇降アームのチェーンをチェーンブラケットに固定する 図 31。

注 カッティングユニットの*オペレーターズマニュアル*に従って、決められたリンクを使用すること。

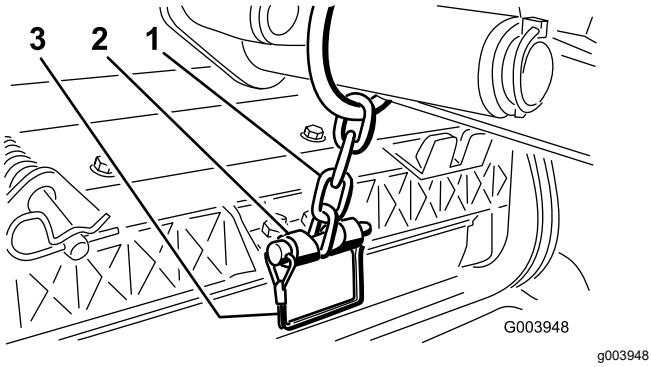


図 31

1. 昇降アームのチェーン
2. チェーンブラケット
3. スナッパピン

リールモータを取り付ける。

1. リールモータのスプラインシャフトにきれいなグリスを塗りつける。
2. リールモータのOリングにオイルを塗りつけ、モータのフランジに取り付ける。
3. モータを手に持ち、右回りにひねってモータのフランジをボルトから逃がしながら、キャップスクリュにモータをセットする(図 32)。

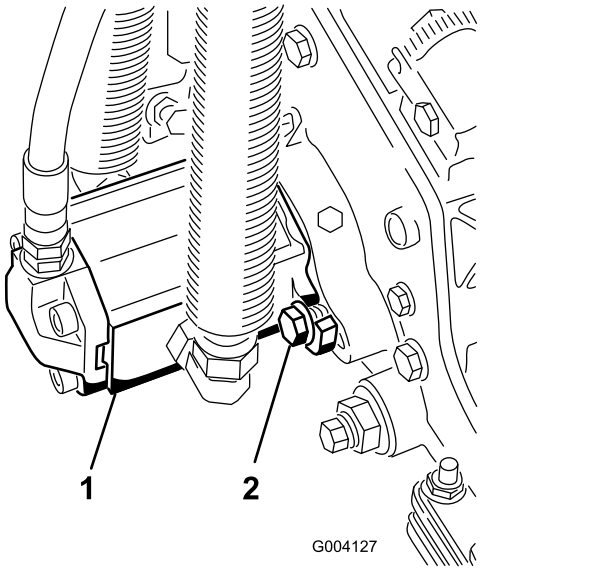


図 32

1. リール駆動モータ
2. 取り付けボルト

4. モータを左回りにひねってボルトにフランジをしっかりと掛け、ボルトを締めてモータを固定する。

   ***重要*リールモータの各ホースにねじれ、折れ、挟まれなどがないことを確認する。**
5. 各取り付けボルトを 3.8-4.5 kg.m27-33 ft-lb にトルク締めする。

カッティングユニットの設定を入力する

カッティングユニットについての以下の情報をインフォセンターに入力する

- 刃数 刃数の設定方法 (ページ 28)を参照。
- 刈り込み速度 刈り込み速度の設定方法 (ページ 28)を参照。
- 刈高 刈高の設定方法 (ページ 28)を参照。

注 インフォセンターに入力した刃数、刈り込み速度、刈高を変更するには PIN コードが必要になります。

3

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

手順

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを止め、キーを抜き取り、可動部が完全に停止したのを確認する。
3. 運転前にタイヤ空気圧を点検する タイヤ空気圧を点検する (ページ 69)を参照。

   注 タイヤは空気圧を高く設定して出荷しています。ご使用前にタイヤ空気圧を調整。
4. 後アクスルの潤滑油量を点検する 後アクスルのオイル量を点検する (ページ 71)を参照。
5. ブレーキオイルの量を点検する 油圧オイルの量を点検する (ページ 80)を参照。
6. 機体グリスアップを行う ベアリングとブッシュのグリスアップ (ページ 58)を参照。

   重要 **この作業を怠るとマシンに急激な磨耗が発生しますから注意してください。**
7. フードを開けて冷却液の量を点検する 冷却液の量の点検 (ページ 76)を参照。
8. エンジンオイルの量を点検し、フードを閉じてラッチで固定する エンジンオイルの量を点検する (ページ 62)を参照。

   注 エンジンにはオイルを入れて出荷していますが、初回運転の前後に必ずエンジンオイルの量を確認してください。

4

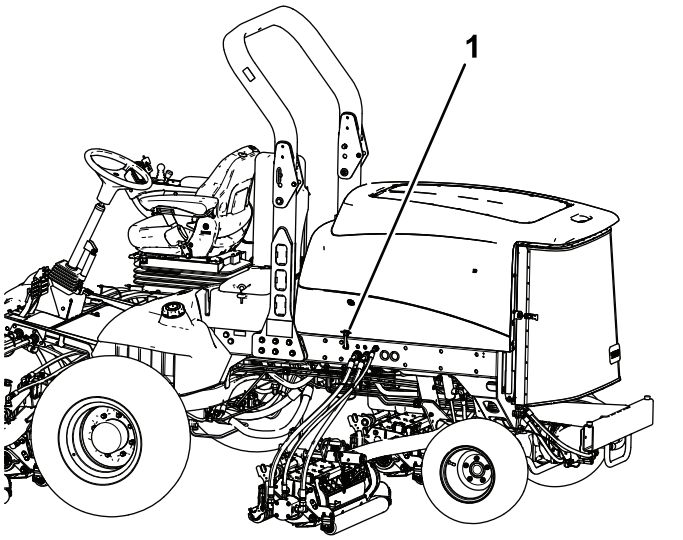
CE 規格に適合させるためにフードにロックを取り付けます。

この作業に必要なパーツ

1	フードロックブラケット
2	リベット
1	ねじ¼ x 2"
2	平ワッシャ ¼"
1	ロックナット¼"

手順

1. フードラッチブラケットからフードラッチを外す図 33。

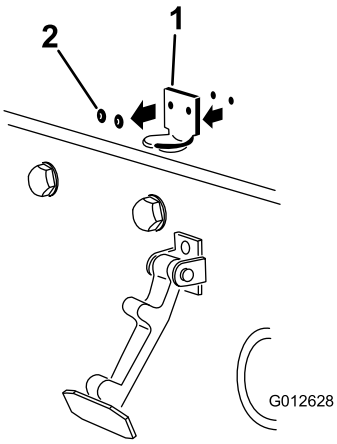


g200373

図 33

1. フードのラッチ

2. フードラッチブラケットをフードに固定しているリベット2本を外す図 34。



g012628

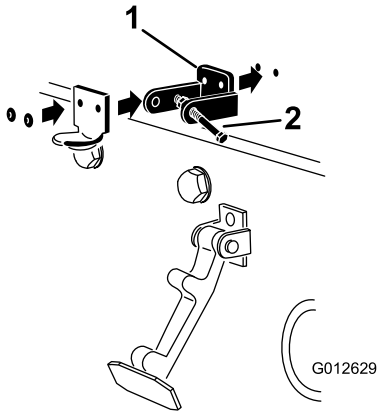
図 34

1. フードラッチブラケット　　2. リベット

3. フードからフードラッチブラケットを外す。
4. CEロックブラケットとフードラッチブラケットの穴を整列させてフードにセットする。

   注 ロックブラケットをフードに当てて取り付ける図 34。

   ロックブラケットアームからボルトナットアセンブリを外してしまわないこと。

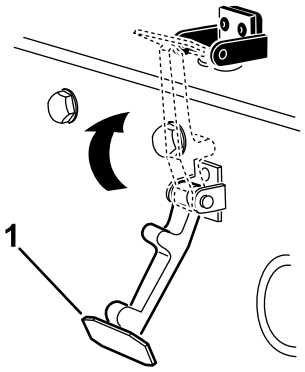


g012629

図 35

1. CE 用ロックブラケット　　2. ボルトナットアセンブリ

5. フードの内側にある穴に、ワッシャを整列させる。
6. ブラケットとワッシャをフードにリベットで固定する図 35。
7. フードラッチブラケットにフックをかける図 36。

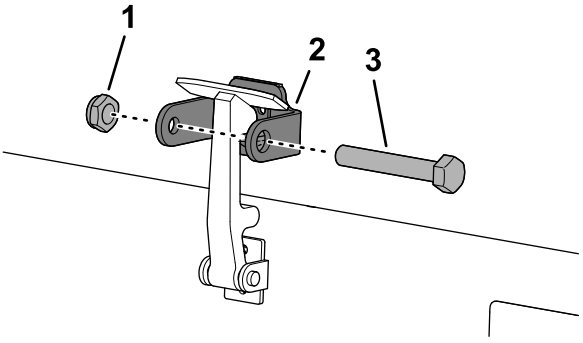


g354465

図 36

1. フードラッチ

8. フードロックブラケットのもう一つのアームにボルトを差し込んでラッチをロックする図 37。



g350021

図 37

1. ボルト　　3. フードロックブラケットのアーム
2. ナット

9. ボルトをしっかりと締め付けるが、ナットは締め付けない。

5

CE デカルを貼り付ける

この作業に必要なパーツ

1	CE 用ステッカー
1	製造年デカル
1	警告表示ステッカー

手順

CE デカル貼付位置

CE デカルフードロック近くのフード上

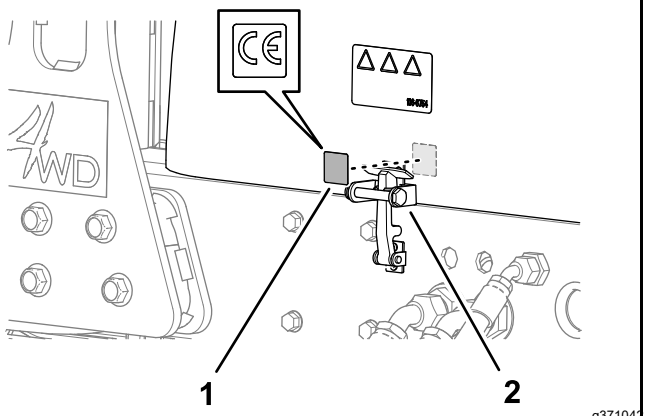


図 38

1.

製造年デカルマシンのフレーム、シリアル番号プレートの近く

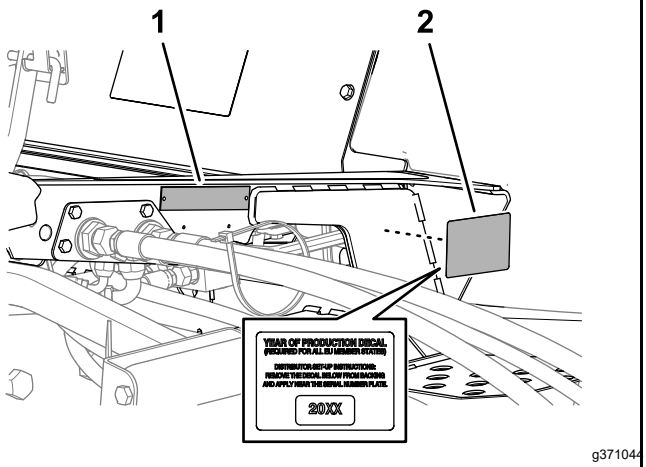


図 39

1. 銘板　　2. 製造年デカル

CE デカル貼付位置 (cont'd.)

CE 警告デカル標準の警告デカルの上から貼り付ける。

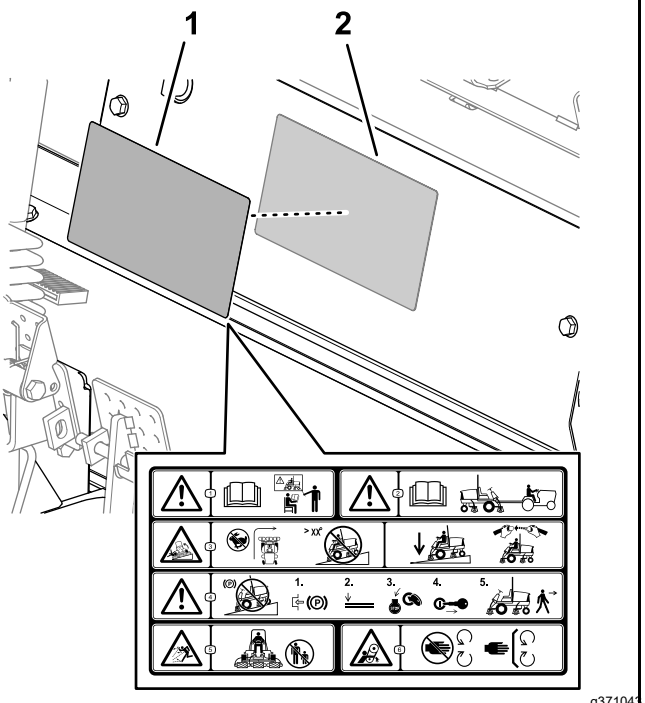


図 40

1. CE 用警告デカル　　2. 標準警告デカル

1. デカル貼付場所の表面をアルコールでぬぐい、ウェスできれいにふき取るCEデカル貼付位置の図を参照。
2. 表面が乾くのを待つ。
3. デカルの裏紙を剥がす。
4. デカルを貼り付ける。
5. 他のデカルにも、ステップ1-4の作業を行う。

製品の概要

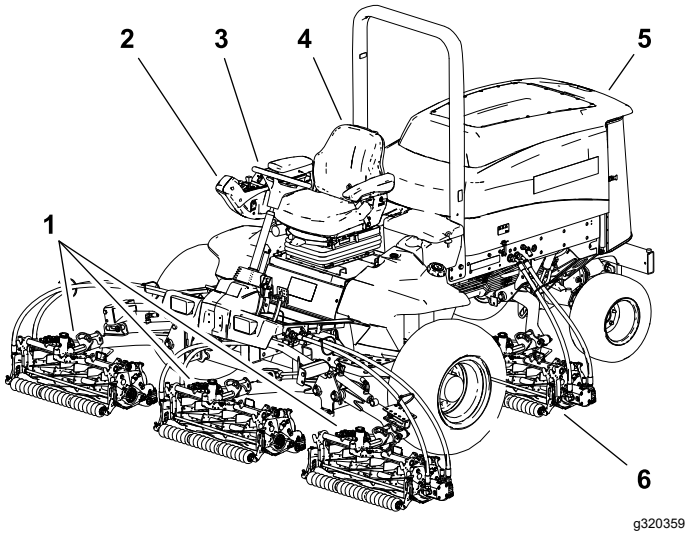


図 41

1. 前カッティングユニット
2. コントロールアーム
3. ハンドル
4. 運転席
5. エンジンフード
6. 後カッティングユニット

各部の名称と操作

ブレーキペダル

2枚のペダル図 42により左右の車輪を独立で制御し、旋回性能、駐車、斜面での走行性能を高めています。

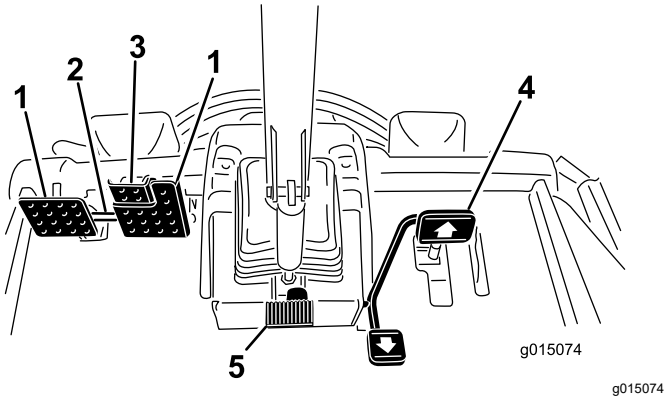


図 42

1. ブレーキペダル
2. ペダルロックのラッチ
3. 駐車ブレーキペダル
4. 走行ペダル
5. チルト調整ペダル

ペダルロックのラッチ

ペダルのロック用ラッチ図 42を使って2枚のペダルを連結して駐車ブレーキを掛けます。

駐車ブレーキペダル

駐車ブレーキ図 42を掛けるには、ペダルロック用ラッチで2枚のペダルを連結し、右ブレーキペダルを踏み込みながら、つま先ペダルを踏み込みます。

注 駐車ブレーキ作動中は、インフォセンターに駐車ブレーキアイコンが表示されます。

ブレーキを解除するには、駐車ブレーキラッチが解除される左右どちらかのペダルを踏み込みます。

走行ペダル

走行ペダル(図 42)は前進走行と後退走行を制御します。走行ペダルの上部を踏み込むと前進、後部を踏み込むと後退します。走行速度はペダルの踏み込み具合で調整します。無負荷刈り込み中でない場合は、エンジン速度スイッチを高速にセット、走行ペダルをいっぱいに踏み込むことにより最高速度で走行できます。

ペダルの踏み込みをやめると、ペダルは中央位置に戻り、走行を停止します。

チルト調整ペダル

ハンドルを手前に寄せたい場合には、ペダル図 42を踏みこみ、ステアリングタワーを手前に引き寄せ、ちょうど良い位置になったら、ペダルから足を離します。

スピードリミットねじ

これらのねじ図 43を使ってペダルの前後への踏み込み深さを制限し、前進速度や後退速度を制限することができます。

重要 **これらのねじは、ポンプのストロークの範囲内で調整してください。ポンプのストローク限界を超えてペダルを踏み込むと、ポンプを破損する可能性があります。**

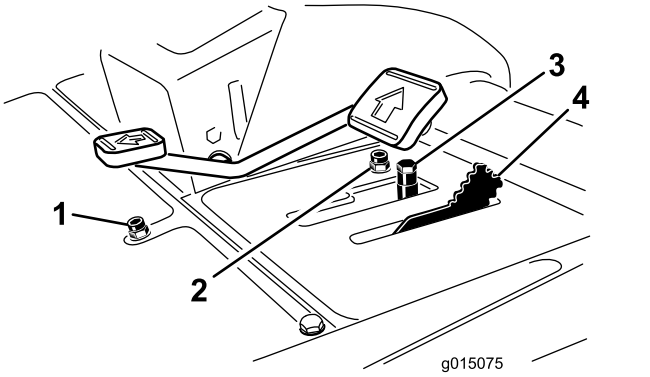


図 43

1. 後退速度制限ねじ
2. 前進速度制限ねじ
3. スペーサ
4. 刈り込み速度リミッタ

刈り込み速度リミッタ

刈り込み速度リミッタ図 43が前方に倒された状態の時、カッティングユニットを作動させることができ、最高

走行速度が制限されます。スペーサの位置を変えることにより、刈り込み速度を変更することができます。移動走行時には、刈り込み速度リミッタを後方に倒してください。最高速度で走行することができます。

カッティングユニット操作レバー

カッティングユニットを昇降させるレバーです図 44。刈り込みモードの時は、このレバーの操作によってリールの回転が ON/OFFします。

注 カッティングユニット昇降レバーが移動走行位置にセットされているときには、カッティングユニットを下降させることができません。

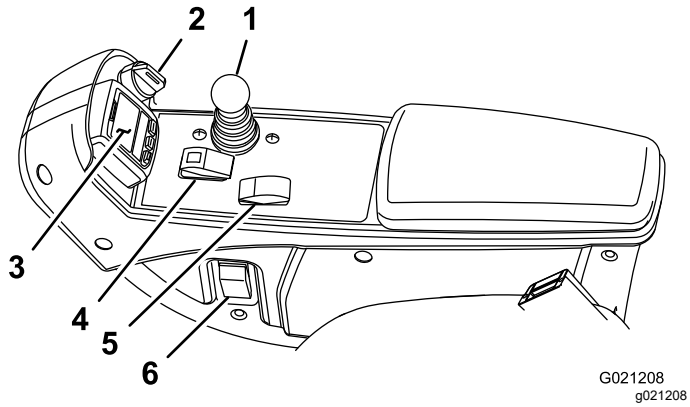


図 44

1. 昇降コントロールレバー
2. キースイッチ
3. インフォセンター
4. PTO スイッチ
5. エンジン速度スイッチ
6. ヘッドライトスイッチ

キースイッチ

キースイッチ図 44には3つの位置があります OFF、ON/PREHEAT、STARTです。

インフォセンター

インフォセンターLCDディスプレイは、マシンの運転状態、故障診断などの情報を表示します図 44。

PTO スイッチ

PTOスイッチ図 44には入と切の2 つの位置があります。PTO ボタンを前に押し込むとカッティングユニットのブレードが回転を開始します。PTO ボタンを後に押し戻すとカッティングユニットのブレードが回転を停止します。

エンジン速度スイッチ

エンジン速度スイッチ図 44は、2つのエンジン速度モードを切り換えます。スイッチを軽くたたくと、エンジン速度を100rpmずつ増加または減少させることができます。スイッチの端を長押しすると、エンジン速度は自動的にハイアイドルまたはローアイドルになります。

ヘッドライトスイッチ

スイッチを押すとヘッドライトが点灯します図 44。

電源ソケット

電動アクセサリ用に電源ソケット図 45から12 Vの電源をとることができます。

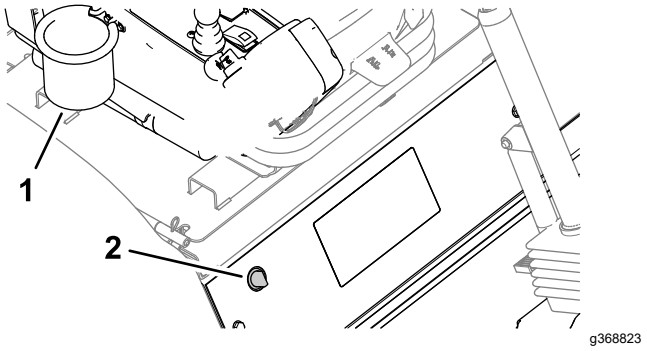


図 45

1. 電源ソケット
2. バッグホルダー

バッグホルダー

バッグホルダー図 45は物入れにお使いください。

バックラップレバー

リールをバックラップする時には、このレバーでカッティングユニットの回転方向を決めます図 46。

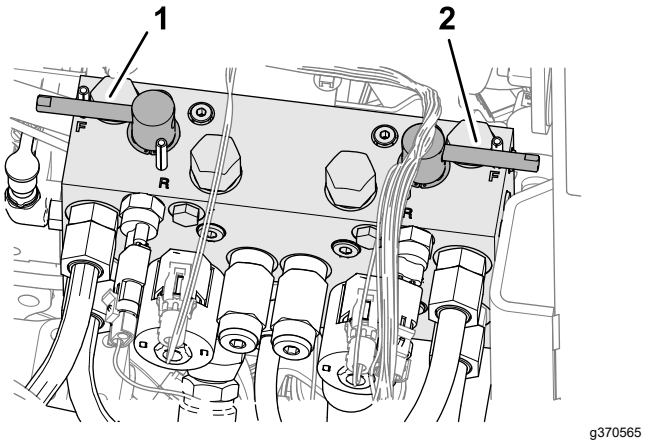


図 46

1. バックラップレバー前カッティングユニット用
2. バックラップレバー後カッティングユニット用

インフォセンターLCDの使い方

インフォセンター LCD は、マシンの運転状態、不具合診断など、マシンに関わる様々な情報を表示します図 47。インフォセンターには初期画面スプラッシュ画面とメイン画面があります。インフォセンターのどのボタンでも、押せば初期画面とメイン画面とをいつでも切り替え

ることができ、また、矢印ボタンで選択することによって、希望する項目の内容を確認することができます。

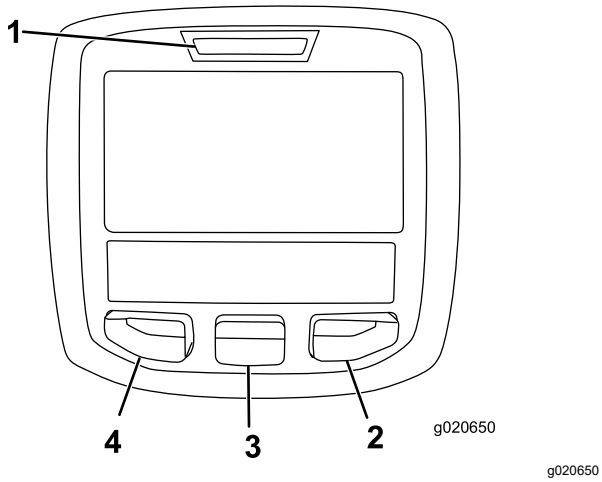


図 47

1. インジケータランプ
2. 右ボタン
3. 中央ボタン
4. 左ボタン

- 左ボタン, メニューアクセス/バック・ボタンこのボタンを押すと、インフォセンターのメニューが表示されます。メニュー表示中にこれを押せばメニューを終了します。
- 中央ボタンメニューを下向きにスクロールするときに使います。
- 右ボタン右向き矢印が表示されたとき、その先にあるメニュー項目を見るために使用します。
- 手動ファン逆転左右のボタンを同時に押すとファンが逆転します。
- ブザーデッキを下降させるときや、故障発見時などに音が鳴ります。

注 各ボタンの機能はメニューの内容によって、変わります。各ボタンについて、その時の機能がアイコンで表示されます。

インフォセンターのアイコン

SERVICE DUE定期整備時期です	定期整備時期であることを示します
	次の整備までの時間
	整備時間をリセット
n min	Engine rpm/statusエンジン速度を表示します
i	情報アイコン
	アワーメータ
	高速

インフォセンターのアイコン (cont'd.)

	低速
	ファン逆転ファンが逆転しているときに表示されます
	静止再生を実施する必要があります
	エアインテークヒーターが作動中
	カッティングユニット上昇
	カッティングユニット下降
	オペレータが着席している必要があります
(P)	駐車ブレーキ作動表示駐車ブレーキが掛かっていることを示します
H	レンジが「高速」
N	ニュートラル
L	レンジが「低速」
	冷却液温度エンジンの冷却液の温度を °C または °Fで表示します。
	温度高温
	禁止または不許可
	PTOが入っています
	エンジン始動
STOP	停止またはシャットダウン
	エンジン
	キースイッチ
	カッティングユニットが下降中であることを示します
	カッティングユニットが上昇中であることを示します

PIN	PIN コード
	油圧オイル温度油圧オイルの温度を表示します
CAN	CAN バス
	インフォセンター
Bad	不良または故障
	電球
OUT	TEC コントローラまたはコントロールワイヤハーネスからの出力
HI	高許容範囲を超えています
LO	高許容範囲に達していません
HI/LO	所定範囲外
	スイッチ
	スイッチを解除する必要があります
	表示されているモードに切り換えてください
表示記号を組み合わせた文章が表示されます。以下に文章の例を示します	
N	マシンをニュートラルにセットしてください。
	エンジンの始動許可がおりません。
STOP	エンジンをシャットダウンします
	冷却液が過熱しています
	油圧オイルが過熱しています。
	NOx コントロール診断の不具合管理棟に帰って Toro 正規代理店に連絡することソフトウェアバージョン F 以降。

インフォセンターのアイコン (cont'd.)

48.1g/l	DPFの粒子蓄積表示詳細は「保守」の章の DPF への灰の蓄積 (ページ 40)の項を参照。
or	着席するか駐車ブレーキをかけてください

アクセスには PIN の入力が必要です

メニューの使い方

インフォセンターのメニューにアクセスするには、メニュー画面が表示されているときにメニューアクセスボタンを押します。ボタンを押すとメインメニューが表示されます。各メニューにおいてどのような内容が表示されるかは、以下の表をご覧ください。

メインメニュー	
メニュー項目	**内容**
Faults不具合	不具合メニューには、最近に記録された不具合が表示されます。 *サービスマニュアル*にFaults メニューおよびその内容の詳細が解説されています。または弊社ディストリビュータにお問い合わせください。
整備作業	整備メニューでは、使用時間積算記録などの情報を見ることができます。
Diagnostics診断機能	診断メニューでは、各スイッチ、センサー、制御出力の状態が表示されます。どのコントロール装置がONになっており、どれがOFFになっているかが表示されますから、故障探究を手早く行うことができます。
Settings設定	設定メニューではインフォセンターの表示や機械の設定を変更することができます。
Aboutマシンについて	このメニュー項目では、モデル番号、シリアル番号、ソフトウェアのバージョンなどを確認することができます。

Service整備	
メニュー項目	**内容**
Hours運転時間	マシン、エンジン、リール、およびPTOが使用されていた時間およびマシンが移動走行していた時間と定期整備までの時間が記録されており、これらを確認することができます
Counts回数	マシンに発生した様々な事象の回数を表示します

Diagnostics診断機能	
メニュー項目	**内容**
Cutting Unitsカッティングユニット	カッティングユニットを上昇・下降させるための入力、許可、出力の状態を表示します
Hi/Low レンジ	移動走行モードで運転を行うための入力、許可、出力の状態を表示します
PTO	PTO回路を作動させるための入力、許可、出力の状態を表示します
Engine Runエンジン作動	エンジンを始動させるための入力、許可、出力の状態を表示します
Backlapバックラップ	バックラップを行うための入力、許可、出力の状態を表示します

Settings設定	
メニュー項目	**内容**
Units単位	インフォセンターで使用する単位ヤードポンド法またはメートル法を選択できます
Language言語	インフォセンターの表示に使う言語を選択することができます*
LCD Backlightバックライト	LCD 表示の明るさを調整します
LCD Contrastコントラスト	LCD 表示のコントラストを調整します
Front Backlap Reel Speed前ユニットのバックラップ速度	前方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します
Rear Backlap Reel Speed後ユニットのバックラップ速度	後方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します
Protected Menus保護項目	許可された人が PIN コードを入力してアクセスできます
Auto Idleオートアイドル 🔒	マシンの運転操作をしていない状態から自動的にアイドリングに移行するまでの時間の長さを設定します
Blade Count刃数 🔒	リール速度を計算するために必要な刃数です
Mow Speed刈込速度🔒	リール速度を決定するために必要な走行速度です
Height of cut HOC刈高 🔒	リール速度を決定するために必要な刈高です
F Reel RPM前リール rpm 🔒	前リールの回転速度計算値を表示します。リール速度は手動で調整することもできます
R Reel RPM後リール rpm 🔒	後リールの回転速度計算値を表示します。リール速度は手動で調整することもできます

*「オペレータ向け」のメッセージのみが翻訳表示されます。故障、整備、診断の画面は「整備士向け」メッセージです。タイトルは選択された言語で表示されますが、本文は英語表示となります。

🔒 保護メニューで保護されます — アクセスには PIN の入力が必要です

About マシンについて	
メニュー項目	**内容**
Modelモデル	マシンのモデル番号を表示します。
SN	マシンのシリアル番号を表示します。
Machine Controller Revisionコントローラ改訂番号	マスターコントローラのソフトウェアの改訂番号を表示します。
インフォセンターの改定番号	インフォセンターのソフトウェアの改訂番号を表示します。
CAN Bus	マシン内部の通信状態を表示します。

Protected Menus保護項目

インフォセンターの「設定」メニューで変更可能な項目は7つありますオートアイドル待ち時間、刃数、刈り込み速度、刈高、前リール速度、および後リール速度です。これらの設定は、「パスワード保護メニュー」で保護することができます。

注 納品時のパスワードは、代理店にて設定しています。

アクセス制限付きメニューへのアクセス

注 出荷時に設定されている デフォルト PIN は 0000 または 1234 です。

PIN を変更後、PIN を忘れてしまった場合には、弊社ディストリビュータにご相談ください。

1. MAINメインメニューから中央ボタンで下へスクロールしていくとSETTINGS設定メニューがありますから、ここで右ボタンを押します図 48。

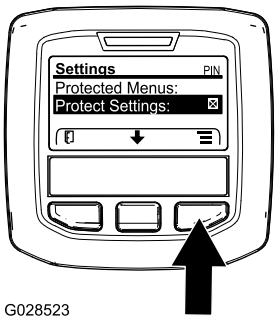
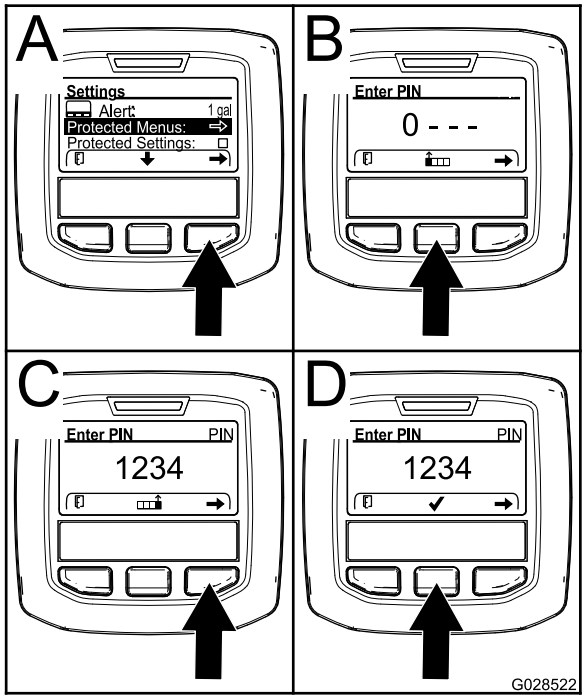


図 48

2. SETTINGSメニューから中央ボタンで下へスクロールしていくとPROTECTED 保護メニューがありますから、ここで右ボタンを押します図 49A。



g028522

図 49

3. パスワードを入力するには、中央ボタンを何度か押して最初の桁へ入力します。その後に右ボタンを押すと次の桁へ移動します図 49B と図 49C。これを繰り返して最後の桁まで入力を終えたら、もう一度右ボタンを押します。
4. 中央ボタンを押して PIN コードを登録します図 49D。

   インフォセンターの赤ランプが点灯するまで待ちます。

   注 インフォセンターが PIN コードを受け付けて保護メニューが開くと、画面右上の部分に PIN という表示が現れます。

注 キーを OFF 位置にし、もう一度ONにすると、保護メニューがロックされます。

「保護メニュー」の設定内容を閲覧・変更することができます。「保護メニュー」にアクセスしたら、下へスクロールして「設定を保護」Protect Settingsへ進みます。右ボタンを使って設定を変更します。Protect Settings設定を保護をOFFにすると、PIN コードを入力しなくても、保護メニューの内容を閲覧・変更することができるようになります。「設定を保護」をONにすると、保護されている内容は表示されなくなり、これらを閲覧・変更するには PIN コードの入力が必要となります。PIN コードを入力した時は、キースイッチを OFF にし、もう一度キーを ON にすると、このパスワードが記憶されます。

オートアイドルAuto Idleの設定方法

1. 設定メニューSettings Menuにて下へスクロールすると「オートアイドルAuto Idle」があります。
2. 右ボタンを使って、オートアイドル時間を、OFF, 8S, 10S, 15S, 20S, および 30S から選択します。

刃数の設定方法

1. 設定メニューSettings Menu下へスクロールすると「Blade Count」があります。
2. 右側のボタンを使用して、刃数を 5、8 または 11 から選択してください。

刈り込み速度の設定方法

1. 設定メニューSettings Menu下へスクロールすると「Mow Speed」があります。
2. 右側のボタンを使用して、刈り込み速度を選択してください。
3. 中央の右側のボタンを使って、走行ペダルの速度リミッタに、適当な刈り込み速度を設定してください。
4. 設定が終了したら左ボタンを押すと、設定内容を保存して設定が終了します。

刈高の設定方法

1. 設定メニューSettings Menu下へスクロールすると「HOC」があります。
2. 右側のボタンを使用して、刈高を選択してください。
3. 中央の右側のボタンを使って、適当な刈高を設定してください。

   注 ご希望の通りの刈高が表示されない場合には、表示されている数値の中から最も近いものを選んでください。
4. 設定が終了したら左ボタンを押すと、設定内容を保存して設定が終了します。

前後のリール速度の設定方法

前後のリールの速度は、刃数、刈り込み速度および刈高からインフォセンターが自動的に計算しますが、いろいろな刈り込み条件に対応するために速度設定を手動で変更することができるようになっています。

1. 変更するには、F Reel RPM、R Reel RPM またはその両方までスクロールしてください。
2. 右側のボタンを使用して、リール速度を変更してください。設定の変更をしているとき、ディスプレイには、刃数、刈り込み速度および刈高に基づいて計算された以前と同じリール速度が表示されていますが、新しく入力した速度値も表示されます。

仕様

注 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

トラクションユニットの仕様

刈り込み幅27" カッティングユニット	307 cm
刈り込み幅32" カッティングユニット	320 cm
全幅27" ユニット降下時	345 cm
全幅32" ユニット降下時	358 cm
全幅カッティングユニット上昇時	239 cm
全長	370 cm
高さROPSを含む	220 cm
トレッド前輪	229 cm
トレッド後輪	141 cm
ホイールベース	171 cm
純重量カッティングユニットと油脂類を含まない	1574 kg

アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください 弊社のウェブサイト www.Toro.com でもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

いつも最高の性能と安全性を維持するために、必ずToroの純正部品をご使用ください。他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

運転操作

運転の前に

運転前の安全確認

安全に関する一般的な注意

- 子供やトレーニングを受けていない大人には、絶対に運転や整備をさせないでください地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。オーナーは、オペレータ全員にトレーニングを受講させる責任があります。
- 安全な運転操作、各部の操作方法や安全標識などに十分慣れておきましょう
- 運転席を離れる前に
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- エンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
- ガードなどの安全保護機器が正しく機能していない時は、運転しないでください。
- 使用前に必ず、カッティングユニットの点検を行ってください。
- これから機械で作業する場所をよく確認し、機械に巻き込まれそうなものはすべて取り除きましょう。
- この製品は電磁場を発生させます。植込み型の電子医療機器を装着している方は、本製品を使用する前に専門家に相談してください。

燃料についての安全事項

- 燃料の取り扱いに際しては安全に特にご注意ください。燃料は引火性が高く、気化すると爆発する可能性があります。
- 燃料取り扱い前に、引火の原因になり得るタバコ、パイプなど、すべての火気を始末してください。
- 燃料の保管は必ず認可された容器で行ってください。
- エンジン回転中などエンジンが高温の時には、燃料タンクのふたを開けたり給油したりしないでください。
- 締め切った場所では燃料の補給や抜き取りをしないでください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管格納しないでください。
- 燃料がこぼれたら、エンジンを始動せずにマシンを別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分

に拡散するまで引火の原因となるものを近づけないでください。

燃料を補給する

燃料タンク容量

83 リットル

燃料についての仕様

重要 **超低イオウ軽油以外の燃料は使用しないでください。イオウ分の多い燃料は、DOC排ガス酸化触媒を劣化させ、運転トラブルを発生させ、エンジンの各機器の寿命を縮めます。**

以下の注意を守らないと、エンジンを破損させる場合があります。

- 絶対に、ディーゼル燃料の代わりに灯油やガソリンを使わないでください。
- 絶対に、灯油やガソリンをディーゼル燃料に混入しないでください。
- 絶対に、内面に亜鉛メッキされている容器で燃料を保管しないでください。
- 燃料用添加剤を使用しないでください。

ディーゼル燃料

セタン値 45 以上

イオウ含有率 超低イオウ<15ppm

燃料表

ディーゼル燃料の仕様	地域
ASTM D975 No. 1-D S15 No. 2-D S15	USA
EN 590	EU 諸国
ISO 8217 DMX	米国外
JIS K2204 Grade No. 2	日本
KSM-2610	大韓民国

- 不純物のない新しい軽油またはバイオディーゼル燃料を使用してください。
- 燃料の劣化を避けるため、180日以内に使いきれる程度の量を購入するようにしてください。

気温が -7℃ 以上では夏用燃料2号軽油を使用しますが、気温が -7℃ 以下の季節には冬用燃料1号軽油または1号と2号の混合を使用してください。

注 低温下で冬用ディーゼル燃料を使うと、発火点や流動点が下がってエンジンが始動しやすくなるばかりでなく、燃料の成分分離ワックス状物質の沈殿によるフィルタの目詰まりを防止できるなどの利点があります。

気温が -7° 以上の季節には夏用燃料を使用する方が、燃料ポンプの寿命を延ばします。

バイオディーゼル

この機械はバイオディーゼル燃料を混合したB20燃料バイオディーゼル燃料が20、通常軽油が80を使用することができます。

イオウ含有率 超低イオウ<15ppm

バイオディーゼル燃料の仕様 ASTM D6751 または EN14214

ブレンド燃料の仕様ASTM D975、EN590 または JIS K2204

重要 **ただし、混合されている軽油のイオウ含有量は極低レベルである必要があります。**

以下の注意を守ってお使いください。

- 着色したターフを汚す可能性があります。
- 寒い地方ではB5バイオディーゼル燃料が5またはそれ以下の製品を使用すること。
- 時間経過による劣化がありうるので、シール部分、ホース、ガスケットなど燃料に直接接する部分をまめに点検すること。
- バイオディーゼル燃料に切り換えた後に燃料フィルタが詰まる場合がある。
- バイオディーゼル燃料について、より詳細な情報は弊社正規代理店におたずねください。

燃料を補給する

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 燃料タンクの補給口付近をよごれのないウェスできれいにぬぐう。
3. 燃料タンクのキャップ図 50を取る。

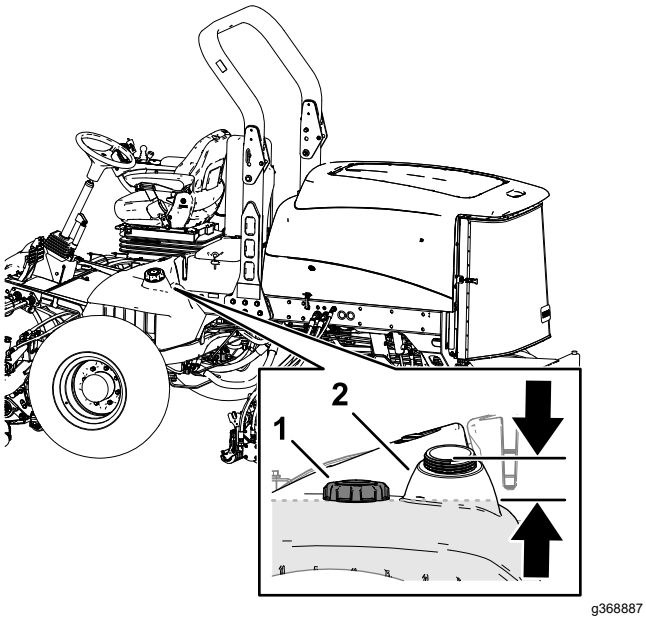


図 50

1. 燃料タンクのキャップ　　2. 補給管

4. 補給管の下まで所定の燃料を入れる。
5. 燃料タンクのキャップをしっかりとはめる。

注 可能であれば、作業後に毎回燃料を補給しておくようにしてください。これにより、燃料タンク内の結露を最小限にすることができます。

毎日の整備作業を実施する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

毎日の運転前に、保守 (ページ 53)に記載されている「使用ごと/毎日の典型整備」を行ってください。

インタロックスイッチの動作を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

⚠ 注意

インタロックスイッチは安全装置でありこれを取り外すと予期せぬ人身事故が起こり得る。

- **インタロックスイッチをいたずらしない。**
- **作業前にインタロックスイッチの動作を点検し、不具合があれば作業前に交換修理する。**

重要 **インタロック作動試験を1つでも合格できない場合には、弊社ディストリビュータに連絡してください。**

マシンの準備を行う

1. ゆっくりとした速度で、広い場所に移動する。
2. カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させて、駐車ブレーキを掛ける。

走行ペダルのスタートインタロック試験

1. 運転席に座る。
2. 駐車ブレーキを掛ける。
3. PTO スイッチを切位置にする。
4. 走行ペダルを踏み込む。
5. キーを START 位置に回す。

注 走行ペダルを踏んでいるとスタータが動作しないのが正常。

PTO 起動インタロックの点検

1. 運転席に座る。
2. PTO スイッチを入位置にする。
3. エンジンを掛ける。

注 PTO スイッチが入位置にある場合はエンジンが始動できないのが正常。

PTO 作動インタロックの点検

1. 運転席に座る。
2. PTO スイッチを切位置にする。
3. エンジンを掛ける。
4. 運転席から立ち上がる。
5. PTO スイッチを入位置にする。

注 オペレータが着席していない場合は PTO が作動しないのが正常。

駐車ブレーキおよび走行ペダルの走行インタロック試験

1. 運転席に座る。
2. 駐車ブレーキを掛ける。
3. PTO スイッチを切位置にする。
4. 走行ペダルから足を離したままにする。
5. エンジンを掛ける。
6. 走行ペダルを踏み込む。

注 駐車ブレーキが掛かった状態で走行ペダルを踏み込むとエンジンが停止するのが正常。

座席を調整する

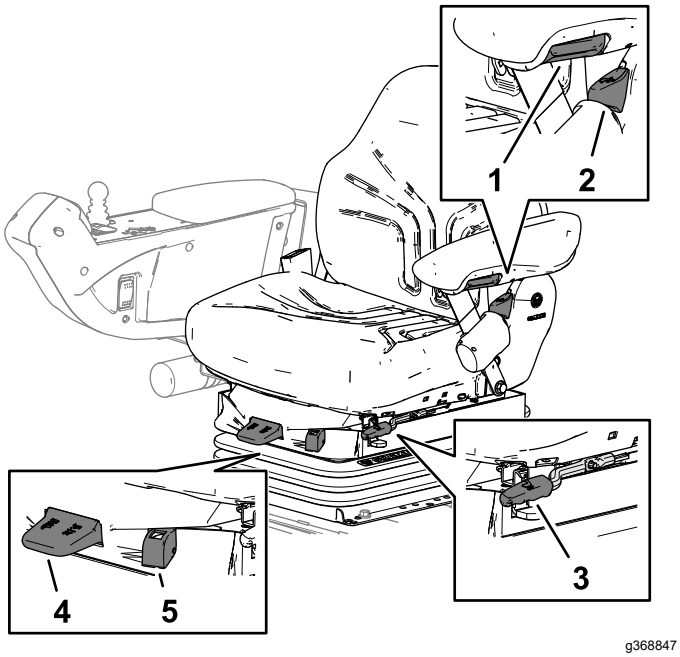


図 51

1. アームレスト調整ノブ
2. 座席背板調整レバー
3. 前後調整レバー
4. 体重調整レバー
5. 体重調整ゲージ

運転席アームレスト調整ノブ

ノブを回してアームレストの角度を調整することができます図 51。

背板調整レバー

レバー動かしてシートの背板の角度を調整します(図 51)。

前後調整レバー

レバーを外側に引いて座席を前後に移動させます図 51。

体重調整レバー

体重に合わせて調整します図 51。レバーを引き上げると空気圧が高くなり、押し下げると低くなります。体重ゲージが緑色の範囲に入れば、調整は適切です。

体重調整ゲージ

適正に調整できると、インジケータに表示が出ます図 51。高さ調整は、緑色の範囲内でサスペンションの位置を変えて行ないます。

運転中に

運転中の安全確認

安全に関する一般的な注意

- オーナーやオペレータは自分自身や他の安全に責任があり、オペレータやユーザーの注意によって物損事故や人身事故を防止することができます。
- 作業にふさわしい服装をし、安全めがね、長ズボン、頑丈で滑りにくい安全な靴、および聴覚保護具を着用してください。長い髪は束ねてください。ゆるい装飾品やだぶついた服は身に着けないでください。
- 疲れている時、病気の時、アルコールや薬物を摂取した時は運転しないでください。
- この機械を運転する時は常に十分な注意を払ってください。運転中は運転操作に集中してください注意散漫は事故の大きな原因となります。
- エンジンを掛ける前に、全部の駆動装置がニュートラルであること、駐車ブレーキが掛かっていることを確認し、運転席に着席してください。
- 人を乗せないでください。また、作業中は周囲から人、特に子供を十分に遠ざけてください。
- 運転は、穴や障害物を確認できる十分な照明のもとで行ってください。
- ぬれた芝の刈り込みは避けてください。接地力が落ちてスリップする危険が高くなります。
- カッティングユニットに手足を近づけないでください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは安全に十分注意してください。
- 刈り込み中以外は必ずカッティングユニットを止めておいてください。
- 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。常に道を譲る心掛けを。
- エンジンは換気の十分確保された場所で運転してください。排気ガスには致死性ガスである一酸化炭素が含まれています。
- エンジンの掛かっているマシンからは離れないでください。
- 運転席を離れる前に
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。

- 機械の運転は十分な視界の確保ができる適切な天候条件のもとで行ってください。落雷の危険がある時には運転しないでください。
- クルーズコントロールが装備されている場合は、広く、平坦で障害物のない場所で、マシンが一定の速度で連続走行できる場合にのみ使用してください。

横転保護バーROPSについての安全確認

- POPS 構成物は一切機体から外さないでください。
- 必ずシートベルトを着用し、緊急時にはシートベルトを迅速に外せるよう練習しておいてください。
- 運転時には必ずシートベルトを着用してください。
- 頭上の障害物に注意し、これらに衝突しないように注意してください。
- ROPS自体に損傷がないか、また、取り付け金具がゆるんでいないか、定期的に十分に点検を行い、万一の際に確実に役立つようにしておいてください。
- ROPS が破損した場合はすべて新しいものに交換してください。修理したり改造しての使用はしないでください。

折りたたみ式 ROPS 搭載機

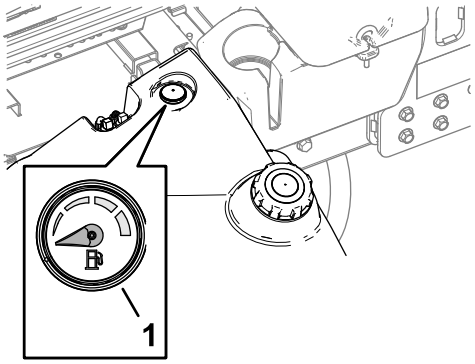
- ROPSは立てた状態にセットし、必ずシートベルトと共にお使いください。
- ROPS横転保護バーはマシンと一体で使用する重要な安全装置です。運転するときには必ずROPS横転保護バーを運転位置に立て、シートベルトを着用してください。
- どうしても必要なわずかの時間以外には ROPS を降ろさないでください。。ROPS を下げた状態で乗車する時にはシートベルトをしないでください。
- ROPS を折りたたんでしまうと、転倒時に安全保護ができなくなることを十分認識してください。
- 作業場所を必ず事前に確認してください。法面、段差、水などがある現場では、必ず ROPS を立てて運転してください。

斜面での安全確保

- 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。斜面での安全運転はオペレータの責任です。どんな斜面であっても、通常以上に十分な注意が必要です。
- 斜面については、実地の測定を含めてオペレータ自身が調査を行い、安全に作業ができるかどうかを判断してください。この調査においては、常識を十分に働かせてください。
- 以下に挙げる、斜面で運転する場合の安全上の注意を必ず読んで内容をしっかり理解してください。実際に運転する前に、現場の状態をよく観察し、その日その場所でこのマシンで安全に作業ができるかどうかを判断してください。同じ斜面上であっても、地表面の条件が変われば運転条件が変わります。
  - 斜面での発進・停止・旋回は避けてください。急に方向を変えたり急な加速やブレーキ操作をしないでください。旋回は速度を落としてゆっくりと行ってください。
  - 走行、ステアリング、安定性などに疑問がある場合には運転しないでください。
  - 隠れた穴、わだち、盛り上がり、石などの見えない障害は、取り除く、目印を付けるなどして警戒してください。深い芝生に隠れて障害物が見えないことがあります。不整地では機体が転倒する可能性があります。
  - ぬれ芝、急斜面など滑りやすい場所で運転すると滑って制御できなくなる危険があります。
  - 段差、溝、盛り土、水などの近では安全に十二分の注意を払ってください。万一車輪が段差や溝に落ちたり、地面が崩れたりすると、機体が瞬時に転倒し、非常に危険です。必ず安全距離を確保してください。
  - 斜面に入る前に、安全の判断をしてください。乗用の刈り込み機械で斜面を刈り込むことに危険が感じられる場合は歩行型の機械をお使いください。
  - 斜面では可能なかぎりカッティングユニットを地表面まで下げておいてください。斜面上でカッティングユニットを上昇させると機体が不安定になる恐れがあります。

燃料計

燃料系図 52はタンク上部にあります。燃料残量を確認できます。



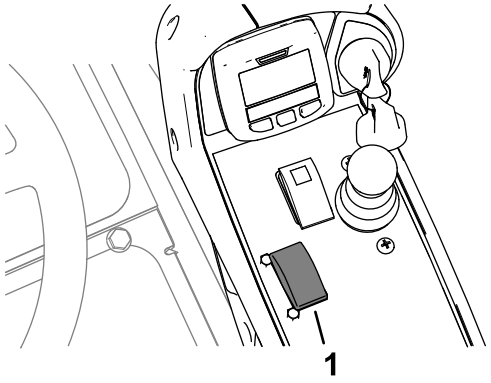
g368967

図 52

1. 燃料計

エンジン速度スイッチの使い方

エンジン速度スイッチは、2つのエンジン速度モードを切り換えます。



g370600

図 53

1. エンジン速度スイッチ

- スイッチを軽くたたくと、エンジン速度を100rpmずつ増加または減少させることができます。
- スイッチを長押しすると、エンジン速度は自動的にハイアイドルまたはローアイドルになります。

エンジンの始動手順

重要 **以下の場合には、燃料システムのエア抜きを実施する必要があります**

- 燃料切れでエンジンが停止した場合。
- 燃料系統の整備作業を行った時。

1. 運転席に座り、駐車ブレーキを掛け、走行ペダルから足を離す。
2. エンジン速度スイッチを押してローアイドル位置にする。
3. キーを RUN 位置に回す。

   注 インフォセンターにグロープラグインジケータが表示される。
4. グローインジケータが消えたら、キーをSTART位置に回す。

   重要 **スタータモータのオーバーヒートを防止するため、スタータは15秒間以上連続で回転させないでください。15秒以内にエンジンを始動できなかった場合には、キーを一度 OFF 位置に戻し、各設定および始動手順が正しいことを確認の上、15秒間の間隔をあけてもう一度始動を試みてください。**

   気温が -7°C 未満のときは、スタータモータを 30 秒間連続で作動させられます。その後は 60 秒間休止してください。2回まで可能です。
5. エンジンが始動したら、キーから手を離す。
6. エンジン速度の調整を行う。

エンジンの停止手順

1. 平らな場所に駐車する。
2. PTO スイッチを切位置にする。
3. エンジン速度スイッチを押してローアイドル位置にする。
4. 駐車ブレーキを掛ける。
5. カッティングユニットを下降させる。

   重要 **カッティングユニットを下降させると油圧系統の負荷がなくなり、各部やパーツの磨耗が少なくなるだけでなく、カッティングユニットが不意に落下するなどの事故を防ぐことができます。**
6. 最大負荷で作業を行った後は、5分間のアイドル時間を設けてください。

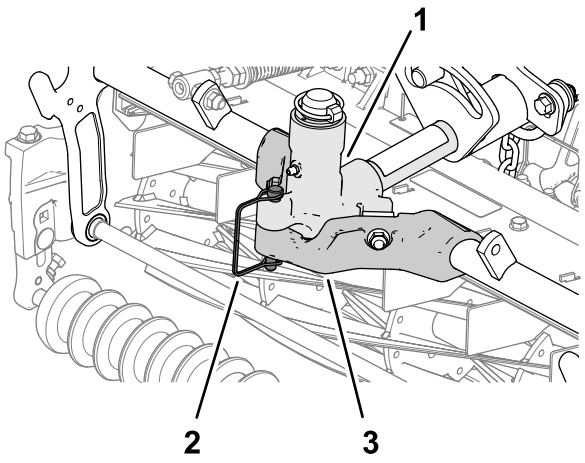
   重要 **これは、エンジンを停止する前にターボチャージャの温度を下げるための措置です。これを怠るとターボチャージャにトラブルが発生する可能性があります。**
7. キーを OFF 位置にして抜き取る。
8. すべての動作が停止するのを待つ。

カッティングユニットのピボット動作を禁止する

斜面を刈り込む時

斜面を横断しながら刈り込む時は、カッティングユニットが谷側にずれないようにカッティングユニットのピボット造作を止めておきます。

1. 図 54のように、カッティングユニットのキャリアフレームをピボットヨークにスナッパピンで固定する。



g368742

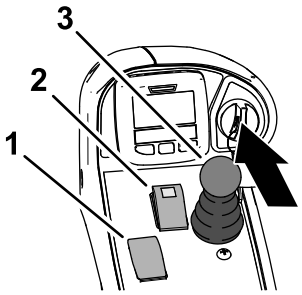
図 54

1. ピボットヨーク
2. スナッパピン
3. キャリアフレームカッティングユニット

2. 残りの後カッティングユニットにも、ステップ1の作業を行う。

刈り込み

1. 作業現場に移動し、刈り込みの一列目に合わせてマシンを待機させる。
2. PTOスイッチが 切 であることを確認する図 55。

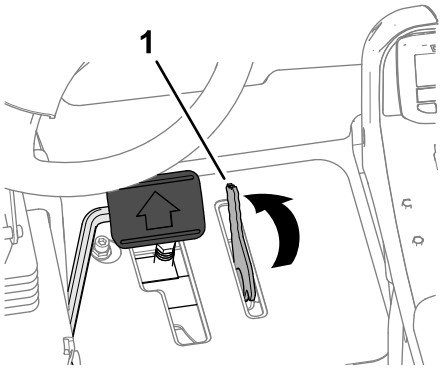


g370798

図 55

1. エンジン速度スイッチ
2. PTO スイッチ
3. 昇降コントロールレバー

3. 足先で刈り込み速度リミッタを前方に倒して刈り込み位置にする図 56。



g370797

図 56

1. 刈り込み速度リミッタ

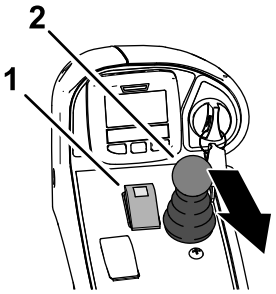
4. スロットル速度スイッチを、エンジン速度ハイアイドルにセットする。
5. PTO スイッチを入位置にする。
6. 刈り込み場所に乗り入れ、昇降コントロールレバーを前に倒す。

   注 カッティングユニットが下降して回転を開始する。前カッティングユニットが降りた後に後カッティングユニットが降りてきます

   注 エンジンに過大な負荷を掛けるような刈り込みをすると、より多くの DPF 再生が必要になります。
7. 列の最後まできたら刈り込み速度リミッタを後方に動かしてカッティングユニットを上昇させる。
8. 雨だれ形に旋回して次の列に入る準備を行う。

移動走行モードでの運転

1. PTO スイッチを押して切位置にする図 57。

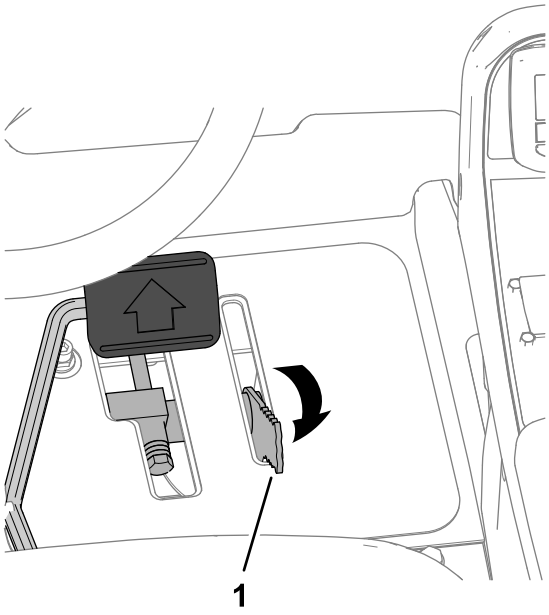


g370799

図 57

1. PTO スイッチ
2. 昇降コントロールレバー

2. 昇降コントロールレバーを引いてカッティングユニットを上昇させる移動走行位置。
3. 刈り込み速度リミッタを後方に動かして 移動走行位置にする図 58。



g370687

図 58

1. 刈り込み速度リミッタ

4. 走行ペダルを踏み込んで移動を開始する。

   重要 **狭い場所を通り抜ける時、カッティングユニットをぶつけて損傷しないよう十分注意してください。斜面の通行には最大の注意を払ってください。また、転倒事故を防止するために、速度の出しすぎや急旋回に十分注意してください。**

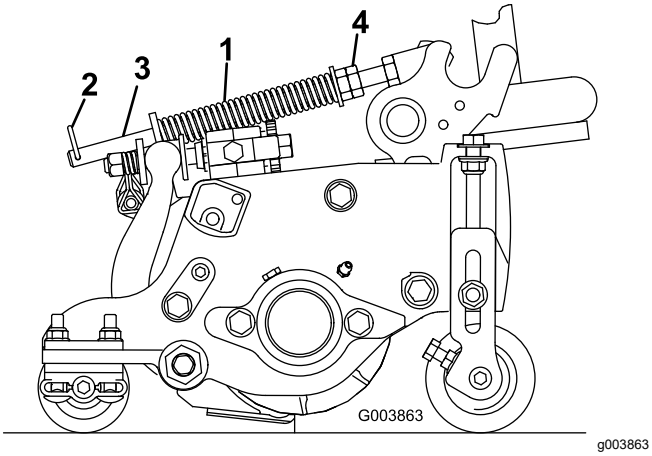
ターフ補正スプリングを調整する

ターフ補正スプリング図 59は、カッティングユニットの前ローラから後ローラへの「体重移動」を行う働きがあります。これにより、マーセリングやボビングと呼ばれる「波打ったような」仕上がりを防いでいます。

重要 **この調整は、カッティングユニットをトラクタに取り付け、ユニットを真っ直ぐ前に向けて床に降ろした状態で行ってください。**

1. スプリングロッドの後の穴にヘアピンが差し込まれていることを確認してください図 59。

   注 カッティングユニットの整備を行う場合には、ヘアピンを、ターフ補正スプリングの隣にあるスプリングロッドの穴に移してください。



g003863

図 59

1. ターフ補正スプリング
2. ヘアピン
3. スプリングロッド
4. 六角ナット

2. スプリングロッド前部の6角ナットを締めて、スプリング圧縮状態の長さが159 mm になるようにする図 59を参照。

   注 アップダウンの激しい場所で使用する時には、スプリングの長さを 13 mmに調整してください。地表追従性が若干下がります。

   注 刈高や刈り込みの強さを変更した場合には、ターフ補正スプリングの設定の確認、調整が必要になります。

カッティングユニットのカウンタバランスの調整

後カッティングユニット

⚠ 注意

スプリングには強い張力がかかっており、不用意に取り扱うとけがをする。

スプリングを調整する時には十分注意すること。

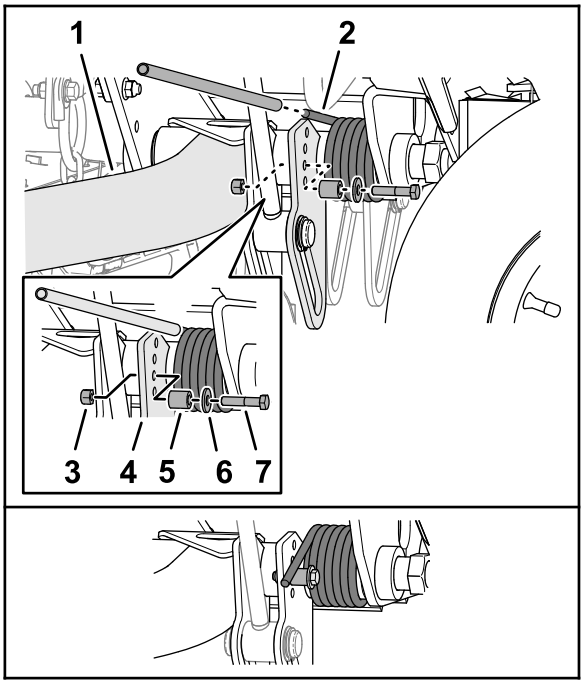
凹凸の激しいターフで一定の刈高にカット、サッチが厚くたまっているターフで削らないように刈るなど、様々なターフ条件に合わせて、後カッティングユニットのカウンタバランスの押圧を調整することができます。

各トーションスプリングのカウンタバランスの押圧力を4 種類の設定から選択します。位置をつずらすごとに、カッティングユニットに掛かる押圧が 2.3kg 増加または減少します。

注 カウンタバランスの押圧をゼロにする場合は、トーションスプリングの長い脚をキャップスクリュ、ワッシャ、スペーサ、ロックナットの下にセットします。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. スプリングの長い方の脚にパイプなどを被せて脚を持ち上げてスペーサに掛かっている圧力を解放する図 60。

   注 一人がスプリングの脚を持ち上げ、もう一人が設定をすると良いでしょう。



g370761

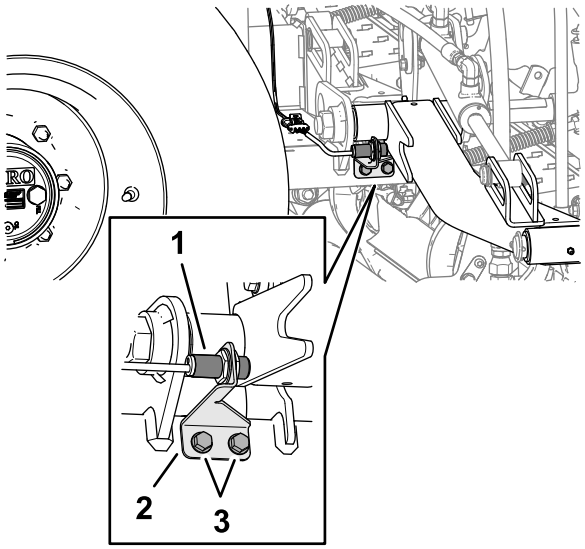
図 60

1. 昇降アーム後カッティングユニット2番または3番
2. トーションスプリング
3. ロックナット
4. 昇降アームプレート
5. スペーサ
6. ワッシャ
7. キャップスクリュ

3. スプリングを押さえながら、ボルト、ワッシャ、ロックナットを昇降プレートから外す図 60。
4. スプリングの脚を希望する穴に合わせる。
5. 穴にボルト、ワッシャ、ロックナットを取り付ける。
6. スプリングの脚をスペーサの上にゆっくりと降ろす。
7. もう一つの後カッティングユニットにもステップ5までの作業を行う。

カッティングユニットの旋回時高さを調整する

昇降アームスイッチ図 48は右前昇降アーム5番カッティングユニットの後ろにあります。



g370721

図 61

1. 昇降アームスイッチ
2. スイッチブラケットスロット付き
3. フランジヘッドねじ

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. スイッチブラケットを前カッティングユニットの昇降アームのキャリアフレームに固定しているフランジヘッドねじ2 本をゆるめる。
3. スイッチブラケットを以下のように動かして調整する
   - 旋回時高さを大きくしたい場合には、ブラケットを上に移動。
   - 旋回時高さを小さくしたい場合には、ブラケットを下に移動。
4. フランジヘッドねじ2 本を締め付ける。

ROPSを折りたたむ

- 常に機械全体の安全を心掛け、また、ボルト、ナット、ねじ類が適切に締まっているかを確認してください。
- 磨耗したり破損したりしている部品は安全のために交換してください。
- シートベルトとその取り付け部が適切に機能していることを確認してください。
- ROPSを立てて乗車している時はシートベルトを着用し、ROPSを下げて乗車している時はシートベルトをしないでください。

天井の低い場所を通過することができるように、ROPSは折りたたみ式になっています。

⚠ 警告

折りたたまれた状態のROPSは車両が横転した際に保護機能を果たしません。立てていないROPSはROPSではありません。

ROPS を下げて運転する時にはシートベルトをしないでください。

⚠ 警告

ROPS の折りたたみや立ち上げ作業に当たっては、固定部と可動部との間に指などを挟まれる可能性がある。

ROPS の折りたたみや立ち上げ作業は十分注意して行い、固定部と可動部との間に指などを挟まれないようにすること。

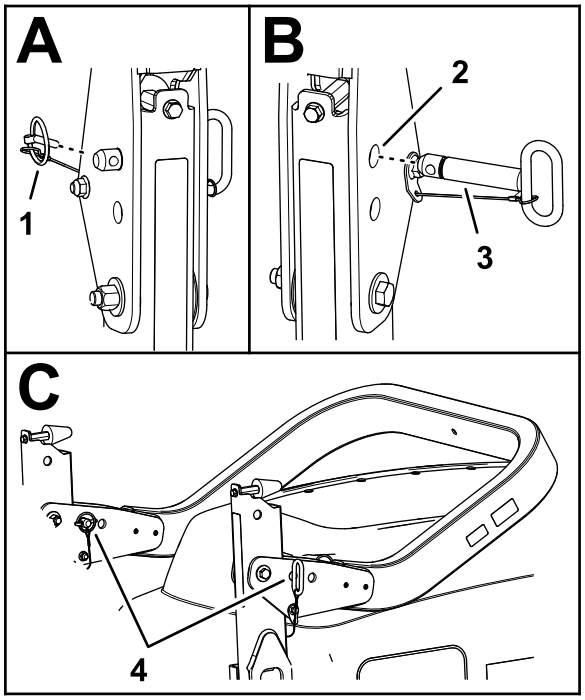
⚠ 警告

ROPS横転保護バーは車両と一体で使用する安全装置です。ROPS が立てた状態に固定されていなかったり、オペレータがシートベルトを着用していない場合には、ROPS に保護機能はなく、最悪の場合死亡事故もあり得ます。

- **運転するときは、常に立てた位置にロックしておいてください。**
- **ROPS を折りたたむのは、必要な時のみ、あくまで一時的に行い、必要が済んだらすぐに元通りに立ててロックした状態に戻してください。**

***重要*ROPS横転保護バーは車両と一体で使用する安全装置です。機械を運転するときは、常に立てた位置にロックしておいてください。どうしても必要な場合以外にはROPSを降ろさないでください。**

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ROPS の左右で ROPS バーのピンを固定しているリンチピンを外す図 62。



g368910

図 62

1. リンチピン
2. 上穴ピボットブラケット
3. ROPS バーのピン
4. ROPS バーとリンチピン下穴ピボットブラケット

3. 上側 ROPS バーの重量を支えながら、ピボットブラケットからROPS バーのピンを抜き取る。
4. 上側 ROPS バーを注意深くストップ上に降ろす。
5. ピボットブラケットの下穴に ROPS バーのピンを差し込み、リンチピンで、ROPS バーのピンをブラケットに固定する。

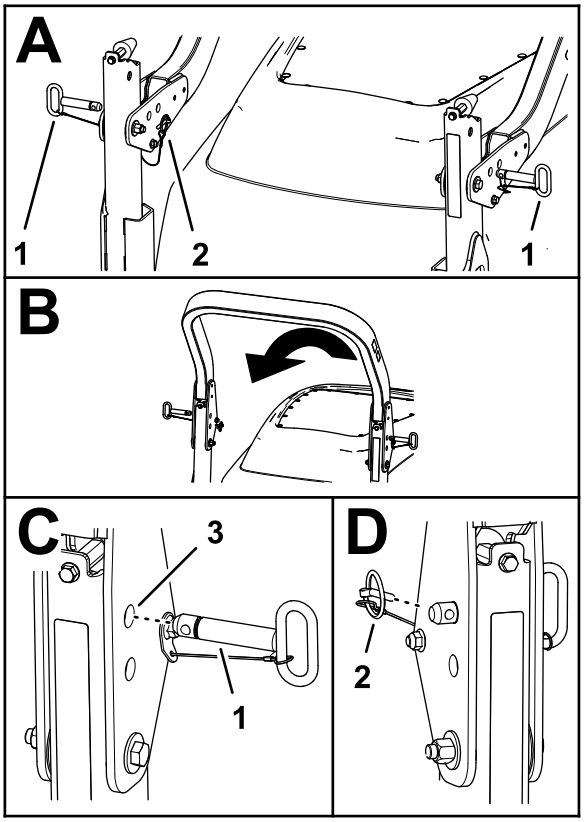
ROPS バーを立てる

⚠ 警告

ROPS バーのピンがゆるんでいると、ROPS が機能を果たさない危険があり、万一そのような事態になると死亡事故を含む重大な人身事故に発展する恐れがある。

ROPS を立てた状態にした時には、必ず左右両側を ROPS バーのピンとリンチピンで確実に固定しておくこと。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. ROPS の左右で ROPS バーのピンを固定しているリンチピンを外す図 63。



g368924

図 63

1. ROPS バーのピン
2. リンチピン
3. 上穴ピボットブラケット

3. ピボットブラケットから ROPS バーのピンを抜き取る。.
4. 上側ROPSバーを注意深く立てて、下側 ROPS バーの穴をピボットブラケットの穴に合わせる。
5. ピボットブラケットの穴と下側 ROPS バーの穴に ROPS バーのピンを差し込む。
6. リンチピンで、ROPS バーのピンをブラケットに固定する。

ディーゼル微粒子フィルタ DPF の再生

DPF は排気系統の一部です。DPF には酸化促進触媒が入っていて有害ガスを減少させ、すすフィルタが排気に含まれているすすを取り除きます。

すすがたまってくると、DPF を高温にして再生を行います。溜っているすすを高温によって燃焼させて灰にし、すすフィルタの詰まりを取り除き、排気ガスが DPF を通り抜けられるようにします。

すすの蓄積具合は、DPF のバック圧をコンピュータで監視することによって行っています。バック圧が高くなりすぎると、通常のエンジンの作動中にすすフィルタの中ですすを燃焼させることができなくなります。すす

を DPF にためないようにするには、以下のような注意が必要です

- エンジンが作動している間は常に DPF のパッシブ再生が行われていますので、エンジンは可能な限りフルスロットルで使用して再生を促進するようにしてください。
- DPF のバック圧が高すぎたり前回のリセット再生からの経過時間が 100 時間になるとリセット再生が行われ、再生中はエンジンのコンピュータから「再生中」のお知らせがインフォセンターに表示されます。
- リセット再生が終了するまで待ち、その後にエンジンを停止するようにしてください。

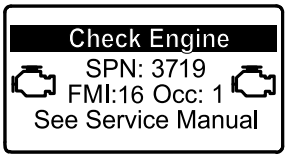
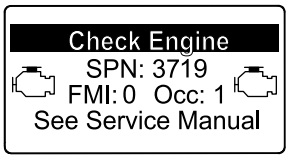
つねに DPF のことを頭に入れて機械の操作や保守整備を行ってください。通常は、ハイアイドルフルスロットルでエンジンを使用していれば、DPF の再生に十分な排気温度が得られます。

重要 **エンジンを低速で回している時間が長いと、すすフィルタにすすがたまります。アイドリングや低速回転での使用をできるだけ短くしましょう。**

DPF へのすすの蓄積

- マシンを使用するにつれて、DPF 内部のすすフィルタにすすが蓄積してきます。DPF 内のすすの蓄積具合は、エンジンのコンピュータが監視しています。
- 蓄積量が一定レベルになると、DPF フィルタの再生が必要であることをコンピュータが知らせてきます。
- DPF の再生とは、DPF を高温にして内部のすすを燃焼させて灰にすることを言います。
- 再生メッセージを表示するとともに、コンピュータは、すすの蓄積レベルに合わせてエンジンの出力を落とします。

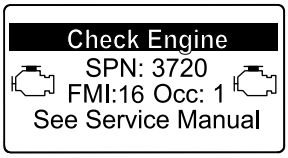
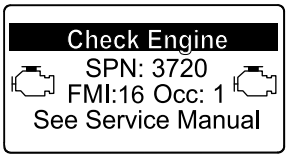
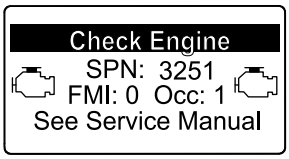
エンジン警告メッセージすすの蓄積に関して

表示レベル	不具合コード	エンジン出力レート	推奨される対応
レベル 1エンジン警告	 g213866 **図 64** エンジンを点検 SPN 3719, FMI 16	コンピュータはエンジンパワーを 85に下げる	できるだけ早く停車再生を行う 駐車再生とリカバリ再生 (ページ 45)を参照。
レベル 2エンジン警告	 g213867 **図 65** エンジンを点検 SPN 3719, FMI 0	コンピュータはエンジンパワーを 50%に下げる	できるだけ早くリカバリー再生を行う 駐車再生とリカバリ再生 (ページ 45)を参照。

DPF への灰の蓄積

- 軽い灰は排気管から放出されますが、重い灰はフィルタ内部に残ります。
- 灰は、再生の結果としてできるものです。よって、機械の稼働時間が長くなるにつれ、放出されない灰が蓄積してきます。
- DPF 内のすすの蓄積量は、エンジンのコンピュータが計算しています。
- すすの蓄積量が所定量に達すると、エンジンのコンピュータからインフォセンターへ、エンジン不具合情報が送信されます。
- この不具合警告は、DPF の整備が必要であることを示しています。
- 警告などを表示するとともに、コンピュータは、灰の蓄積レベルに合わせてエンジンの出力を落とします。

インフォセンターのアドバイスおよびエンジン警告メッセージ — Ash Accumulation

表示レベル	不具合コード	エンジン速度を落とす	エンジン出力レート	推奨される対応
レベル 1エンジン警告	 g213863 **図 66** エンジンを点検 SPN 3720, FMI 16	なし	コンピュータはエンジンパワーを 85に下げる	DPF の整備を行う ディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの整備 (ページ 63)を参照。
レベル 2エンジン警告	 g213863 **図 67** エンジンを点検 SPN 3720, FMI 16	なし	コンピュータはエンジンパワーを 50%に下げる	DPF の整備を行う ディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの整備 (ページ 63)を参照。
レベル 3エンジン警告	 g214715 **図 68** エンジンを点検 SPN 3251, FMI 0	エンジン速度が MAXトルク + 200rpm	コンピュータはエンジンパワーを 50%に下げる	DPF の整備を行う ディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの整備 (ページ 63)を参照。

DPF の再生の種類

マシンが稼働中に実行される DPF 再生の種類

再生の種類	DPF 再生の条件	DPF 再生動作の内容
パッシブ	マシンの通常運転中エンジン高速回転中または高負荷回転中に行われる。	• パッシブ再生はインフォセンターに表示されない。 • パッシブ再生中、DPF は高温の排気を利用して有害な排気を酸化させ、すすを燃焼させて灰にする。 DPF のパッシブ再生 (ページ 43)を参照。
アシスト	エンジンを低速運転した、低負荷で運転した、または DPF のバック圧が高いことをコンピュータが検知することが原因で実行される。	• アシスト再生はインフォセンターに表示されない。 • アシスト再生中は、エンジンのコンピュータがエンジンの設定を調整して排気温度を高める。 DPF のアシスト再生 (ページ 43)を参照。
リセット	100 運転時間ごとに実行される また、アシスト再生によってもすすの量を十分に減らすことができない時にも実行される。	インフォセンターに排気高温アイコン が表示された場合には、再生が進行中。 • リセット再生中は、エンジンのコンピュータがエンジンの設定を調整して排気温度を高める。 リセット再生 (ページ 43)を参照。

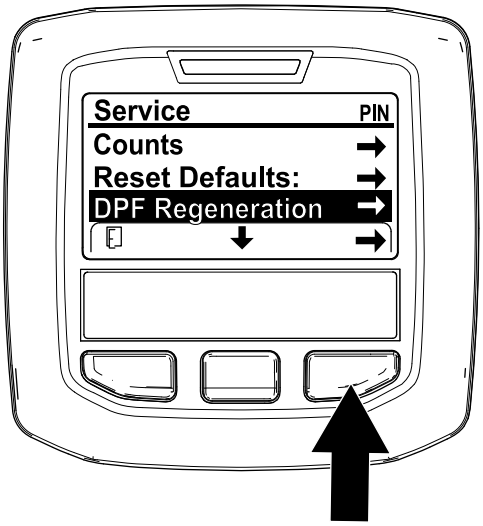
マシンを駐車させて実行する必要のある DPF 再生の種類

再生の種類	DPF 再生の条件	DPF 再生動作の内容
駐車再生	すすが蓄積した結果 DPF のバック圧が高くなったことをコンピュータが検知すると実行される。 オペレータが駐車再生を実施した場合にも実効される。 リセット再生を「しない」に設定してマシンの使用を続けたために、すすの蓄積量がさらに増加すると必要となる。 不適切な燃料やエンジンオイルを使用した場合にも必要になる。	インフォセンターに、リセットスタンバイ/駐車再生、リカバリ再生アイコン またはアドバイス番号 188 が表示された場合には、再生実行が必要。 • リカバリ再生が必要にならないように、できるだけ早く停車再生を行う。 • 駐車再生に要する時間は 30-60 分間。 • 燃料タンク内の燃料残量が ¼ 以上であることを確認して行う。 • 駐車再生は、駐車して行うことが必要。 駐車再生とリカバリ再生 (ページ 45)を参照。
リカバリ	駐車再生の警告を無視してマシンの使用を続けたために、すすの蓄積量がさらに増加すると必要となる。	• インフォセンターに、リセットスタンバイ/駐車再生、リカバリ再生アイコン またはアドバイス番号 190 が表示された場合には、リカバリ再生が必要。 • 駐車再生に要する時間は 3 時間。 • 燃料タンク内の燃料残量が ½ 以上であることを確認して行う。 • この再生は、駐車して行うことが必要。 駐車再生とリカバリ再生 (ページ 45)を参照。

DPF 再生メニューへのアクセス

DPF 再生メニューへのアクセス

1. 整備Serviceメニューから、中央ボタンで下へスクロールして DPF REGENERATIONメニューに入る図 69。



g227667

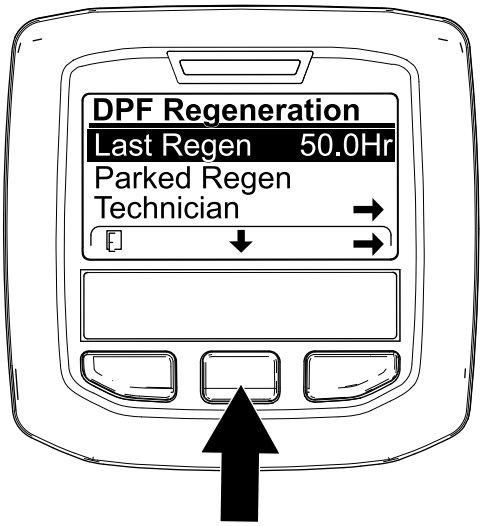
図 69

2. 右側のボタンで DPF Regeneration再生に入る図 69。

最後の再生からの経過時間

DPF Regeneration メニューから、中央ボタンで下へスクロールして LAST REGENに入る図 70。

LAST REGEN で、最後の再生リセット、駐車、リカバリ後に何時間エンジンを使用したかを確認する。



g224693

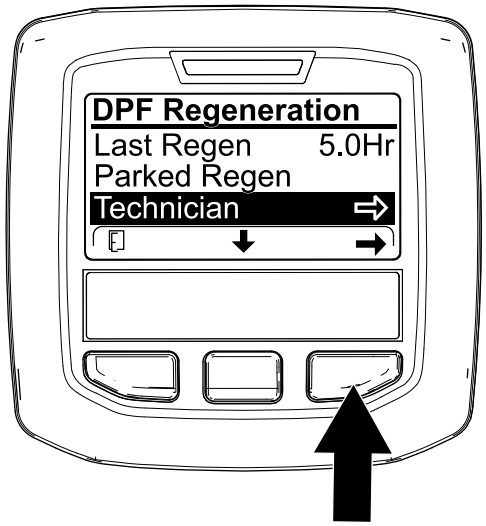
図 70

テクニカルメニュー

重要 **日常の刈り込みをスムーズに進めるために、すすの蓄積が 100% になる前に再生をしておきたい場合があると思われます。前回の再生リセット、駐車、またはリカバリ終了から 50 運転時間以上が経過していればこれが可能です。**

これには、整備士Technicianメニューで現在までの経過時間と現時点でのすすの蓄積レベルを確認を確認します。

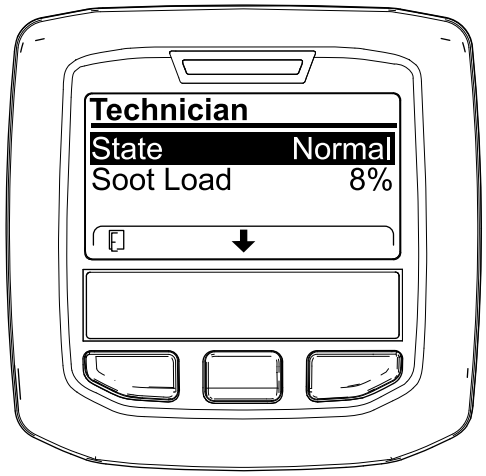
DPF Regeneration メニューで、中央ボタンを押して整備士 TECHNICIAN オプションに移動し、右ボタンで中に入る図 71。



g227348

図 71

- DPF 稼働記録表で、現在の DPF の状態を確認する図 72。



g227360

図 72

.

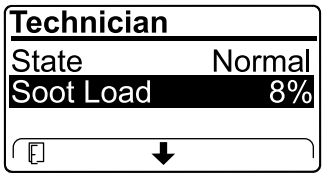
DPF 稼働記録表

DPF 稼働記録表 (cont'd.)

状態	内容	
Normal	DPF は通常稼働状態パッシブ再生	
Assist Regen	エンジンコンピュータがアシスト再生を実行中	
Reset Stby	エンジンコンピュータがアシスト再生を試みているが以下の内のひとつが原因で実行できない状態	再生禁止設定が ON になっている
		排気温度が低すぎて再生できない
Reset Regen	エンジンコンピュータがリセット再生を実行中	
Parked Stby	エンジンコンピュータからオペレータに対して駐車再生を要求中	
Parked Regen	オペレータから駐車再生の要求があり、その処理中	
Recov. Stby	エンジンコンピュータからオペレータに対してリカバリ再生を要求中	
Recov. Regen	オペレータからリカバリ再生の要求があり、その処理中	

- すすの蓄積レベルDPF ので表示される図 73を確認するすす蓄積表を参照

  注 すすの蓄積レベルは、マシンの稼働と DPF の再生に伴って変動します。



g227359

図 73

すすの蓄積レベル表

すすの蓄積に関する重要な数値	再生との関連
0%-5%	すすの蓄積は最低レベル
78%	エンジンコンピュータがアシスト再生を実行
100%	エンジンコンピュータが自動的に駐車再生を要求
122%	エンジンコンピュータが自動的にリカバリ再生を要求

DPF のパッシブ再生

- パッシブ再生は、エンジンの通常運転の一部として行われます。
- DPF 再生を促進させるために、エンジンは可能な限りフルスロットルで、かつ高負荷で使用してください。

DPF のアシスト再生

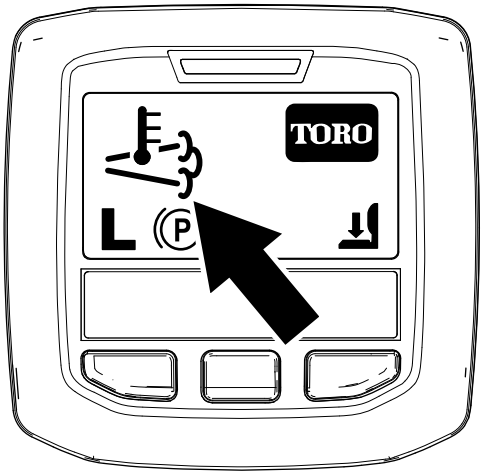
- エンジンのコンピュータがエンジンの設定を調整して排気温度を高めます。
- DPF 再生を促進させるために、エンジンは可能な限りフルスロットルで、かつ高負荷で使用してください。

リセット再生

⚠ 注意

DPF 再生中の排気は高温およそ 600°Cになる。高温の排気は人体に悪影響を及ぼす恐れがある。

- **絶対に締め切った場所でエンジンを運転しないこと。**
- **排気系統の周囲に可燃物を放置しないこと。**
- **高温になっている排気系統各部に触れないこと。**
- **排気管の近くに立たないこと。**



g224417

図 74

- インフォセンターには、 排気高温アイコンが表示されます 図 74。
- エンジンのコンピュータがエンジンの設定を調整して排気温度を高めます。

  重要 **排気高温アイコンがが表示される時には、マシンからの排気の温度が通常よりも高くなります。**

- DPF 再生を促進させるために、エンジンは可能な限りフルスロットルで、かつ高負荷で使用してください。
- リセット再生中は、インフォセンターにアイコンが表示されます。
- リセット再生中は、出来うる限りエンジンを止めたりエンジンの速度を落としたりしないでください。

重要 **可能な限り、リセット再生が終了するまで待ち、その後にエンジンを停止するようにしてください。**

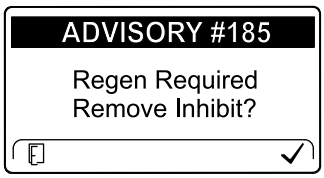
定期的リセット再生

過去 100 運転時間以内に、再生リセット、駐車、リカバリが終了できなかった場合、エンジンコンピュータはリセット再生を試みます。

再生禁止の設定

リセット再生のみ

注 リセット再生が必要な状態になったのに、リセット再生を「しない」に設定した状態になっている場合、15 分ごとにインフォセンター上にADVISORY #185 が表示されます図 75。



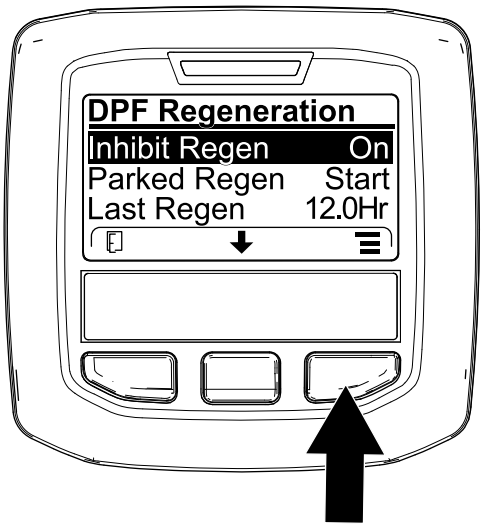
g224692

図 75

リセット再生では、エンジンからの排気温度が高くなります。立ち木の周囲、背の高い草地、植込みの内部など、排気が高温になると問題が発生しやすい場所を刈り込む時には再生禁止設定を行っておくことができます。

重要 **エンジンを一度停止すると、エンジン再起動時には、再生禁止設定は解除されて OFF になります。**

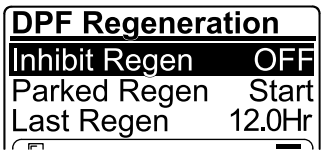
1. DPF Regeneration メニューで、中央ボタンを押して再生禁止 INHIBIT REGEN オプションに移動し、右ボタンで中に入る図 76。



g227304

図 76

2. 右ボタンを使って、設定ををを、ON から OFF図 76または OFF から ON に変える図 77。



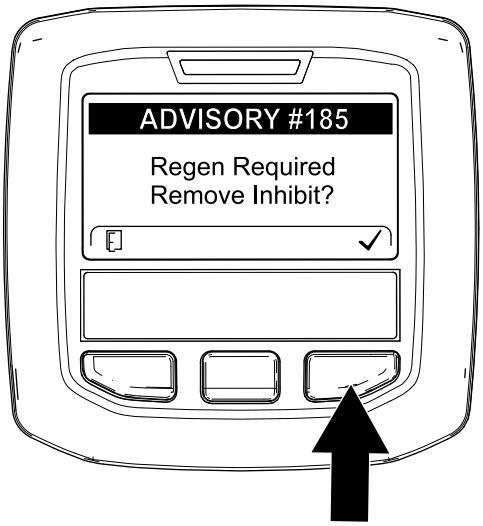
g224691

図 77

リセット再生を許可する

リセット再生実行中はインフォセンターに排気高温アイコン が表示されます。

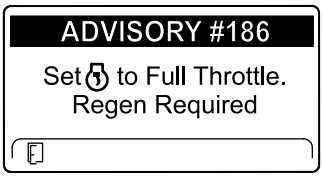
注 再生禁止 INHIBIT REGEN 設定が ON にセットされている場合は、インフォセンターに アドバイス NO. 185図 78が表示されます。ボタン 3 を押して再生禁止設定を OFF にしてリセット再生を許可してください。



g224394

図 78

注 排気温度が低すぎる場合には、インフォセンター上にアドバイス No. 186 が表示されますのでエンジンをフルスロットルにしてください図 79。



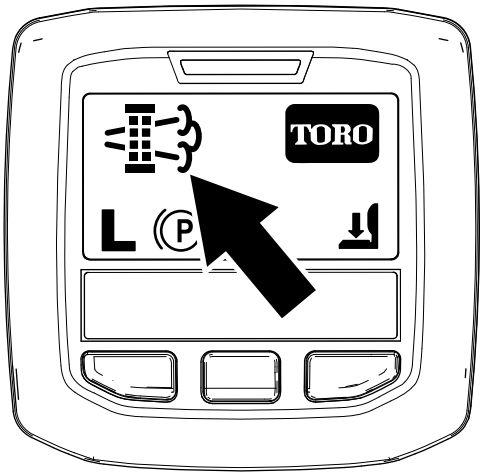
g224395

図 79

注 リセット再生が終了すると、インフォセンターの排気高温アイコン が消えます。

駐車再生とリカバリ再生

- 駐車再生やリカバリ再生が必要になると、インフォセンターに再生要求アイコン図 80が表示されます。



g224404

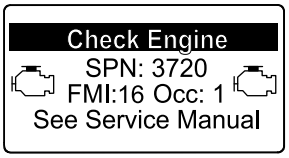
図 80

- 駐車再生やリカバリ再生は自動的には実行されませんので、インフォセンターを操作して手動で行う必要があります。

駐車再生のメッセージ

駐車再生が必要になると、インフォセンターに以下のメッセージが表示されます。

- エンジン警告 SPN 3720, FMI 16図 81

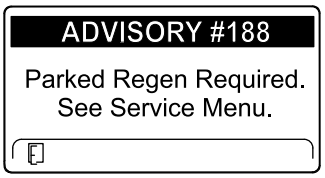


g213863

図 81

- 駐車再生が必要です アドバイス番号188図 82

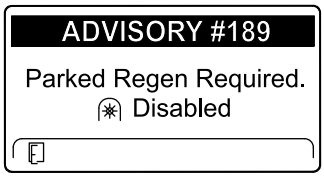
  注 このアドバイス188は 15 分毎に繰り返し表示されます。



g224397

図 82

- 時間以内に駐車再生を行わないと、インフォセンターに駐車再生要求が表示され、PTO が無効化され、アドバイス No.189 が表示されます図 83。

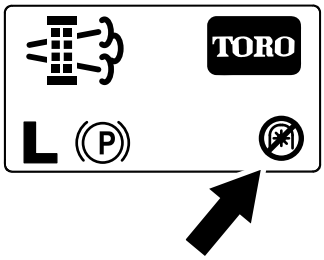


g224398

図 83

重要 **PTO を使用するには、駐車再生を行う必要があります 駐車再生やリカバリ再生の準備 (ページ 46)と 駐車再生やリカバリ再生の実施 (ページ 47)を参照。**

注 ホーム画面に PTO 無効アイコンが表示されます 図 84 。



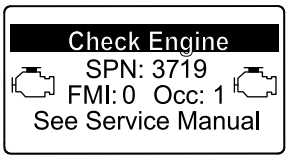
g224415

図 84

リカバリ再生のメッセージ

リカバリ再生が必要になると、エンジンコンピュータからインフォセンターに以下のメッセージが表示されます

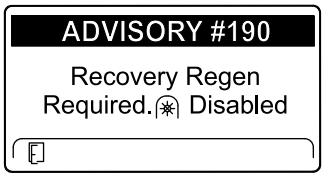
- エンジン警告 SPN 3719, FMI 0図 85



g213867

図 85

- リカバリ再生が必要ですPTO が無効化されましたアドバイス番号 190図 86



g224399

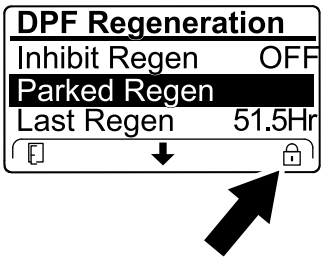
図 86

重要 **PTO を使用するには、リカバリ再生を行う必要があります 駐車再生やリカバリ再生の準備 (ページ 46)と 駐車再生やリカバリ再生の実施 (ページ 47)を参照。**

注 ホーム画面に PTO 無効アイコンが表示されます図 84 駐車再生のメッセージ (ページ 45)を参照。

DPF 稼働記録表がロックされる場合

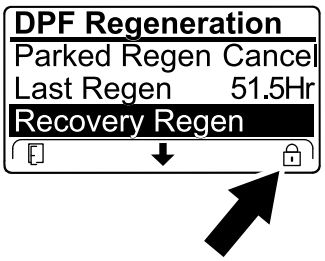
- エンジンコンピュータがリカバリ再生を要求している、またはリカバリ再生の処理中である時には、駐車再生 PARKED REGEN を選択することはできません。駐車再生はロックされ、施錠アイコン図 87がインフォセンターの右下に表示されます。



g224625

図 87

- エンジンコンピュータがリカバリ再生を要求していいないのに、リカバリ再生 RECOVERY を選択することはできません。リカバリ再生はロックされ、施錠アイコン図 88がインフォセンターの右下に表示されます。



g224628

図 88

駐車再生やリカバリ再生の準備

1. 再生に必要な量の燃料が燃料タンクにあることを確認する
   - **駐車再生**燃料タンク内の燃料残量が ¼ 以上であることを確認する。
   - **リカバリ再生**燃料タンク内の燃料残量が ½ 以上であることを確認する。
2. 車両を屋外の、可燃物から離れた場所に移動させる。
3. 平らな場所に駐車する。
4. 走行コントロールや走行コントロールレバーがニュートラル位置にあることを確認する。
5. PTO が作動していた場合は PTO を停止させ、カッティングユニットやアクセサリを下降させる。
6. 駐車ブレーキを掛ける。
7. スロットルを低速アイドル位置にセットする。

駐車再生やリカバリ再生の実施

⚠ 注意

DPF 再生中の排気は高温およそ 600°C になる。高温の排気は人体に悪影響を及ぼす恐れがある。

- **絶対に締め切った場所でエンジンを運転しないこと。**
- **排気系統の周囲に可燃物を放置しないこと。**
- **高温になっている排気系統各部に触れないこと。**
- **排気管の近くに立たないこと。**

重要 **エンジンの速度設定を上げたり、駐車ブレーキを解除したりすると、DPF 再生はキャンセルされます。**

1. DPF Regeneration メニューで、中央ボタンを押して駐車再生開始 PARKED REGEN START またはリカバリ再生開始RECOVERY REGEN START オプションに移動し図 89、右ボタンで再生を開始する図 89。

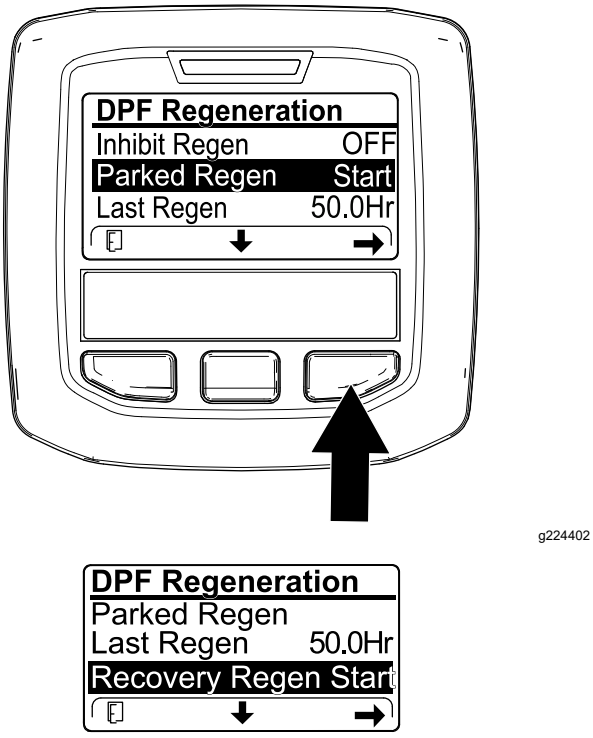


図 89

2. 燃料レベル確認 VERIFY FUEL LEVEL 画面で、燃料タンクの残量が ¼ 以上駐車再生の場合または ½ 以上リカバリ再生の場合あることを確認し、燃料残量に問題がなければ右ボタンで続行する図 90。

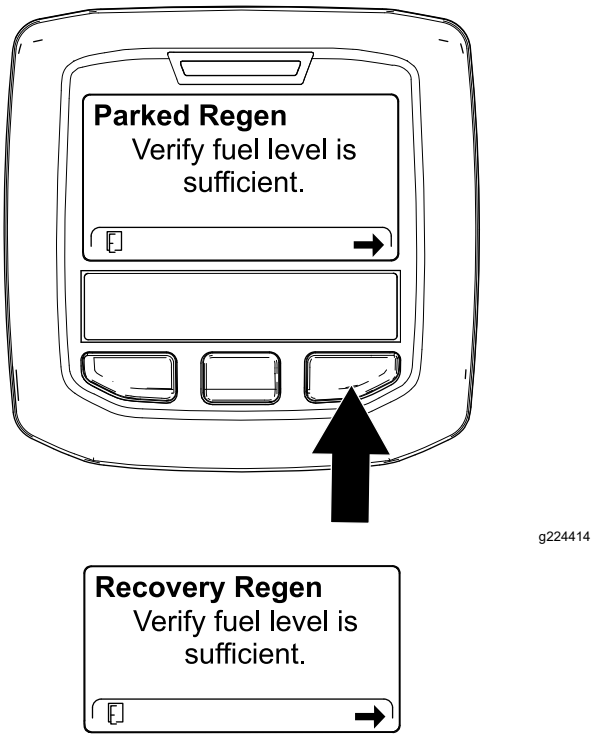


図 90

3. チェックリストDPF checklist画面で、駐車ブレーキが掛かっていること、エンジン速度が低速アイドルセットされていることを確認する図 91。

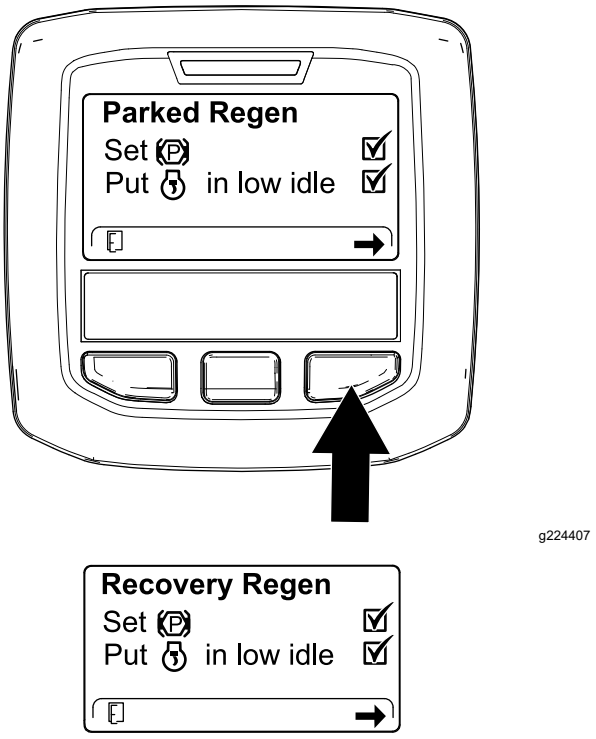
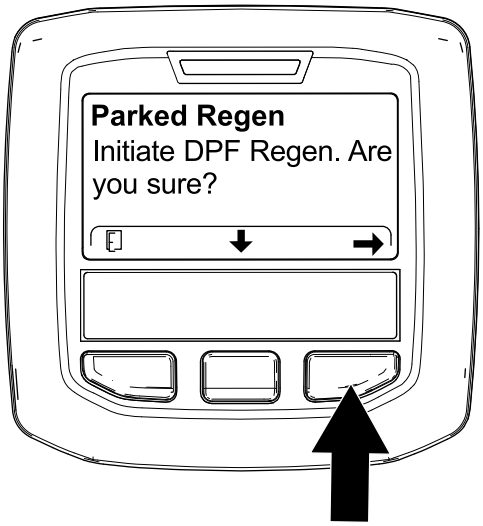
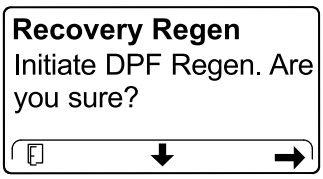


図 91

4. 再生開始 INITIATE DPF REGEN 画面で、右ボタンを長押して続行する図 92。



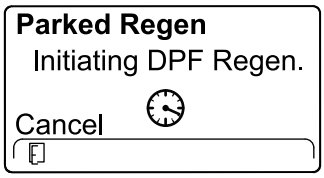
g224626



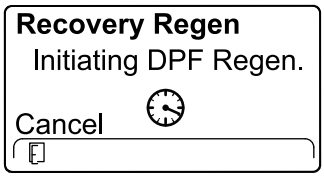
g224630

図 92

5. インフォセンターの画面に、再生開始中INITIATING DPF REGENと表示される図 93。



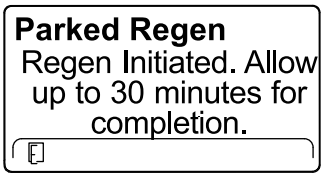
g224411



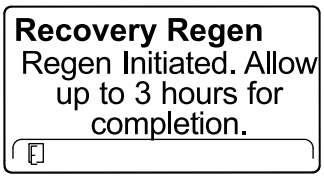
g227681

図 93

6. インフォセンターの画面には、終了までの時間を表すメッセージが表示される図 94。



g224406

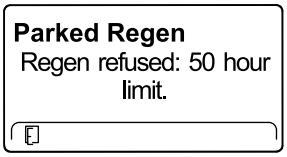


g224416

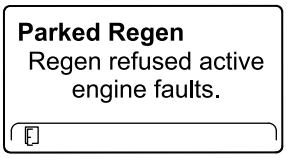
図 94

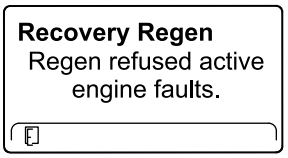
7. エンジンコンピュータがエンジンの状態と不具合情報をチェックする。インフォセンターに、以下の表にあるようなメッセージが表示される場合がある

メッセージの確認と修正操作の一覧表

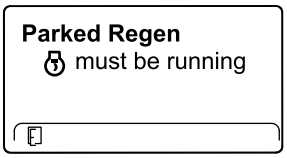


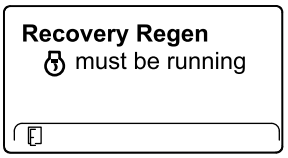
修正操作再生メニューを中止し、マシンを通常通りに運転する。前回の再生から 50 運転時間以上経過すれば再生が実施可能 最後の再生からの経過時間 (ページ 42)を参照。



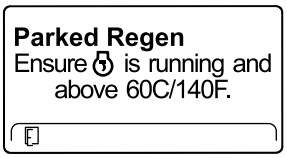


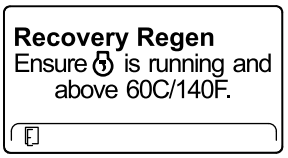
修正操作エンジンの不具合を修正してから DPF 再生を行う。





修正操作エンジンを始動する。



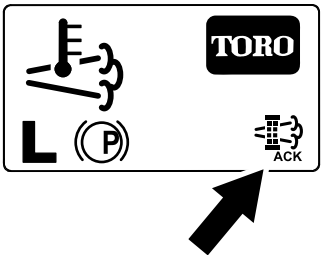


修正操作冷却液の温度が 60°C (140°F) になるまでエンジンを運転する。

メッセージの確認と修正操作の一覧表 (cont'd.)

Parked Regen Put in low idle.	Recovery Regen Put in low idle.
修正操作エンジンをローアイドル速度にする。	
Parked Regen Regen refused by ECU.	Recovery Regen Regen refused by ECU.
修正操作エンジンコンピュータの不具合を修正してから DPF 再生を行う。	

8. インフォセンターはホーム画面となり、再生実施中は画面右下に再生実施中アイコン図 95が表示される。

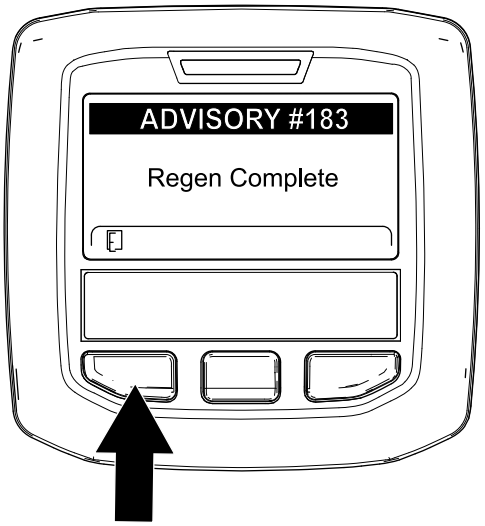


g224403

図 95

注 DPF 再生中は、インフォセンターに高温排気アイコン が表示されます。

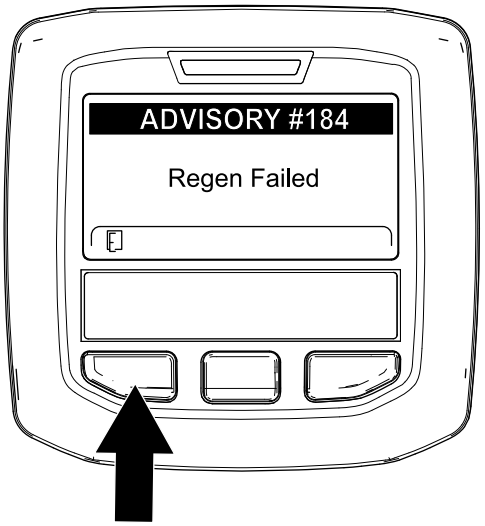
9. 駐車再生やリカバリ再生が終了すると、インフォセンターにアドバイスNo. 183 が表示される図 96。左ボタンを押してホーム画面に戻る。



g224392

図 96

注 再生に失敗した場合は、インフォセンターにアドバイス No. 184図 96が表示される。左ボタンを押してホーム画面に戻る。



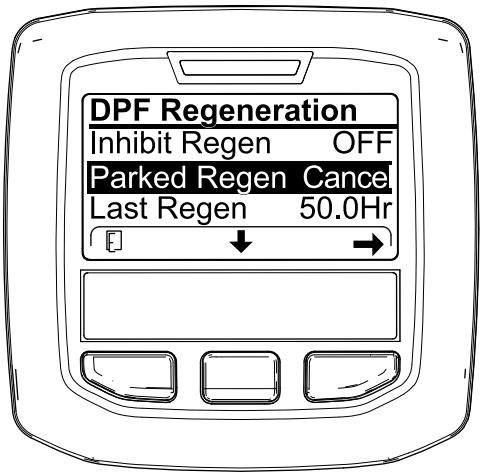
g224393

図 97

駐車再生やリカバリ再生をキャンセルするには

駐車再生やリカバリ再生をキャンセルするには、キャンセル設定を行います。

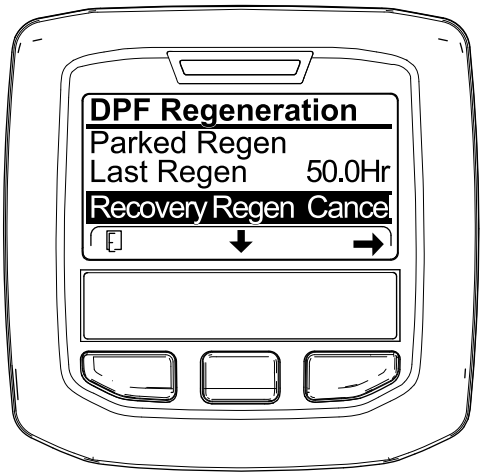
1. DPF 再生メニューにアクセスする図 98。



g227305

図 98

2. 中央ボタンを押して下へスクロールし、駐車再生キャンセル PARKED REGEN CANCEL (図 98) またはリカバリ再生キャンセル RECOVERY REGEN CANCEL を選ぶ図 99。



g227306

図 99

3. 右ボタンを押すと再生キャンセルにRegen Cancelに入る図 98または図 99。

ヒント

運転操作に慣れる

実際に芝刈りを始める前に、安全な場所で運転操作に十分慣れておいてください。エンジンの始動と停止、前進走行と後退走行、カッティングユニットの回転、停止、昇降動作などを十分に練習してください。操作に慣れてきたら、斜面の上り下りや速度を変えての運転も練習しましょう。

警告システムについて

運転中、インフォセンターにオペレータ向けのアドバイスや不具合コードが表示された場合には、直ちにマシンを停止させて不具合を解消してください。異常を放置したまま作業を続けると本機に重大な損傷を招く可能性があります。

運転終了後に

運転終了後の安全確認

安全に関する一般的な注意

- 平らな場所に駐車する。
- カッティングユニットを停止させ、下降させる。
- 駐車ブレーキを掛ける。
- エンジンを止め、キーを抜き取る。
- 全ての動きが停止するのを待つ。
- 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- 火災防止のために、カッティングユニット、駆動部、マフラー、冷却スクリーン、エンジンルームに刈りかすごみが溜まっていないことを確認してください。オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
- 移動走行時など、刈り込みなどの作業をしていない時には、アタッチメントの駆動を解除しておいてください。
- 必要に応じてシートベルトの清掃と整備を行ってください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管格納しないでください。

トレーラへの積み込み

- 機械をトレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- 車体が落下しないように確実に固定してください。

ロープ掛けのポイント

ロープ掛けポイントは以下の通りです

- 機体前部左右の前ステップ
- 機体後部後バンパー

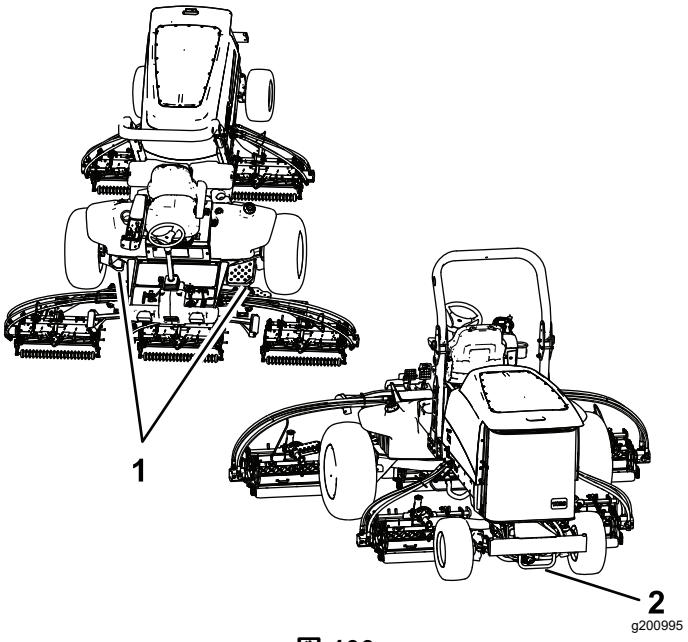


図 100

1. 車両前部のロープ掛けポイント
2. 機体後部のロープ掛けポイント

緊急時の牽引移動

⚠ 警告

バイパスバルブが開いた状態のマシンが暴走すると、重大な人身事故を引き起こす可能性がある。

押したり引いたりしての移動作業中以外は、必ず駐車ブレーキを掛けておくこと。

緊急時には、走行用油圧ポンプについているバイパスバルブを開き、油圧ホースをつないでチェックバルブをバイパスすると、本機を牽引または押して移動することができます。

本機を押して引いて移動させる場合、前進・後進の両方向に移動させる必要が出てくる場合が多いと考えられます。押しても引いても機器に損傷を与えることのないよう、前進・後進の両方向に移動できるように準備しておくことをお奨めします。

後退方向に押して引いて移動させるための準備

後進移動キットを取り付ける

必要なパーツ別売後進移動キット、Toro P/N 136-3620

重要 **機械を後ろに押して移動させる場合には、最初に4輪駆動マニホルドのチェックバルブをバイパスさせる必要があります。**

1. 車両を平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを降下させ、エンジンを停止し、キーを抜き取る。
2. キットのバイパスホースとストレートフィッティングを仮組みする *後進移動キットの取り付け要領書*を参照。
3. 後進走行チューブのテストポートについているダストキャップとテスト用フィッティングを外す。
4. バイパスホースのストレートフィッティングをテストポートに接続しフィッティングとホースを本締めする。
5. マークの付いていないポートM8 ポートとP2 ポートの間にあるポートから #6 六角ソケットプラグを外す。
6. バイパスホースのもう一方のストレートフィッティングをマークの付いていない更新マニホルドポートに接続しフィッティングとホースを本締めする。
7. 走行ポンプについている牽引移動用バイパスバルブを 90° 1/4 回転回して開く。左右どちらの方向に回してもよい図 101。

   注 バルブを開けた状態と閉じた状態を覚えておいてください。

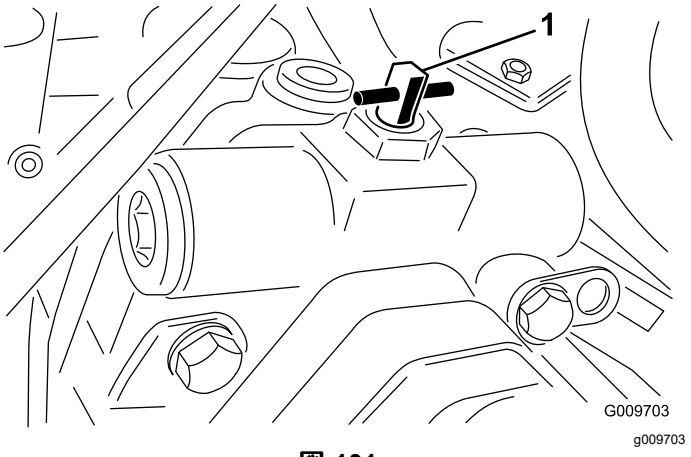


図 101

1. 牽引移動用バイパスバルブ

8. 牽引移動を開始する。

   重要 **油圧システムを保護するために、牽引または押して移動する時の速度は、3-4.8 km/h 未満とし、移動距離は 400m 未満としてください。本機を押して或いは引いて移動させる場合には、必ずバイパスバルブを開く必要があります。**

運転操作のための準備

後進移動キットを取り外す。

1. 車両を平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを降下させ、エンジンを停止し、キーを抜き取る。

2. 後進移動キットのストレートフィッティングとバイパスホースを、後進チューブのテストポートから外す *後進移動キットの取り付け要領書*を参照。
3. テストポートにテスト用フィッティングとダストキャップを取り付ける。
4. バイパスホースのもう一方のストレートフィッティングを、後進移動マニホルドポートM8 ポートとP2 ポートの間にあるマークの付いていないポートから外す。
5. 後進移動キットに入っている新しい #6 六角ソケットプラグを、後進移動マニホルドに取り付ける。
6. エンジンを始動する前に牽引用バイパスバルブを90° 1/4 回転回して閉じる図 102。

   注 バルブの締め付けトルクが 7-11 N·m 0.7-1.1 kg.m = 5-8 ft-lbを超えないようにすること。

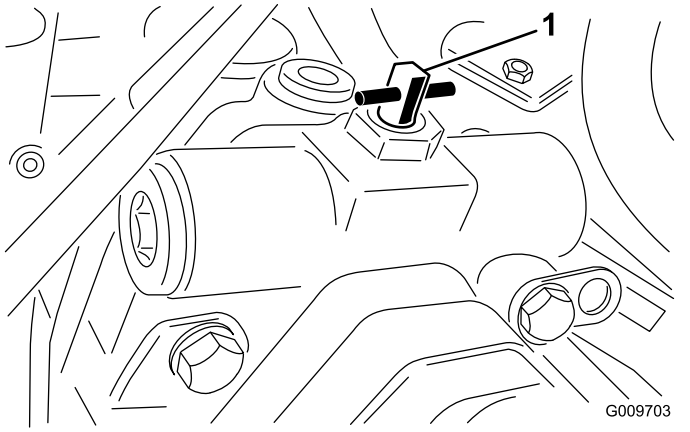


図 102

1. 牽引移動用バイパスバルブ

緊急時の牽引移動前進方向のみの場合

機械を前進方向のみに移動させる場合には、バイパスバルブを開くだけで移動できるようになります。

重要 **機械を前進・後退の両方向みに移動させる場合には、後退方向に押して引いて移動させるための準備 (ページ 51)を参照してください。**

1. フードを開けて中央のシュラウドを外す。
2. 走行ポンプについている牽引移動用バイパスバルブを 90° 1/4 回転回して開く。左右どちらの方向に回してもよい図 101。

   注 バルブを開けた状態と閉じた状態を覚えておいてください。

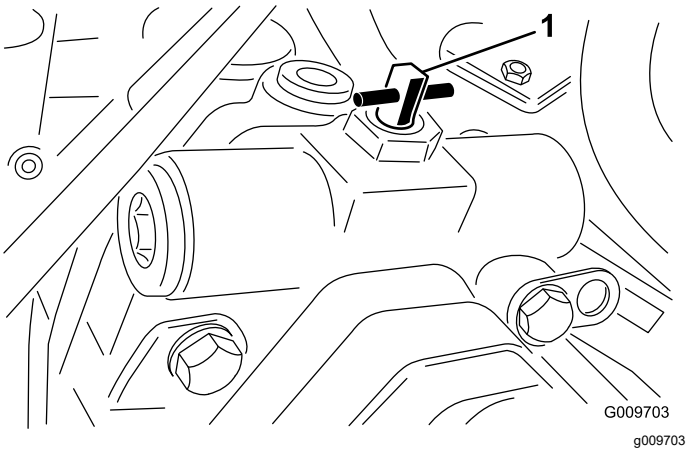


図 103

1. 牽引移動用バイパスバルブ

3. 押してまたは引いての移動は前進でのみ行ってください。

   重要 **油圧システムを保護するために、牽引または押して移動する時の速度は、3-4.8 km/h 未満とし、移動距離は 400m 未満としてください。本機を押して或いは引いて移動させる場合には、必ずバイパスバルブを開く必要があります。**

4. マシンの修理が終わって通常運転できる状態になったら、エンジンを始動する前に牽引移動用バイパスバルブを 90° 1/4 回転回して開く。

   注 バルブの締め付けトルクが 7-11 N·m 0.7-1.1 kg.m = 5-8 ft-lbを超えないようにすること。

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

注 www.Toro.com から、この機械に関する配線図と油圧回路図をダウンロードすることができます。弊社ホームページからマニュアルへのリンクをご活用ください。

***重要*エンジンの整備についての詳細はエンジンマニュアルを、カッティングユニットの整備には*カッティングユニットマニュアル*を参照してください。**

保守作業時の安全確保

- 運転席を離れる前に
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- 作業にふさわしい服装をし、安全めがね、長ズボン、頑丈で滑りにくい安全な靴を着用してください。手足、衣服、装飾品、頭部長髪を可動部に近づけないでください。
- 保守作業は、各部が十分冷えてから行ってください。
- 可能な限り、エンジンを回転させながらの整備はしないでください。可動部に近づかない。
- エンジンは換気の十分確保された場所で運転してください。排気ガスには致死性ガスである一酸化炭素が含まれています。
- 機体の下で作業する場合には、必ずジャッキスタンドで機体を確実に支える。
- 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。
- マシン各部が良好な状態にあり、ボルトナット類が十分にしまっているか常に点検してください。
- 読めなくなったデカルは貼り替えてください。
- 機械の性能を完全に引き出し、かつ安全にお使いいただくために、交換部品は純正品をお使いください。他社の部品を御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 8 時間	· ホイールナットのトルク締めを行う。
使用開始後最初の 50 時間	· 前側のプラネタリギアのオイルを交換する。
使用開始後最初の 200 時間	· 後アクスルのオイル交換を行う。
使用するごとまたは毎日	· シートベルトに摩耗や傷がないか点検する。一部でも正常に機能しないシートベルトは交換する。 · インタロックスイッチの動作を点検してください。 · エアフィルタを点検する · エンジンオイルの量を点検する。必要に応じてエンジンオイルを補給してください。 · 水セパレータの水抜きと異物の除去。 · タイヤ空気圧を点検する。 · 後アクスルからオイル漏れしていないか目視で点検する。 · 減速ギアケースのオイルを目視で点検する。 · 冷却液の量 · エンジン部、オイルクーラ、ラジエターを清掃する。汚れが激しければより頻繁な清掃が必要です。 · 油圧ラインとホースを点検する。 · 油圧オイルの量を点検する。
50運転時間ごと	· ベアリングとブッシュのグリスアップを行ってください。マシンを水洗いした時は直ちにベアリングとブッシュをグリスアップしてください。 · バッテリーの整備を行う。
100運転時間ごと	· オルタネータベルトの磨耗と張りの点検
200運転時間ごと	· ホイールナットのトルク締めを行う。

整備間隔	整備手順
400運転時間ごと	· エアフィルタを交換する。インジケータが赤になっている場合には早くエアクリーナの整備を行う。ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときには頻繁な整備が必要となる。 · 燃料ラインに劣化や破損、ゆるみが発生していないか点検する。 · 水セパレータのフィルタを交換する。 · エンジン側燃料フィルタを交換する。 · プラネタリドライブ端部にガタがないか点検する。 · プラネタリギアオイル量を点検する（オイル漏れを発見した場合はすぐに点検する）。 · 後アクスルのオイル量を点検する。（エンジンを初めて作動させる前にも点検する。） · 減速ギアケースのオイルを点検する。（初めてエンジンを始動する前にも点検する。）
500運転時間ごと	· エンジンオイルとフィルタの交換を行う。
800運転時間ごと	· 燃料タンクを空にして内部を清掃します。 · 前側のプラネタリギアのオイルを交換します。（または1年に1回のうち早く到達した方の時期）。 · 後アクスルのオイル交換を行う。 · 後輪のアライメントを点検する。 · 推奨されていない油圧オイルを使用している場合や代替品のオイルを使用したことがある場合には、油圧オイルフィルタを交換してください。 · 推奨されていない油圧オイルを使用している場合、代替品のオイルを使用した場合には、油圧オイルフィルタを交換してください。
1000運転時間ごと	· 推奨オイルをご使用の場合には、油圧オイルフィルタを交換してください。
2000運転時間ごと	· 推奨オイルをご使用の場合には、油圧オイルを交換してください。
6000運転時間ごと	· DPF のすすフィルタを分解、清掃、再組み立てする。またはエンジンの不具合表示が SPN 3251 FMI 0、SPN 3720 FMI 0またはSPN 3720 FMI 16 の場合は、すすフィルタを清掃する。
長期保管前	· 燃料タンクを空にして内部を清掃します。
2年ごと	· 油圧ホースを交換する。 · 冷却液ホースを交換する。 · 冷却液を交換する。

始業点検表

このページをコピーして使ってください。

点検項目	第週						
	月	火	水	木	金	土	日
インタロックの動作を点検する。							
ブレーキの動作を確認する。							
エンジンオイルと燃料の量を点検する。							
冷却水の量を点検する。							
燃料・水セパレータの水抜きを行う。							
エアフィルタの整備時期表示を確認する。							
ラジエター、オイルクーラ、スクリーンの汚れ具合を点検する。							
エンジンから異常音がないか点検する。[1]							
運転操作時に異常音がないか点検する。							
油圧オイルの量を点検する。							
油圧ホースの磨耗損傷を点検する。							
オイル漏れなど。							
タイヤ空気圧を点検する							
計器類の動作							
リールとベッドナイフの摺り合わせ							
刈高の調整の点検。							
グリスアップ。[2]							
塗装傷のタッチアップ							

1. 始動困難、大量の煙、咳き込むような走りなどが見られる場合はグロープラグと噴射ノズルを点検する。
2. 車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップする。

要注意個所の記録

点検担当者名		
内容	**日付**	**記事**
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

整備前に行う作業

整備作業にかかる前に

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを止め、キーを抜き取り、可動部が完全に停止したのを確認する。

フードを開ける

1. フードラッチ2ヶ所を外す図 104。

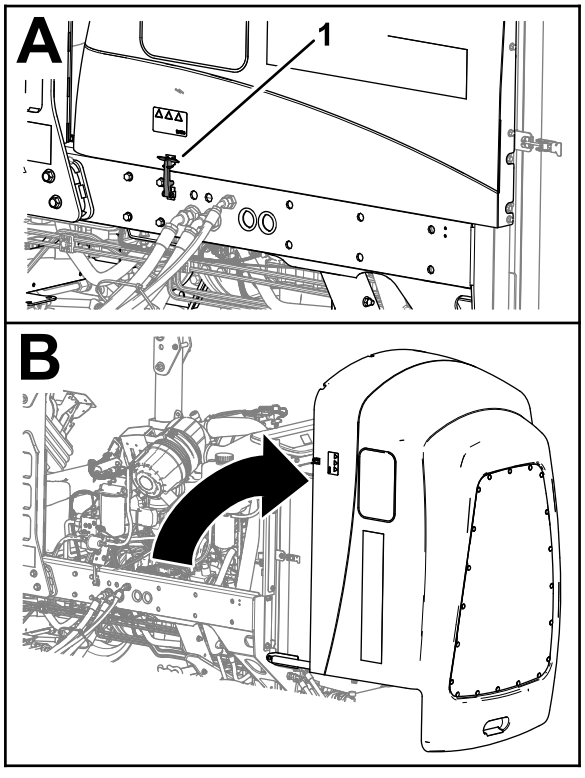


図 104

1. フードのラッチ2ヶ所

2. フード後部にあるハンドルを握ってフードを開く。

フードを閉じる

1. 注意深くフードを閉じる図 105。

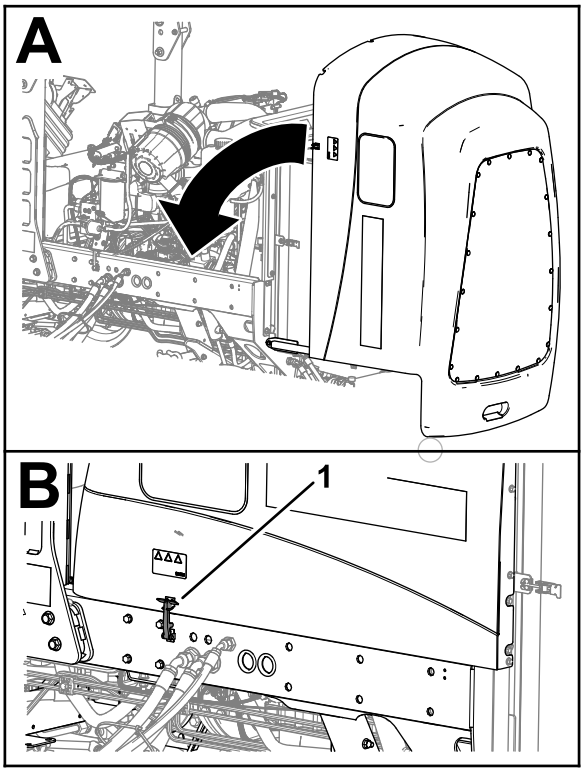


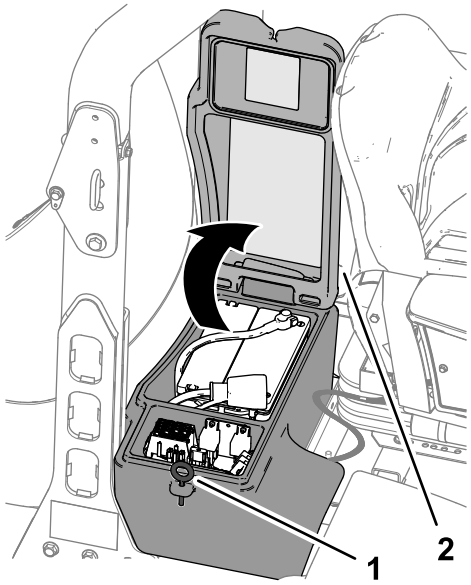
図 105

1. フードのラッチ2ヶ所

2. フードの両側についているラッチを掛けてフードを固定する。

バッテリーコンパートメントへのアクセス

1. バッテリーコンパートメントカバーについているゴム製ラッチを外す図 104。



g369006

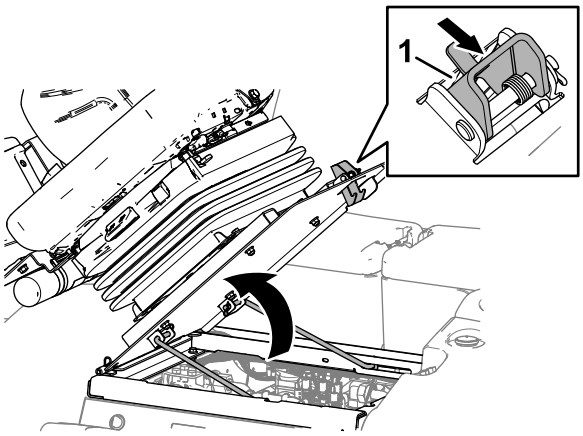
図 106

1. バッテリーコンパートメントのカバー　2. ラッチゴム製

2. カバーを開く

座席を倒す

1. 座席ラッチを外側に動かす図 107。

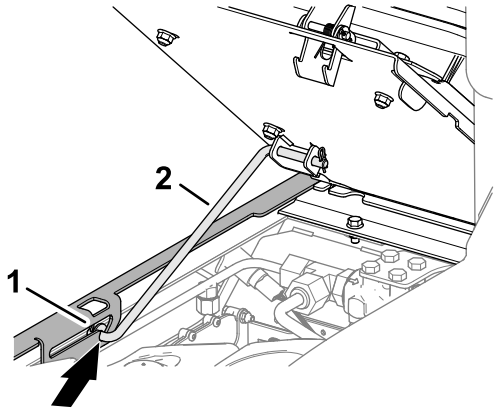


g369007

図 107

1. 座席ラッチ

2. 座席を注意深く倒す。
3. 支え棒を座席サポートのスロットの固定穴に確実に嵌める図 108。



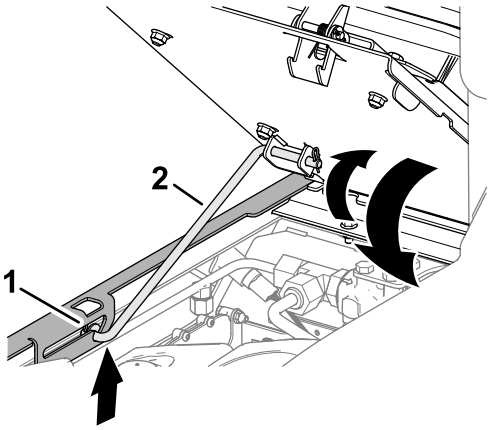
g369008

図 108

1. スロット座席サポート　2. 支え棒

座席をもとに戻す。

1. 座席を少し倒して、支え棒を固定穴から外す図 109。



g369220

図 109

1. スロット座席サポート　2. 支え棒

2. ラッチがかかるまで座席を静かにに降ろす。

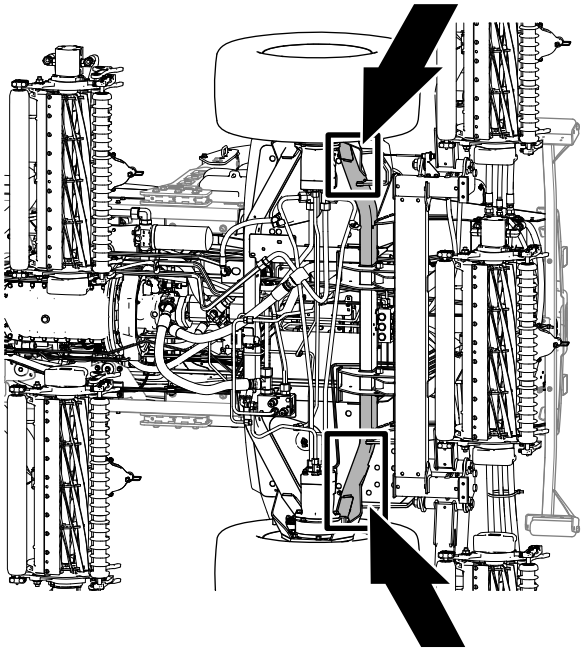
ジャッキアップポイント

注 機体の下で作業する場合には、必ずジャッキスタンドで機体を確実に支える仕様 (ページ 28)を参照。

機体のロープ掛けポイントは以下の通りです

- 機体前部左右のホイールモータの前にあるマシンフレーム部分図 110。

  重要 **ホイールモータ部分でジャッキアップしたり吊ったりしないでください。昇降装置への荷重がモータ、油圧配管、ホースなどに掛からないようにしてください。**



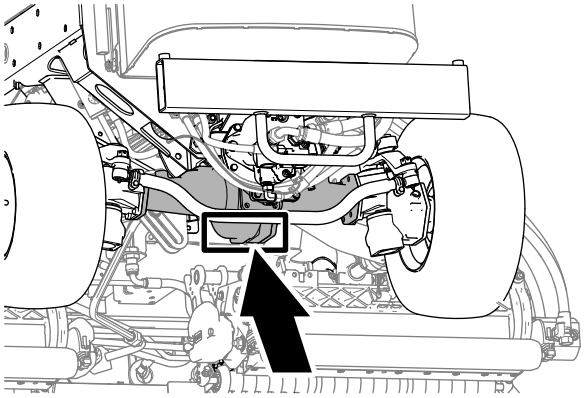
g369205

図 110

- 機体後部アクスルの中央図 111

注 機体左右のギアケース脇のアクスルの下に規定の支持能力のあるジャッキスタンドを置く。

重要 **タイロッド部分でジャッキアップしたり吊ったりしないでください。**



g371178

図 111

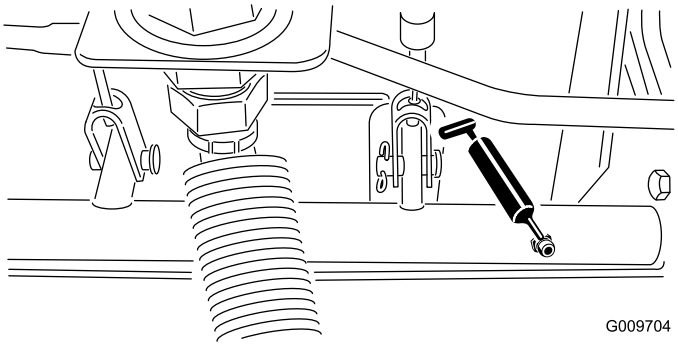
潤滑

ベアリングとブッシュのグリスアップ

整備間隔: 50運転時間ごと マシンを水洗いした時は直ちにベアリングとブッシュをグリスアップしてください。

グリスの仕様No. 2 汎用リチウム系グリス

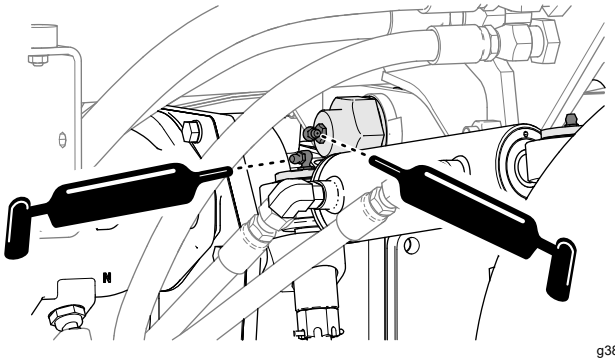
1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. グリスアップ箇所は以下の通りです
   - ブレーキシャフトのピボットベアリング5ヶ所 図 112を参照。



G009704
g009704

図 112

- 後アクスルピボットブッシュとステアリングシリンダ 図 113を参照。



g380870

図 113

- ステアリングシリンダのボールジョイント 2ヶ所 図 114を参照。

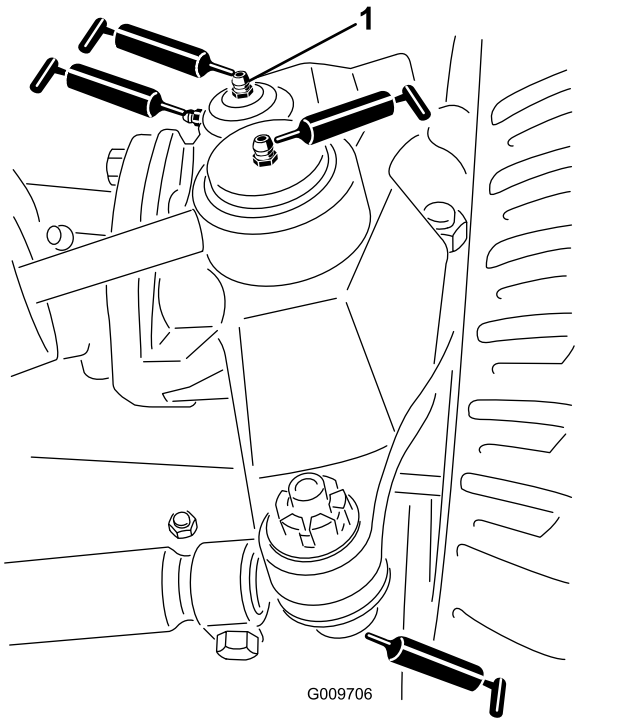


図 114

1. キングピンの上部フィッティング

- タイロッドのボールジョイント 2ヶ所 図 114を参照。
- キングピンのブッシュ2ヶ所 図 114を参照。

  注 但しキングピンの上部フィッティングは1 年に1 回のみポンプ2 回押 しのみとする。
- 昇降アームのブッシュカッティングユニット 1 台に 1 ケ所 図 115を参照。

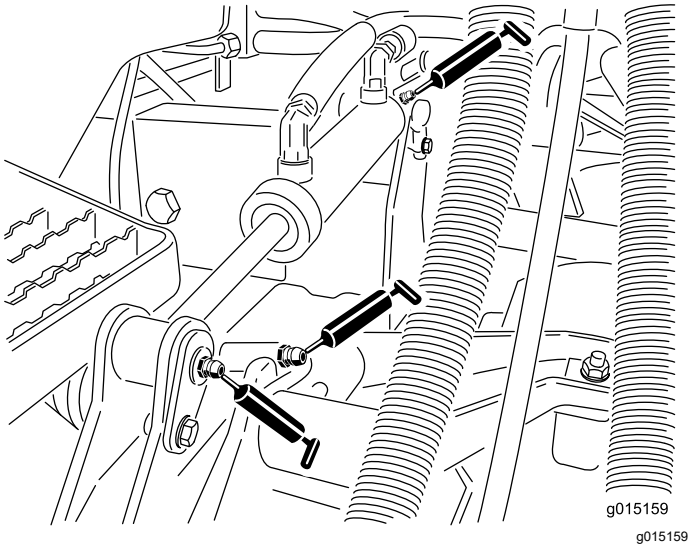


図 115

- 昇降シリンダのブッシュカッティングユニット 1 台に 2 ケ所 図 115を参照。
- 昇降アームのピボットブッシュカッティングユニット 1 台に 1 ケ所 図 116を参照。
- カッティングユニットのキャリアフレームカッティングユニット 1 台に 2 ケ所 図 116を参照。
- 昇降アームのピボットカッティングユニット 1 台に 1 ケ所 図 116を参照。

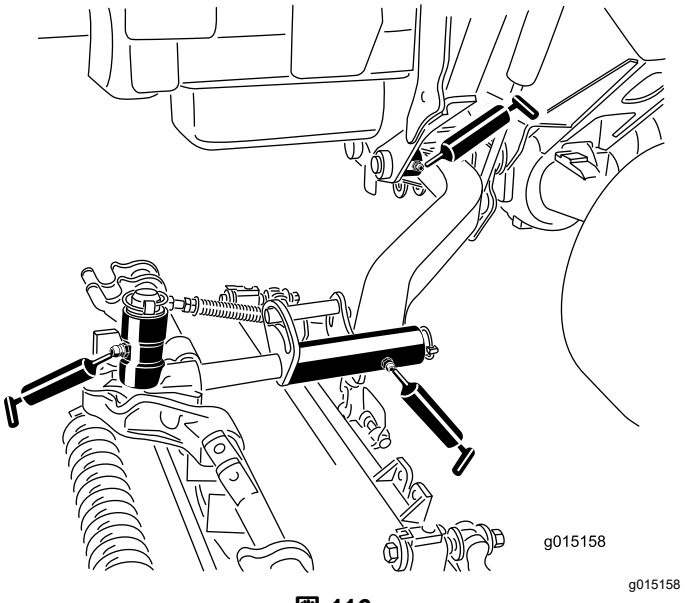


図 116

エンジンの整備

エンジンの安全事項

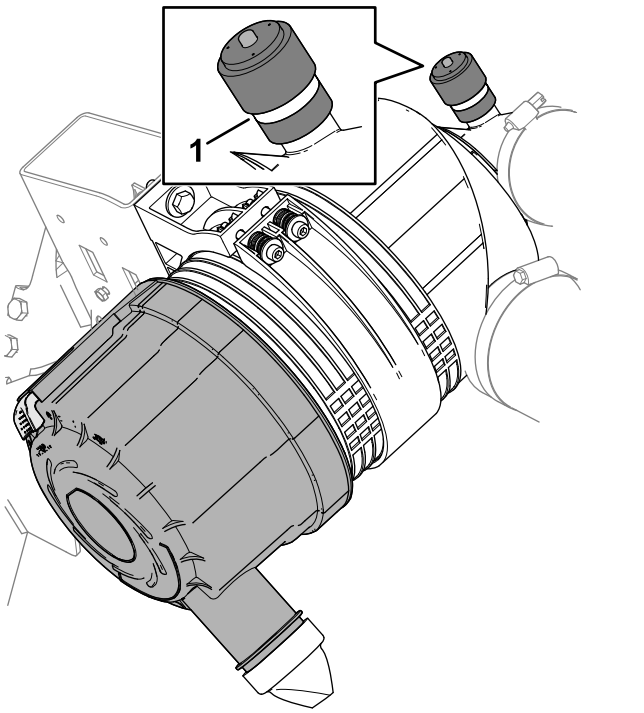
- エンジンオイルの点検や補充はエンジンを止めて行ってください
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。

エアフィルタの点検

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. エアフィルタハウジングの端にある整備インジケータを確認する図 117。

   注 整備インジケータの表示が赤色になっていたら、エアフィルタを交換する フィルタの取り外し (ページ 60)を参照。

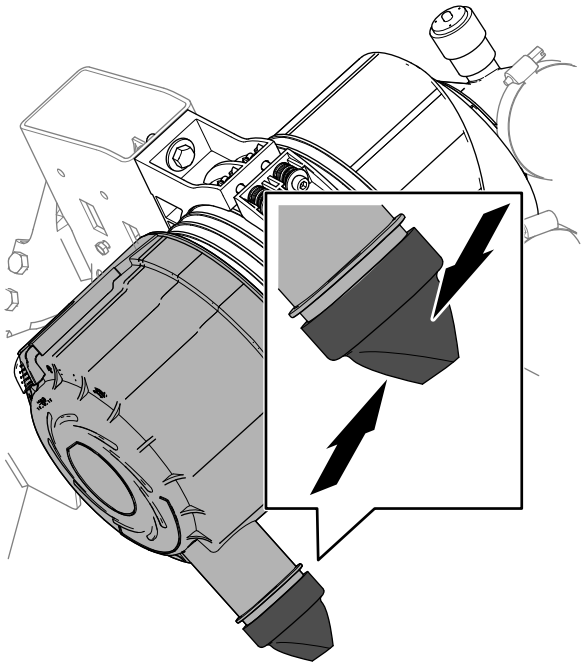


g369206

図 117

1. 整備時期インジケータ

4. ダストイジェクタバルブをつまむ図 118。



g369207

図 118

5. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

エアフィルタの交換

整備間隔: 400運転時間ごと インジケータが赤になっている場合には早くエアクリーナの整備を行う。ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときには頻繁な整備が必要となる。

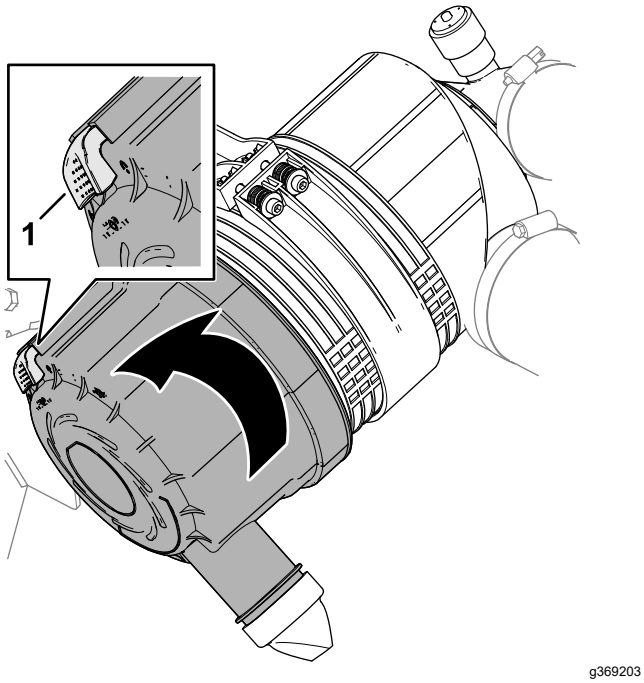
フィルタの取り外し

エアクリーナのフィルタの整備は、インジケータが赤色になってから行ってください。早めに整備を行っても意味がありません。むしろフィルタを外したときにエンジン内部に異物を入れてしまう危険が大きくなります。

重要 **本体とカバーが正しく、しっかりと密着しているのを確認してください。**

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. エアクリーナ本体にリーク原因となる傷や摩耗がないか点検してください。吸気部全体について、リーク、破損、ホースのゆるみなどを点検してください。

   注 エアクリーナや吸気部のパーツが摩耗・破損している場合は交換してください。
4. ラッチを引いて外し、カバーを左にひねってボディーからはずす図 119。



g369203

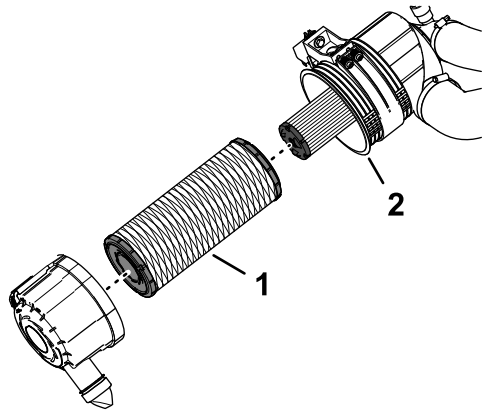
図 119

1. ラッチエアクリーナのカバー

5. エアクリーナのハウジングからカバーを外す。
6. フィルタを外す前に、低圧のエア2.75 bar = 2.8 kg、異物を含まない乾燥した空気で、1次フィルタとハウジングとの間に溜まっている大きなゴミを取り除く。**高圧のエアは使用しないこと。異物がフィルタを通ってエンジン部へ吹き込まれる恐れがある。**

   このエア洗浄により、1次フィルタを外した時にホコリが舞い上がってエンジン部へ入り込むのを防止することができる。
7. 1次フィルタエレメントを外す図 120。

   注 エレメントは清掃せず交換すること。



g369223

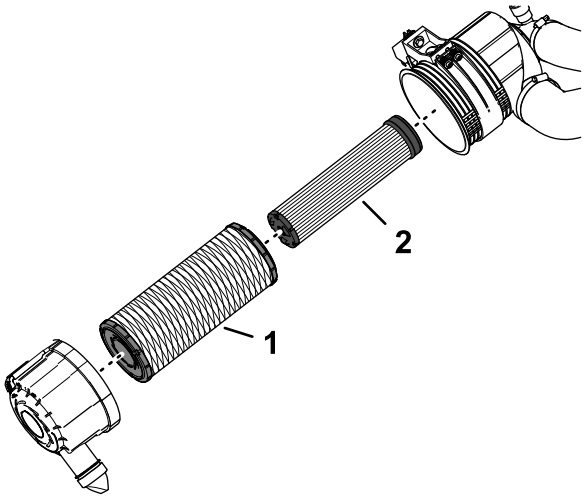
図 120

1. 1時エアフィルタのエレメント
2. エアクリーナのハウジング

フィルタの取り付け

1. 安全フィルタのエレメントを点検する図 121。汚れている場合は交換する。

   重要 **安全フィルタ図 121 は絶対に洗わないでください。安全フィルタは、主フィルタの3回目の整備時に新しいものと交換してください。**



g369204

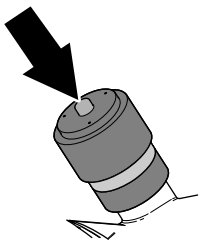
図 121

1. 1次エアフィルタのエレメント　2. 安全フィルタのエレメント

2. 新しいフィルタに傷がついていないかを点検する。特にフィルタエレメントとボディーの密着部に注意する。

   重要 **破損しているフィルタエレメントを使用しないでください。**
3. 1次フィルタエレメントを取り付ける。エレメントの外側リムの部分をしっかり握ってエレメントをハウジングに確実に取り付ける。

   重要 **フィルタの真ん中の柔らかい部分を持たないでください。**
4. エアクリーナカバーからダストイジェクタバルブを外して内部を清掃し、元通りに取り付ける。
5. ダストイジェクタバルブが下向き後ろから見たとき、時計の 5:00 と 7:00 の間になるようにカバーをハウジングに取り付ける。
6. 整備インジケータが赤色になっている場合は、インジケータの端部にあるリセットボタンを押す図 122。



g369218

図 122

7. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

オイルの仕様

以下の条件を満たす、低灰分low-ashの高品質エンジンオイルを使用してください

- API 規格 CJ-4 またはそれ以上
- ACEA 規格 E6
- JASO 規格DH-2

重要 **API CJ-4 以上、ACEA E6 または JASO DH-2 のオイルを使用しないと DPF が詰まってエンジンを破損します。**

以下の粘度のエンジンオイルを使用してください

- 推奨オイル SAE 15W-40 -18 °C 以上
- 他に使用可能なオイルSAE 10W-30 または 5W-30 全温度帯

Toro のプレミアムエンジンオイル 15W-40 または 10W-30を代理店にてお求めいただくことができます。

エンジンオイルの量を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日 必要に応じてエンジンオイルを補給してください。

エンジンにはオイルを入れて出荷していますが、初回運転の前に必ずエンジンオイルの量を確認してください。

注 エンジンオイルを点検する最もよいタイミングは、その日の仕事を始める直前、エンジンがまだ冷えているうちです。エンジン停止直後の場合には、10分間待ってからオイル量の点検を行ってください。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. ラッチを外してフードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. ディップスティックチューブからディップスティックを抜き図 123ウェスで一度きれいに拭く。

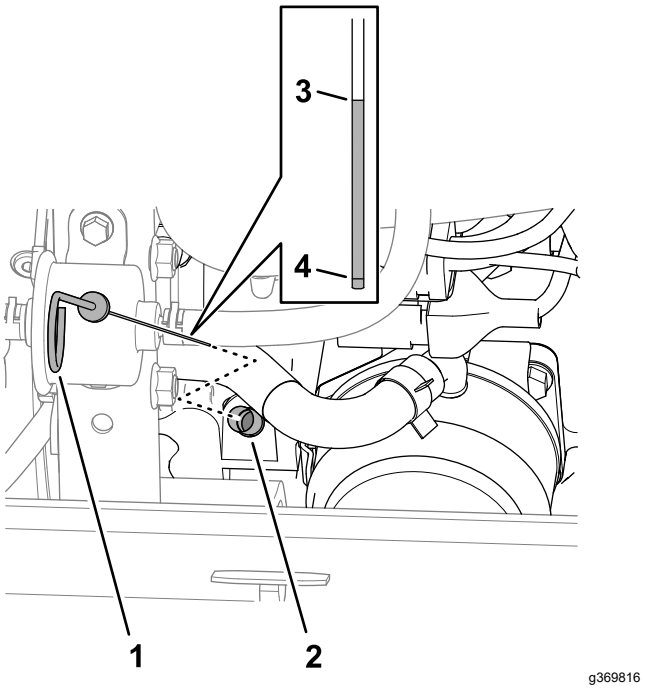


図 123

1. ディップスティック
2. ディップスティックチューブ
3. Full マーク
4. Add マーク

4. ディップスティックチューブの一番奥までディップスティックを差し込んで引き抜き、オイル量を確認する。

   注 油量が FULLマークとADDマークの間であれば補給の必要はありません。7へ進んでください。

5. オイルの量が不足している場合は、補給口のキャップ図 124を取り、ディップスティックで油量を確認しながら少しずつ、 FULL マークまで補給する。

   重要 **エンジンオイルの量が常時ディップスティックの上限と下限との間にあるようにしてください。エンジンオイルの量が多すぎても少なすぎても、常時ディップスティックの上限と下限との間にあるようにしてください。**

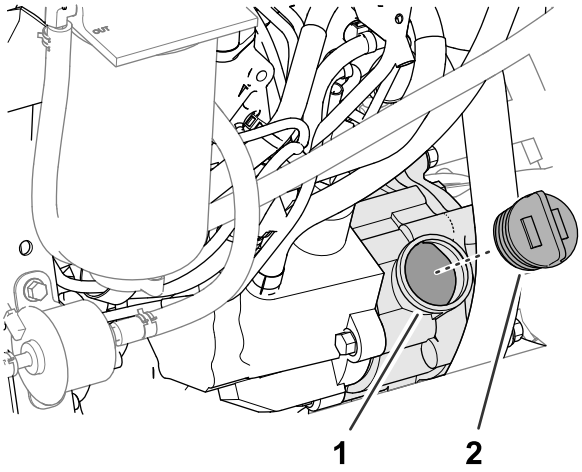


図 124

1. オイル補給口
2. 補給口キャップ

6. オイルキャップとディップスティックを取り付ける。
7. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

エンジンオイルの量

5.7 リットルフィルタ含む

エンジンオイルとフィルタの交換

整備間隔: 500運転時間ごと

エンジンオイルの抜き取り

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. オイル補給口のキャップを取る。
3. ドレンプラグの下にオイルを受ける容器をおく。
4. ドレンプラグ図 125を抜き取り、排出されるオイルを容器に回収する。

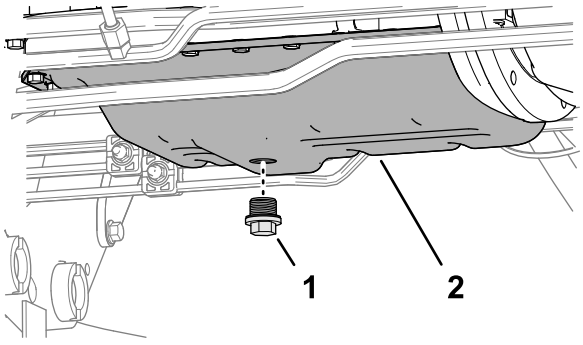


図 125

1. ドレンプラグ
2. エンジンオイルパン

5. エンジンからのオイルの流出が止まったら、ドレンプラグを取り付けて54-63 N·m5.6-6.5 kg.m = 40-47 ft-lbにトルク締めする。

オイルフィルタの交換

1. オイルフィルタを左に回して外す図 126。

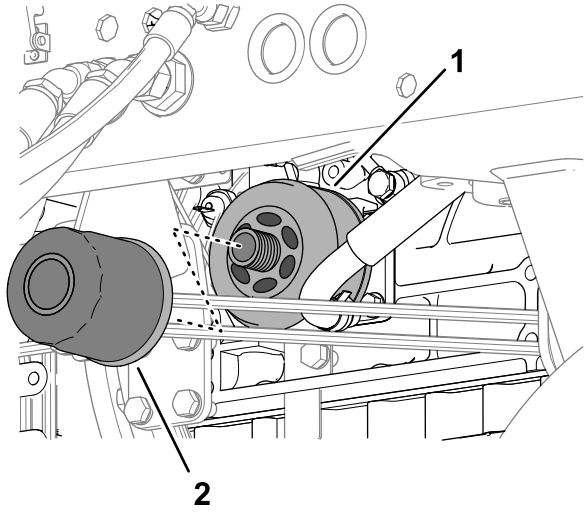


図 126

1. フィルタアダプタ
2. オイルフィルタ

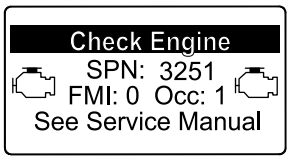
2. フィルタアダプタをウェスできれいに拭く。
3. 新しいフィルタのシールにきれいなエンジンオイルを薄く塗る。

   注 フィルタを締めつけすぎないように注意してください。
4. フィルタがアダプタに当たるまで手で回して取り付け、そこから更に1回転増し締めする。
5. エンジンにオイルを入れ、キャップを取り付ける オイルの仕様 (ページ 62)、 エンジンオイルの量 (ページ 63)、 エンジンオイルの量を点検する (ページ 62)を参照。

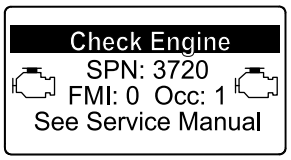
ディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの整備

整備間隔: 6000運転時間ごと—DPF のすすフィルタを分解、清掃、再組み立てする。 またはエンジンの不具合表示が SPN 3251 FMI 0、SPN 3720 FMI 0または SPN 3720 FMI 16 の場合は、すすフィルタを清掃する。

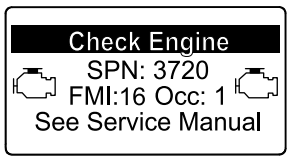
エンジンの不具合として CHECK ENGINE SPN 3251 FMI 0、CHECK ENGINE SPN 3720 FMI 0 またはCHECK ENGINE SPN 3720 FMI 16がインフォセンターに表示される場合には図 127、各表示の指示に従ってすすフィルタを清掃してください



g214715



g213864



g213863

図 127

1. DPF のディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの分解手順は、*サービスマニュアル* を参照のこと。
2. DPF のディーゼル酸化触媒DOCとすすフィルタの交換用パーツや整備については、サービスマニュアルを参照するか、弊社ディストリビュータに問い合わせる。
3. きれいな DPF に交換した後には、弊社ディストリビュータに依頼してエンジンのECUをリセットする。

燃料系統の整備

⚠ 危険

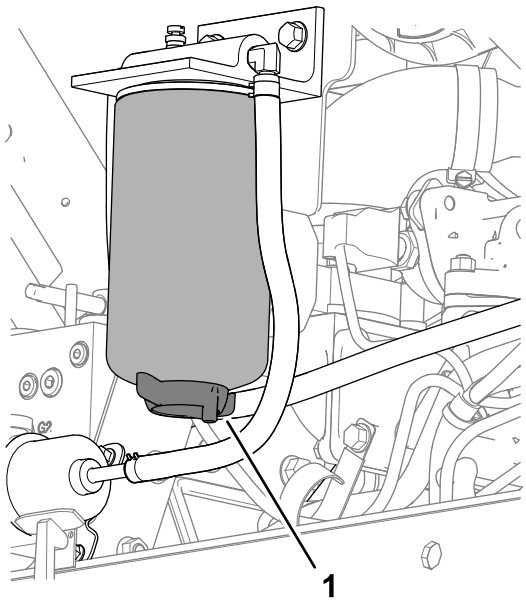
燃料や燃料蒸気は条件次第で簡単に引火爆発する。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- **燃料補給は必ず屋外で、また、エンジンが停止して冷えた状態で行う。こぼれた燃料はふき取る。**
- **燃料タンク一杯に入れないこと。給油は燃料タンクの首の根元から25 mm 程度下までとする。これは、温度が上昇して燃料が膨張したときにあふれないように空間を確保するためである。**
- **燃料取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。**
- **安全で汚れのない認可された容器で保存し、容器には必ずキャップをはめること。**

水セパレータからの水抜き

整備間隔: 使用するごとまたは毎日—水セパレータの水抜きと異物の除去。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. 水セパレータの下に回収容器をおく図 128。



g369829

図 128

1. ドレンバルブ水セパレータ

4. 水セパレータの下部にあるドレンバルブをゆるめ、排出される水と燃料を回収する。
5. 水セパレータの下部にあるドレンバルブを閉じる。

6. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

燃料ラインとその接続の点検

整備間隔: 400運転時間ごと/1年ごと いずれか早く到達した方

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

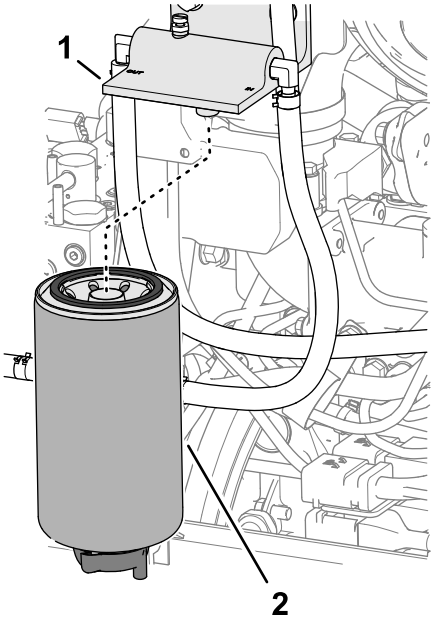
1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. 燃料ラインに磨耗・劣化・破損・ゆるみが発生していないかを調べる。

   注 磨耗・劣化している燃料ラインは交換、ゆるんでいる部分は締め付ける。
4. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

水セパレータのフィルタの交換

整備間隔: 400運転時間ごと

1. 水セパレータの水抜きを行うステップ14 水セパレータからの水抜き (ページ 64)。
2. 水セパレータのフィルタとフィルタヘッドを清掃する図 129。



g369850

図 129

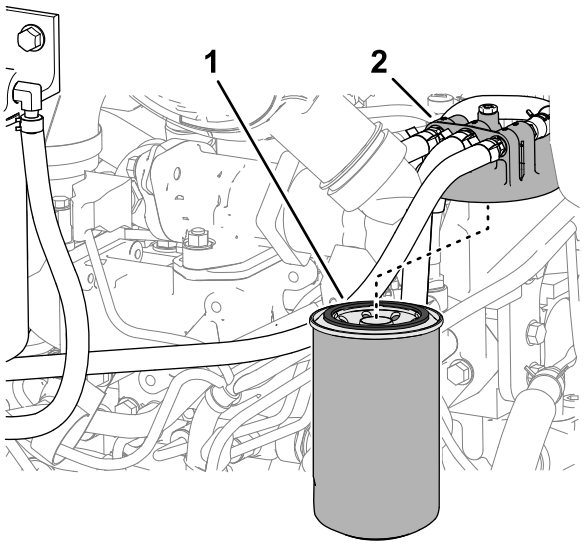
1. フィルタのヘッド
2. 燃料水セパレータ

3. フィルタヘッドから水セパレータフィルタを外す。
4. フィルタヘッドのフィルタ取り付け面を洗浄する。
5. 新しいフィルタのガスケットきれいな燃料を薄く塗る。
6. ガスケットが取りつけ面に当たるまでフィルタを手で回してフィルタヘッドに取り付け、そこから更に½回転増し締めする。
7. 水セパレータの下部にあるドレンバルブを確実に閉じる。
8. エンジンを始動し、セパレータのフィルタとフィルタヘッドの周囲に漏れがないか点検する。
9. エンジンを停止してキーを抜き取り、フードを降ろしてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

エンジン側燃料フィルタの交換

整備間隔: 400運転時間ごと

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. 燃料フィルタのヘッドの周囲をきれいに拭く図 130。



g369851

図 130

1. 燃料フィルタ
2. 燃料フィルタのヘッド

4. フィルタを外してフィルタヘッドの取り付け部をきれいに拭く図 130。
5. フィルタのガスケットにきれいなエンジンオイルを塗る詳細については車両付属のエンジンマニュアルを参照。
6. ドライフィルタキャニスタを、ガスケットが取り付け部に当るまで手でねじ込み、そこからさらに1/2回転締め付ける。
7. エンジンを始動し、燃料フィルタヘッドの周囲に漏れがないか点検する。

8. エンジンを停止してキーを抜き取り、フードを降ろしてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

燃料タンクを空にして内部を清掃する

整備間隔: 800運転時間ごと

長期保管前

燃料系統が汚染された時や、マシンを長期にわたって格納する場合はタンクを空にして内部を清掃してください。タンクの清掃にはきれいな燃料を使用してください。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 燃料タンクの下に燃料回収用の容器を置く図 131 。

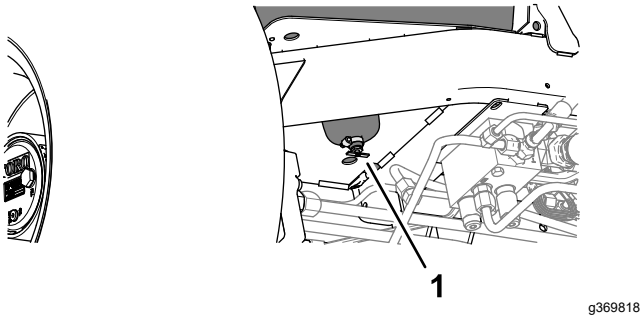


図 131

1. ドレンバルブ燃料タンク下部

3. ドレンバルブを開き、排出される燃料を回収する。
4. 必要に応じ、きれいな燃料をタンクに入れてタンク内部を洗浄する。
5. ドレンバルブを閉じる。

   注 タンクに燃料を入れる際、ドレンバルブが確実に閉まっていることを確認してください。

燃料ろ過スクリーンの清掃

平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。

燃料タンク内部にある燃料供給チューブには、燃料系統に異物が入るのを防止するスクリーンがついています。必要に応じてこのチューブを取り外して清掃してください。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 運転席を倒す 座席を倒す (ページ 57)を参照。
3. ホースを燃料ピックアップチューブに固定しているクランプを外す図 132 。

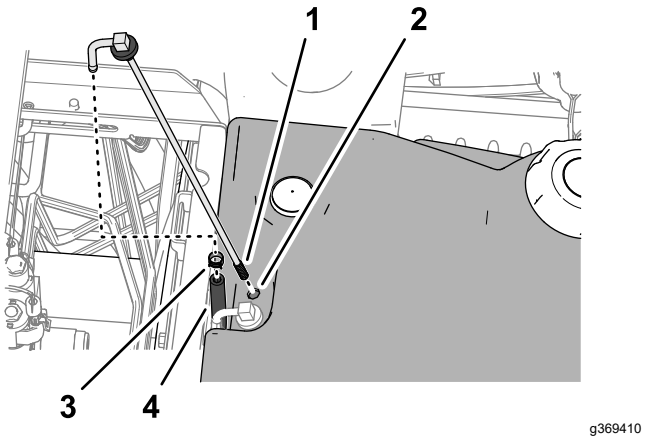


図 132

1. スクリーン燃料ピックアップチューブ
2. 燃料タンク
3. ホースクランプ
4. ホース

4. タンクから燃料ピックアップチューブとゴム製ブッシュを外す。
5. 燃料ピックアップチューブについているスクリーンを洗浄する図 132 。
6. 燃料ピックアップチューブとブッシュをタンク内に入れ、ブッシュを確実にタンクに着座させる。
7. ホースを燃料ピックアップチューブに取り付け、クランプで固定する。
8. 運転席を戻してラッチで固定する 座席をもとに戻す。 (ページ 57)を参照。

電気系統の整備

電気系統に関する安全確保

- マシンの整備や修理を行う前に、バッテリーの接続を外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラスを先に接続し、次にマイナスを接続してください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。

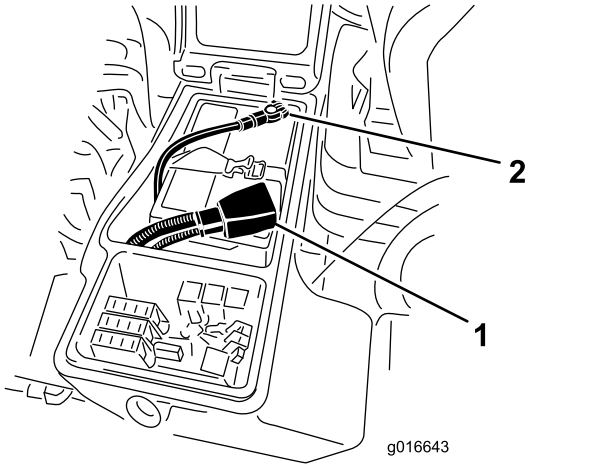
バッテリーの接続を外す

⚠ 危険

電解液には硫酸が含まれており、触れると火傷を起こし、飲んだ場合には死亡する可能性がある。

- **電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。安全ゴーグルとゴム手袋で目と手を保護すること。**
- **皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。**

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. バッテリーコンパートメントを開く バッテリーコンパートメントへのアクセス (ページ 57)を参照。
3. バッテリーのマイナスケーブルを外す図 133。



g016643

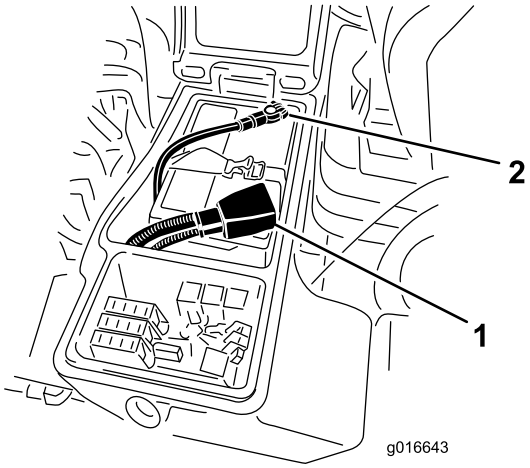
図 133

1. プラスケーブル　　2. マイナスケーブル

4. プラスケーブルについているゴム製カバーを外し、プラスケーブルをバッテリーから外す。

バッテリーを接続する

1. バッテリーのプラス 端子に、プラスケーブル赤を接続する図 134。



g016643

図 134

1. プラスケーブル　　2. マイナスケーブル

2. バッテリーのマイナス-端子にマイナスケーブル黒を接続する。
3. バッテリー端子とケーブルクランプに Grafo 112X スキンオーバーグリスを塗る。
4. プラスのバッテリーケーブルクランプにゴム製絶縁カバーを取り付ける。
5. バッテリーコンパートメントのカバーを取り付けてラッチを掛ける。

バッテリーを充電する

1. バッテリーの接続を外す バッテリーの接続を外す (ページ 67)を参照。
2. 充電器に接続し、充電電流を 3-4 A にセットする。
3. 3-4 Aで4-8時間充電する。
4. 充電が終わったらチャージャをコンセントから抜き、バッテリー端子からはずす。
5. バッテリーを接続する バッテリーを接続する (ページ 67)を参照。

バッテリーの整備

整備間隔: 50運転時間ごと

注 端子や周囲が汚れていると自然放電しますので、バッテリーが汚れないようにしてください。

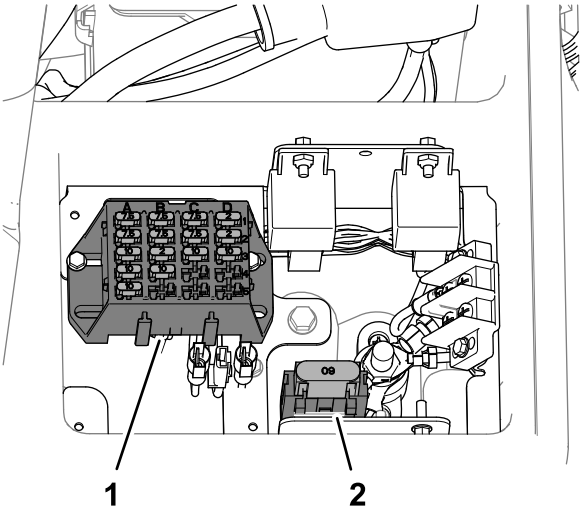
1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. バッテリーコンパートメントを開く バッテリーコンパートメントへのアクセス (ページ 57)を参照。
3. バッテリーの状態の点検。

   注 磨耗したり破損したりしたバッテリーは交換してください。
4. バッテリーケーブルを外してバッテリーをマシンから取り出す バッテリーの接続を外す (ページ 67)を参照。
5. 重曹と水重曹水でケース全体を洗う。
6. 真水でケースを仕上げ洗いする。
7. バッテリーをマシンに取り付け、バッテリーケーブルを接続する バッテリーを接続する (ページ 67)を参照。
8. バッテリーコンパートメントのカバーを取り付けてラッチを掛ける。

ヒューズの交換

ヒューズブロックはバッテリーコンパートメントにあります。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. バッテリーコンパートメントを開く バッテリーコンパートメントへのアクセス (ページ 57)を参照。
3. 切れているヒューズを交換する図 135。同じタイプ、同じ電流値のヒューズに交換する。



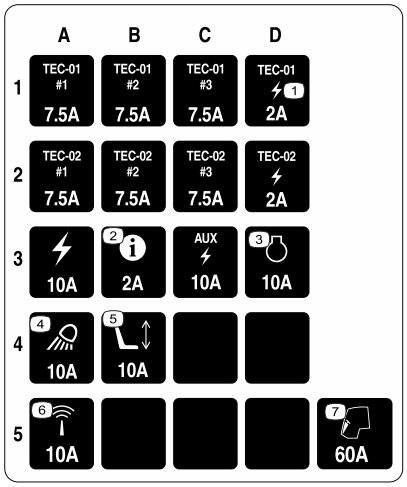


図 135

1. ヒューズブロック
2. Maxi ヒューズのソケット

4. バッテリーコンパートメントのカバーを取り付けてラッチを掛ける。

走行系統の整備

タイヤ空気圧を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

重要 **マシンの性能を適切に発揮させ、また質の高い刈り込みを実現するために、すべてのタイヤの空気圧を推奨値に維持してください。タイヤ空気圧は規定値以下に下げてはならない。**

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. タイヤ空気圧を測定する。

   注 タイヤの適正空気圧は、0.83-1.03 bar 12-15 psiです。
3. 必要に応じて空気圧を増減する。
4. 他のタイヤにもステップ2-3の作業を行う。

ホイールナットのトルクを点検する

整備間隔: 使用開始後最初の 8 時間

200運転時間ごと

⚠ 警告

この整備を怠ると車輪の脱落や破損から人身事故につながる恐れがある。

運転開始から1-4時間後に1回と8時間後にもう1回、前輪と後輪のホイールナットのトルク締めを行うこと トルク値は 115-136 N·m12-14 kg.m = 85-100 ft-lb。その後は 200 運転時間 ごとにトルク締めを行う。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. ホイールナットを 115-136 N·m11.8 -13.8 kg.m = 85-100 ft-lbにトルク締めする。

   注 前輪のナットは 1/2–20 UNF; 後輪のナットは M12 x 1.6-6Hメートルねじです。

プラネタリドライブ端部のガタの点検

整備間隔: 400運転時間ごと

⚠ 危険

ジャッキに載っている車体は不安定であり、万一外れると下にいる人間に怪我を負わせる危険が大きい。

- **ジャッキアップした状態では車両を始動しないこと。**
- **車両から降りる時は必ず スイッチからキーを抜いておく。**
- **ジャッキアップしている時にはヤイヤに輪止めを掛けること。**
- **機体をジャッキスタンドで支える。**

プラネタリドライブとホイールとの間にガタがあってはなりません ホイールを軸方向に押し引きしたときにホイールが動く場合はガタがあります。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 後輪に輪止めを掛けて機体前部をジャッキアップする仕様 (ページ 28)と ジャッキアップポイント (ページ 57)を参照。
3. 機体の前部フレームをジャッキスタンドで支持する。
4. 左右の前駆動輪のうちの一つを持って抜き差し方向に押し引きし、車輪が動かないことを確認する。

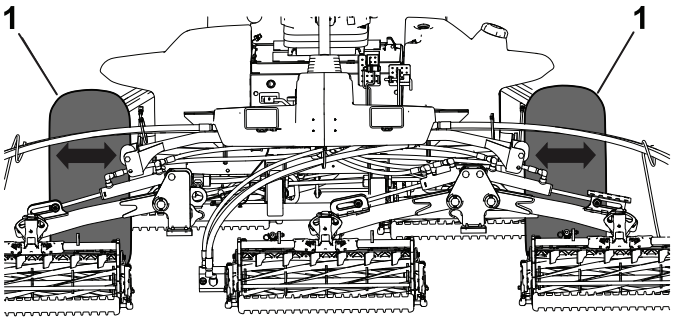


図 136

1. 前駆動輪

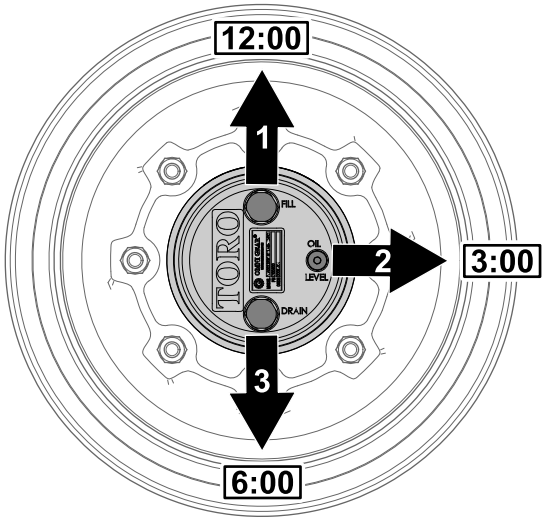
5. もう1個のホイールにもステップ4の点検を行う。
6. どちらか一方でもホイールが動く場合は、代理店に連絡してリビルドしてもらう

プラネタリギアオイルの点検

整備間隔: 400運転時間ごと オイル漏れを発見した場合はすぐに点検する。

ギアオイルの種類高品質の SAE 85W-140 ギアオイル

1. 水平な床面で、補給プラグが時計の 12 時の位置、点検プラグが 3 時、ドレンプラグが 6 時の位置を指すように駐車する図 137。



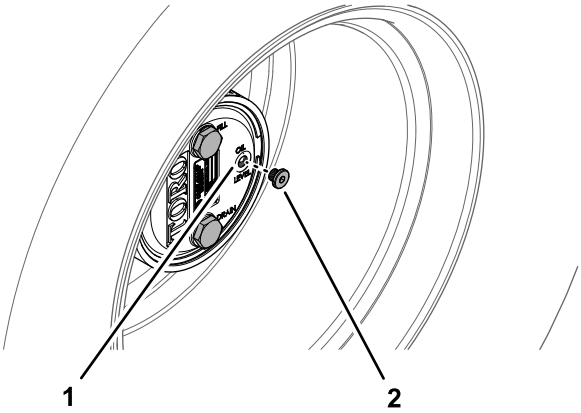
g225612

図 137

1. 補給プラグ12 時の位置
2. 点検プラグ3 時の位置
3. ドレンプラグ6 時の位置

2. 3 時の位置にある点検プラグを外す図 137。

   オイルが点検穴の下ふちまであれば適正である。



g225606

図 138

1. 点検プラグの穴
2. 点検プラグ

3. オイル量が不足している場合には、12 時の位置にある補給プラグを外し、所定レベルである 3 時の位置の高さになるまでオイルを補給する。
4. 各プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検する。

   注 必要に応じて O リングを交換してください。
5. 各プラグを取り付ける。
6. マシンの反対側のプラネタリギアアセンブリにも、ステップ 1-5 の作業を行う。

プラネタリギアオイルの交換

整備間隔: 使用開始後最初の 50 時間

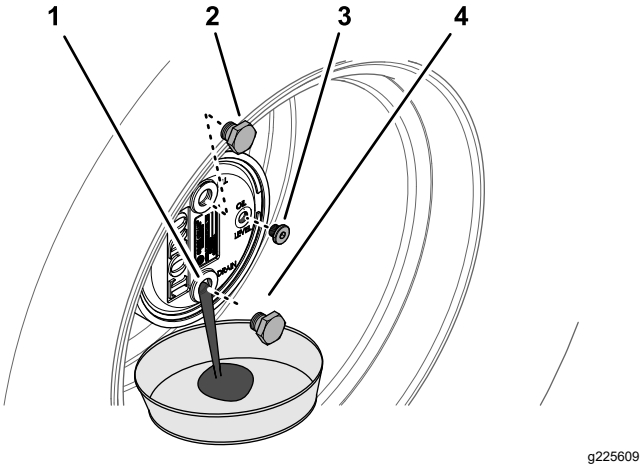
800運転時間ごと または1年に1回のうち早く到達した方の時期。

ギアオイルの種類高品質の SAE 85W-140 ギアオイル

プラネタリギアとブレーキハウジングのオイルの量 0.65 リットル

プラネタリギアドライブからのオイル抜き作業

1. 水平な床面で、補給プラグが時計の 12 時の位置、点検プラグが 3 時、ドレンプラグが 6 時の位置を指すように駐車する図 137 プラネタリギアオイルの点検 (ページ 70)を参照。
2. 補給プラグがが時計の 12 時を指し、点検プラグ が 3 時の位置を指すようにマシンを駐車する図 139。



g225609

図 139

1. ドレンプラグの穴
2. 補給プラグ
3. 点検プラグ
4. ドレンプラグ

3. プラネタリハブの下にオイル回収容器を置き、6 時の位置にあるドレンプラグを外してオイルを抜く図 139。
4. 補給用、点検用、ドレン用の各プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検する。

   注 必要に応じて O リングを交換してください。
5. プラネタリハウジングのドレン穴にプラグを取り付ける図 139。

6. ブレーキハウジングの下に容器を置き、プラグを外してオイルを抜く図 140。

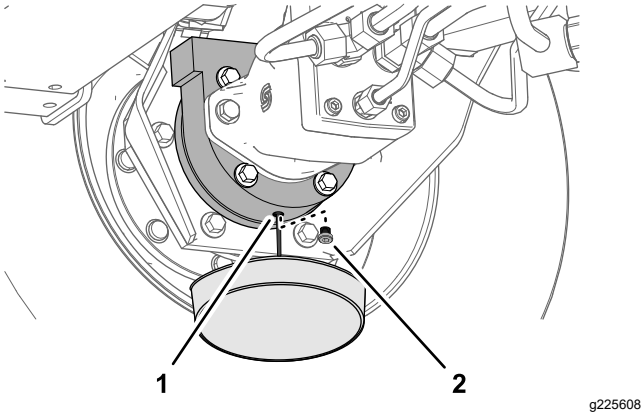


図 140

1. ドレン穴ブレーキハウジング　2. ドレンプラグ

7. プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検し、問題がなければ元通りに取り付ける。

   注 必要に応じて O リングを交換してください。

プラネタリギアドライブへのオイルの補給

1. 補給プラグの穴から、高品質の SAE 85W-140 wt. ギアオイル 650 ml を、ゆっくりと入れる。

   重要 **650 ml が入り終わる前に一杯になってしまった場合は、1時間ほど待つか、一度プラグをはめてマシンを 3 m ほど移動させると、ブレーキシステムにオイルがまわって残り量を補給することができるようになります。そのようにして全量を入れてください。**

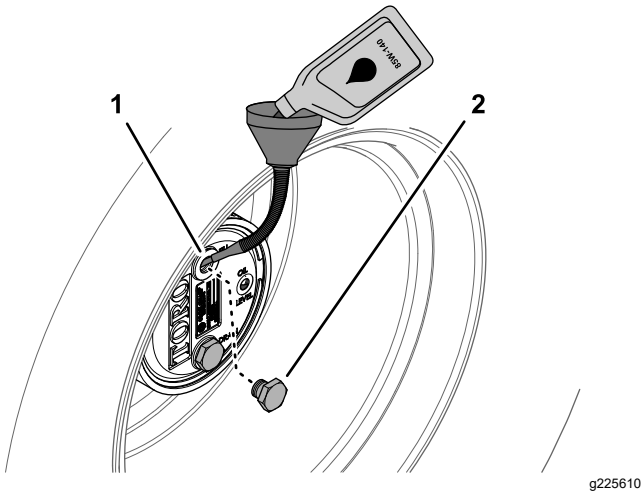


図 141

1. 補給プラグの穴プラネタリハウジング　2. 補給プラグ

2. 補給プラグと点検プラグを取り付ける。

3. プラネタリハウジングとブレーキハウジングをきれいに拭く図 142。

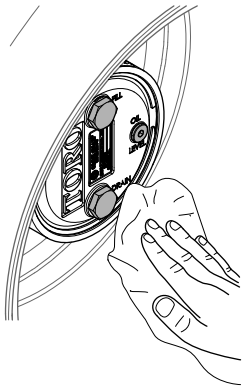


図 142

4. マシンの反対側ののプラネタリアセンブリとブレーキアセンブリにも、ステップ 1-7 プラネタリギアドライブからのオイル抜き作業 (ページ 70)とステップ1-3の作業を行う。

後アクスルのオイル量を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

400運転時間ごと エンジンを初めて作動させる前にも点検する。

アクスルオイルの種類 SAE 85W140 ギアオイル

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. アクスルハウジングの一方の端から点検プラグを外す図 143。

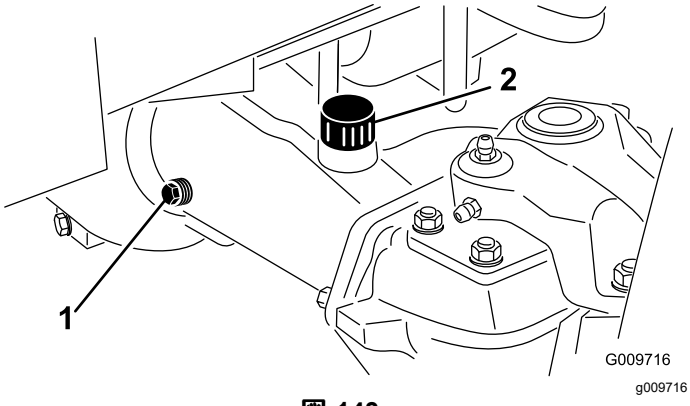


図 143

1. 点検プラグアクスルハウジング　2. 補給プラグアクスルハウジング

3. 点検プラグの穴からアクスル内部のオイルの量を確認する。

   注 点検プラグの穴の下側の縁までオイルがあれば適正である。

4. オイル量が不足している場合は、補給プラグを外して所定のギアオイルを補給する。オイル面が点検プラグの穴の下側の縁にくるまで補給する。
5. 点検プラグを取り付ける。
6. 補給終了後は補給プラグを元通りに取り付ける。

後アクスルのオイル交換

整備間隔: 使用開始後最初の 200 時間

800運転時間ごと

後アクスルオイルの量 2.4 リットル

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. ドレンプラグ全部で3個の周囲をきれいに拭く図 144 各ベベルギアケースアクスルハウジングの外側に1つずつと中央のギアケースに1つ付いている。

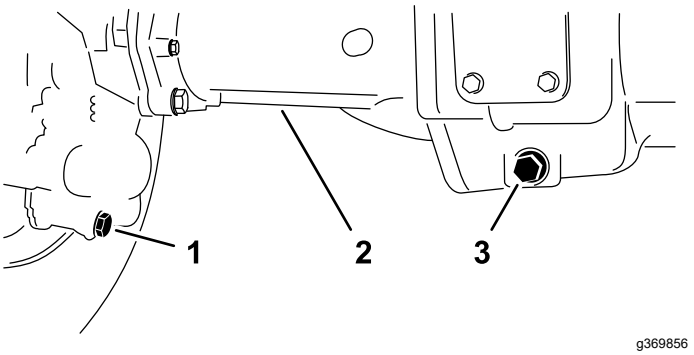


図 144

1. ドレンプラグアクスルケース外側
2. アクスルハウジング
3. ドレンプラグ中央ギアケース

3. 各ドレンプラグ図 144を抜き取り、排出されるオイルを容器に回収する。
4. オイルが抜けやすいようにアクスルハウジングの点検プラグ2個と補給プラグ1個を外す図 145。

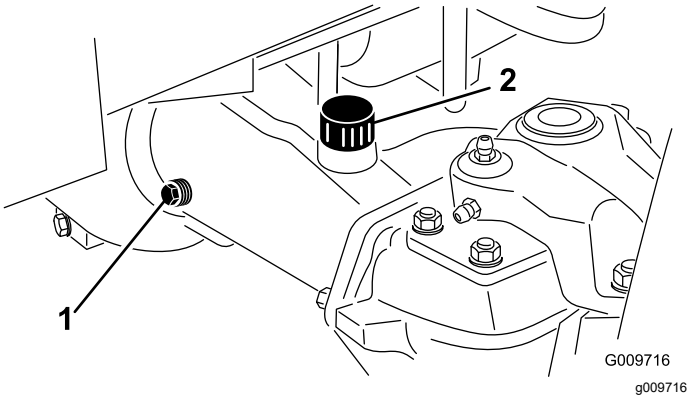


図 145

1. 点検プラグアクスルハウジング
2. 補給プラグアクスルハウジング

5. アクスルハウジングのドレンプラグ3個と点検プラグをブリーザフィッティングと共に取り付ける。
6. アクスルポートの補給プラグを外し、そこから 85W-140 ギアオイルをおよそ 2.37 リットル入れる。穴の下側の縁までオイルが入ればよい。
7. 補給プラグと点検プラグを取り付ける。

減速ギアケースのオイルを点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

400運転時間ごと 初めてエンジンを始動する前にも点検する。

減速ギアケースオイルの種類 SAE 85W140 ギアオイル

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 減速ギアケース左側面にある点検補給プラグを外す図 146。

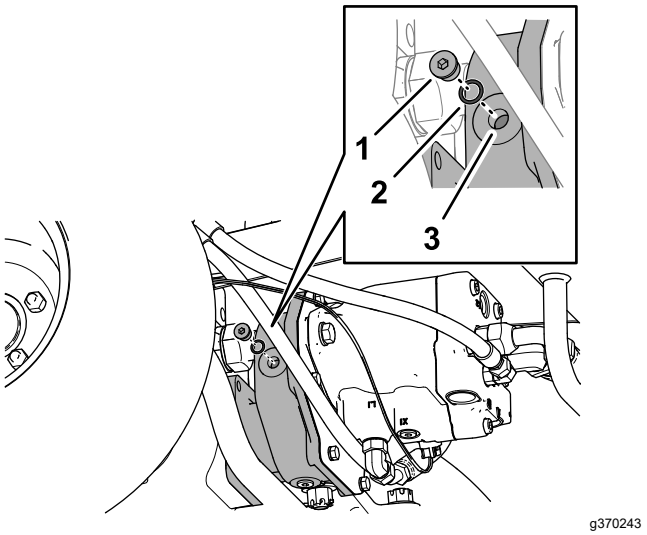


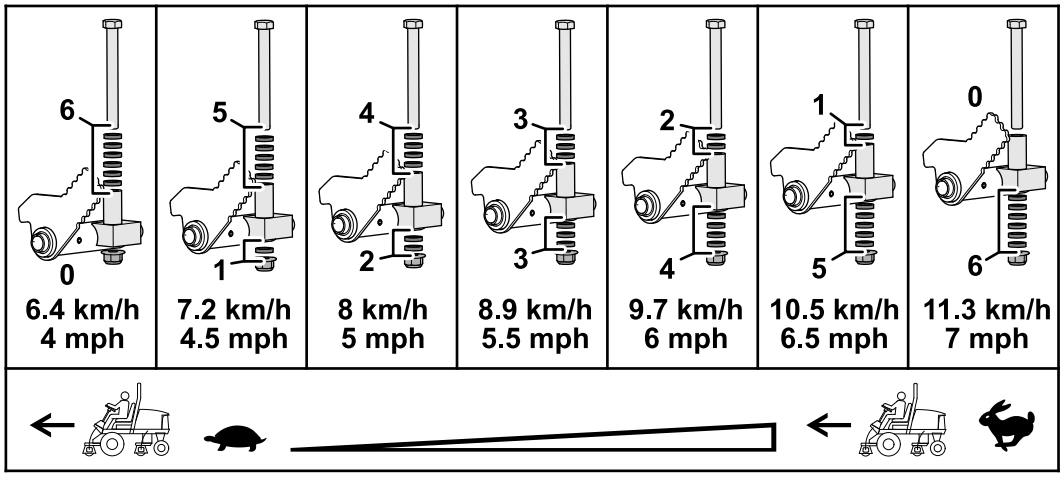
図 146

1. 点検・補給プラグ
2. リング
3. 減速ギアケース

3. プラグについている O リングに磨耗や破損がないか点検する。
4. ギアケースのオイル量を点検する。

   注 点検補給プラグの穴の下側の縁までオイルがあれば適正である。
5. ギアオイルの量が不足している場合は、所定のオイルをケースに補給する。点検補給プラグの穴の下側の縁まで補給する。。
6. 点検補給プラグを取り付ける。

刈り込み速度スペーサ表



g368821

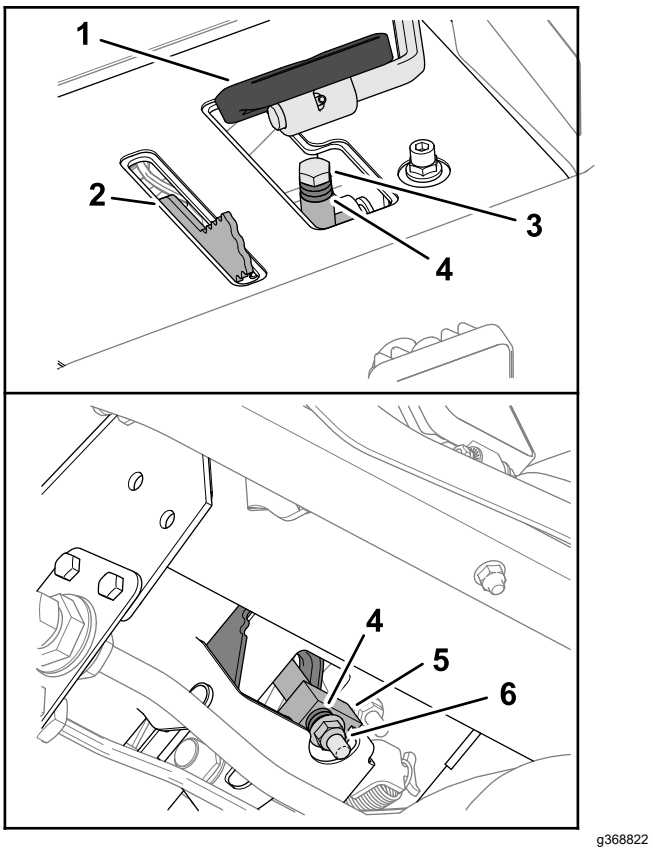
図 147

最大刈り込み速度・移動走行速度の調整

刈り込み速度スペーサの調整

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 刈り込み速度スペーサ表で刈り込み時の最大走行速度と短いスペーサの位置との関係を調べる 刈り込み速度スペーサ表 (ページ 73)を参照。

   注 短いスペーサ1枚で、刈り込み速度が 0.8 km/h 変化します。
3. 走行ペダルの下でスペーサを刈り込みストップブロックに固定しているストップボルトとフランジロックナットを外す 図 148。



g368822

図 148

1. 走行ペダル
2. 刈り込み速度リミッタ
3. ストップボルト
4. 短いスペーサ
5. 刈り込みストップブロック
6. フランジロックナット

4. 刈り込みストップブロックの上に長いスペーサをセットする。
5. ステップ2で決めた数の短いスペーサをセットする。

6. 刈り込みストップブロックにスペーサを固定するステップ3で外したストップボルトとフランジロックナットをを使用する。

   注 短いスペーサ6個全部と長いスペーサのすべてを取り付ける必要があります。

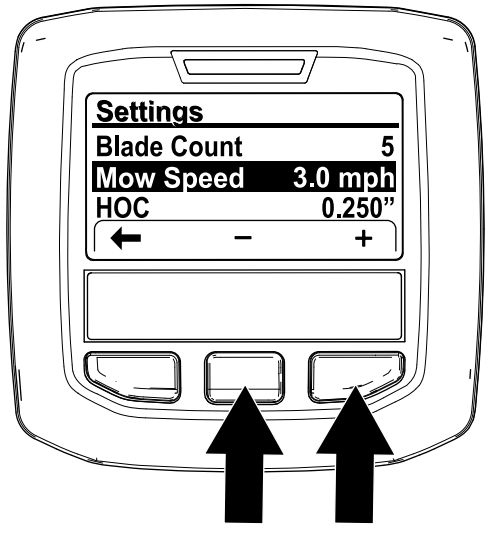
7. インフォセンターに刈り込み速度をセットする 刈り込み速度をインフォセンターに設定する (ページ 74)を参照。

刈り込み速度をインフォセンターに設定する

インフォセンターに設定される刈り込み速度は、 TECがリール回転速度を最大刈り込み走行速度に合わせて調整するために使用されます。

1. インフォセンターでメインメニューにアクセスする。
2. メインメニューで、真ん中のボタンを何度か押してSETTING 設定メニューになったら右ボタンを押す。
3. 設定メニューで、真ん中のボタンを何度か押して PROTECTED MENUS 保護設定メニューになったら右ボタンを押す。
4. 保護メニュー画面で、PIN コードを入力する アクセス制限付きメニューへのアクセス (ページ 27)を参照。
5. 設定メニューで、真ん中のボタンを何度か押してMOW SPEED 刈り込み速度になったら右ボタンを押す。
6. 刈り込み速度画面で、真ん中のボタンと右のボタンを使用して、ステップ2 刈り込み速度スペーサの調整 (ページ 73)で決定した刈り込み時最大走行速度を刈り込み速度として設定する。

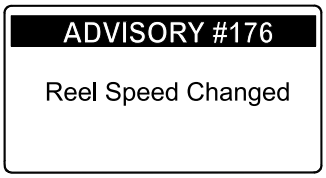
   注 刈り込み速度設定は 0.8 km/h 刻みで増減することができます。



g368874

図 149

注 インジケータランプが点灯し、アドバイス #176 リール速度が変更されましたが表示されます。



g368873

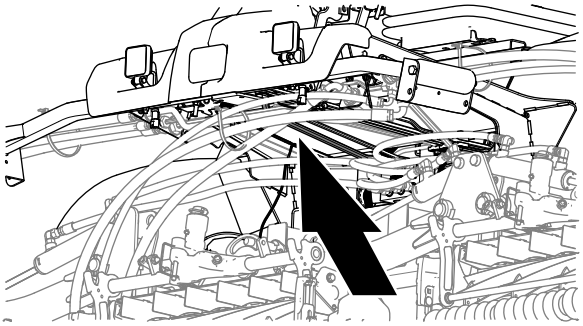
図 150

7. 左ボタンを押して設定画面に戻る。

走行ドライブのニュートラル調整

走行ペダルが踏みこまれていないときはマシンが停止していなければなりません。マシンが動くようであれば走行ドライブのニュートラル調整を行ってください。

1. 平らな場所に駐車し、エンジンを停止し、速度コントロールをローレンジにセットし、カッティングユニットを床面に降下させる。
2. 右側のブレーキペダルのみを踏み込んで駐車ブレーキを掛ける。
3. 機体の左側前部をジャッキアップして前輪を床から浮かす。落下事故防止のために、ジャッキスタンドなどを使って機体をサポートする仕様 (ページ 28)と ジャッキアップポイント (ページ 57)を参照。
4. エンジンを始動し、アイドル速度で回転させる。
5. ロッドの端部についているジャムナットを調整する前進を止めるなくすには走行ロッドを前へ動かし、後退をなくしたい場合には、後ろへ動かす図 151と図 152。



g370368

図 151

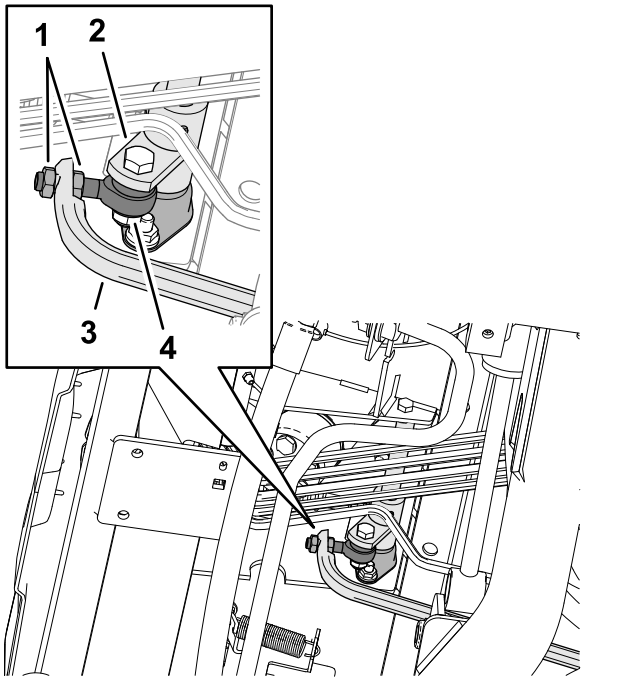


図 152

1. ジャムナット
2. 走行ハブのピボット
3. 走行ロッド
4. ロッドの端部

6. 車輪が回転しないようになったら、ジャムナットを締めて調整を固定する。
7. エンジンを止め、キーを抜き取る。
8. ジャッキスタンドをはずし、機体を床に下ろす。
9. 試験運転で調整を確認する。

後輪のアライメント点検

整備間隔: 800運転時間ごと/1年ごと いずれか早く到達した方

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 後輪の前と後ろで、左右のタイヤの中央線間距離を測るアクスルの高さ位置で計測。

   注 前での測定値が、後ろでの測定値より 3mm 小さければ合格とする図 153。

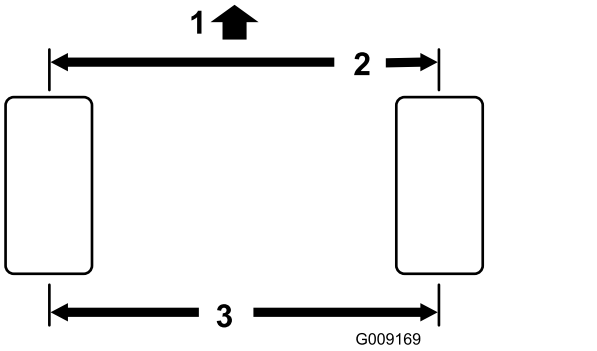


図 153

1. トラクションユニットの前部
2. タイヤの後ろでの測定よりも 3 mm 小さい
3. 中心線から中心線までの距離

後輪のトーインの調整

1. 後アクスルで、タイロッドの両端にあるコッターピンとスロット付きナットを外す図 154。

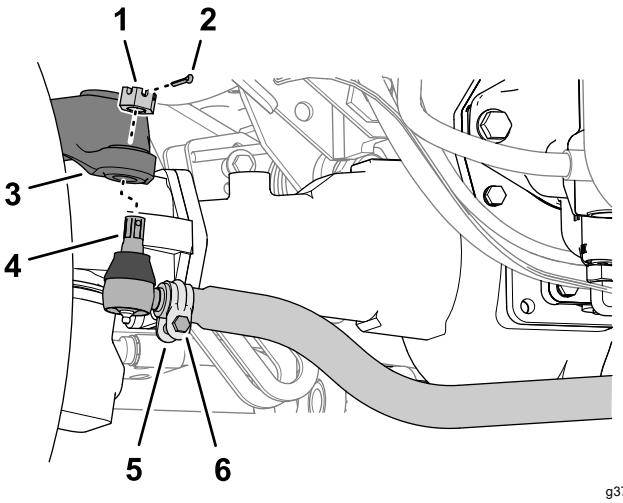


図 154

1. スロット付きナット
2. コッターピン
3. アクスルケーススステアリングアーム
4. タイロッドの端部
5. クランプ
6. ナットとボルト

2. アクスルケーススステアリングアームからタイロッドの端部を外す。
3. タイロッド両側のクランプをゆるめる図 154。
4. 外したボールジョイントを内側または外側に1回転させる。
5. タイロッドの外れている側のクランプを締める。
6. タイロッドアセンブリ全体を同じ方向内まわりまたは外まわりに1回転させる。
7. ロッドの連結されている側のクランプを締める。

8. アクスルケースステアリングアームにタイロッドの端部を取り付けてスロット付きナットで固定する。
9. トーインを測定する 後輪のアライメント点検 (ページ 75)を参照。
10. 必要に応じ、スロット付きナットを外してステップ 2-9を繰り返す。
11. 前後の測定の差が 3 mm になっていればスロット付きナットを取り付けてコッターピンで固定する。

冷却系統の整備

冷却系統に関する安全確保

- 冷却液を飲み込むと中毒を起こす冷却液は子供やペットが触れない場所に保管すること。
- 高温高圧の冷却液を浴びたり、高温のラジエター部分に触れたりすると大火傷をする恐れがある。
  - エンジン停止後、少なくとも15分間程度待って、エンジンが冷えてからキャップを開けること。
  - キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。

冷却液の仕様

出荷時に、冷却液タンクに、所定の長寿命冷却液水とエチレングリコールの 50/50 混合液ベースを入れてあります。

重要 **長寿命冷却液の仕様表の内容に合致する市販の冷却液以外は使用しないでください。**

従来タイプ緑色の無機酸技術IATの冷却は使用しないでください。また、長寿命冷却液と従来タイプを混合しないでください。

冷却液の仕様

エチレングリコールタイプ	腐食防止タイプ
長寿命不凍液	有機酸技術OAT Organic-acid technology
重要 **従来の緑色冷却液IAT無機酸技術製品と長寿命冷却液は、目で見た時の色で区別することはできません。** **長寿命冷却液は、以下の色で着色されている場合があります赤、ピンク、オレンジ、イエロー、ブルー、青緑、紫、緑。必ず長寿命冷却液の仕様に合致する製品を使用してください。**	

長寿命冷却液の規格

ATSM International	SAE International
D3306, D4985	J1034, J814, 1941

重要 **冷却液濃度原液と水の 50/50 混合液。**

- **好ましい方法**原液と蒸留水を混合する。
- **他の好ましい方法**蒸留水が入手できない場合は、原液でなく、希釈済みの冷却液を購入する。
- **最低限度守るべき方法**蒸留水も希釈済み製品も入手できない場合には、飲料水で原液を希釈する。

冷却液の量の点検

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

⚠ 注意

エンジン停止直後にラジエターのキャップを開けると、高温高圧の冷却液が吹き出してやけどを負う恐れがある。

- **エンジン回転中はラジエターのふたを開けないこと。**
- **キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。**

1. マシンの整備の準備を行う 冷却液の量の点検 (ページ 76)を参照。
2. フードを開けてエンジンが冷えるのを待つ フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. ラジエターキャップを注意深く取る図 155。

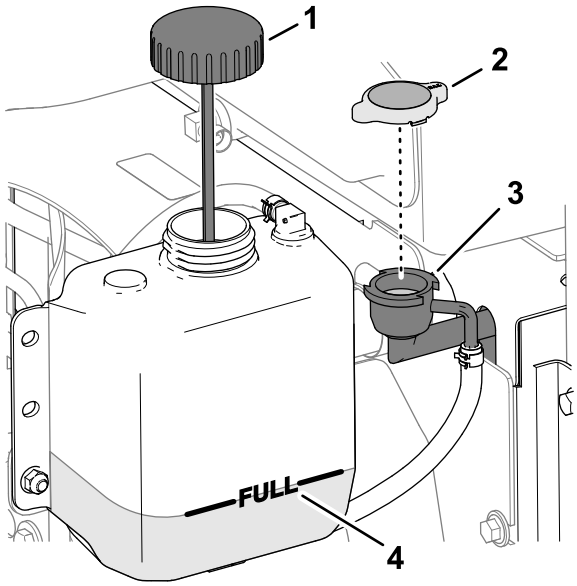


図 155

1. キャップ補助タンク
2. ラジエターのキャップ
3. 補給口
4. FULL マーク

4. ラジエター内部の液量を点検する。

   注 ラジエターの補給口まであれば液量は適正である図 155。
5. 補助タンクで冷却水の量を点検する。

   注 補助タンクの FULL マークまであれば液量は適正である。
6. 液量が不足している場合は、ラジエターと補助タンクのいずれかまたは両方に所定の冷却液を補給する 冷却液の仕様 (ページ 76)を参照。
7. 各タンクのキャップを閉める
8. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

エンジンの冷却システムの整備

整備間隔: 使用するごとまたは毎日 汚れが激しければより頻繁な清掃が必要です。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 後部スクリーンのラッチを外してスクリーンを開く図 156。

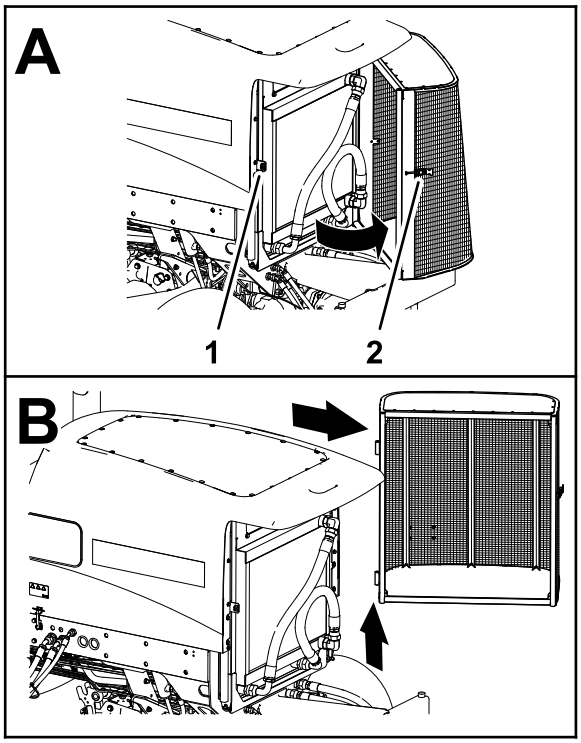


図 156

1. ラッチキーパー
2. 後スクリーンのラッチ

3. スクリーンの両面をきれいに清掃する。
4. 蝶番ピンからスクリーンを持ち上げてスクリーンを外す。
5. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
6. オイルクーラとラジエターの両方の裏表図 157を圧縮空気で丁寧に清掃する。前側から清掃を始め、車体後方に向けてごみを吹き飛ばす。その後、今度は後ろ側から前側に向かって吹きつけて清掃する。この作業を数回繰り返してごみやほこりを十分に落とす。

   重要 **オイルクーラ/ラジエター部を水で清掃すると、さびが発生したり、各部の破損が早く進む恐れがあり、ほこりが固くこびりつくので避けてください。**

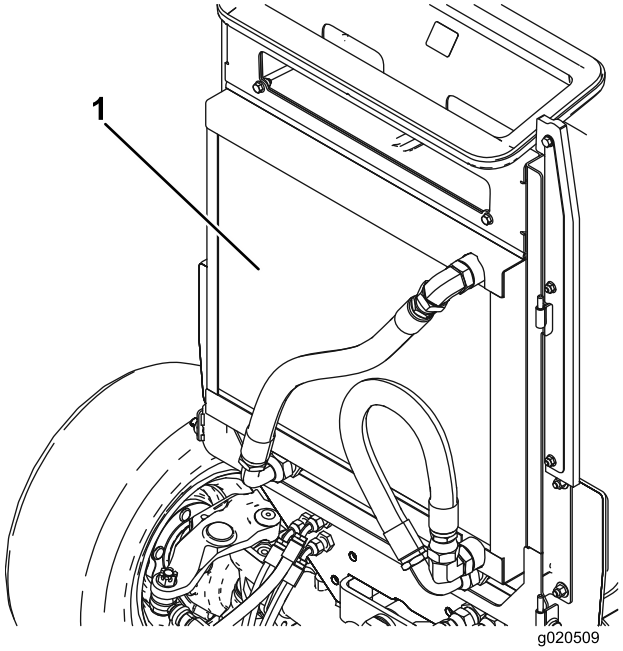


図 157

1. オイルクーラ/ラジエター

7. フードを元に戻してラッチを掛ける フードを閉じる (ページ 56)。
8. 蝶番ピンにスクリーンを取り付ける図 158。

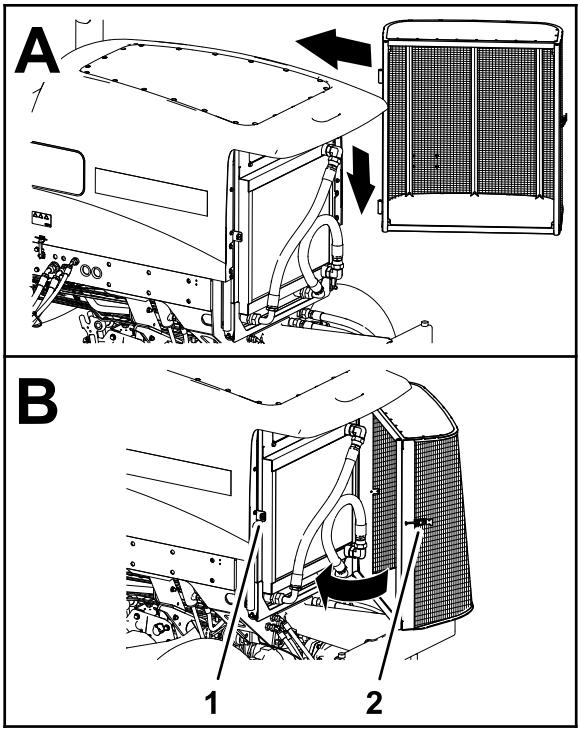


図 158

1. ラッチキーパー　　2. 後スクリーンのラッチ

9. スクリーンを元に戻してラッチを掛ける。

ブレーキの整備

ブレーキの調整

ブレーキペダルの遊びが 13 mm 以上となったり、ブレーキの効きが悪いと感じられるようになったら、調整を行ってください。遊びとは、ブレーキペダルを踏み込んでからペダルに抵抗を感じるまでのペダルの行きしろを言います。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 左右のペダルが独立に動けるように、ブレーキペダルのロックピンを外す図 159。

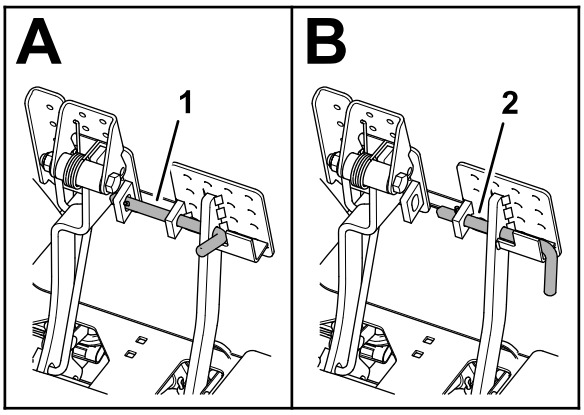
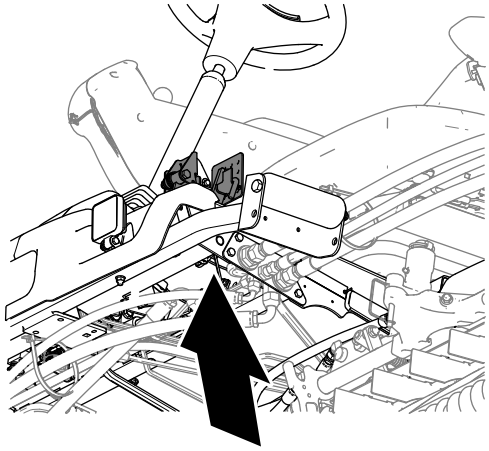


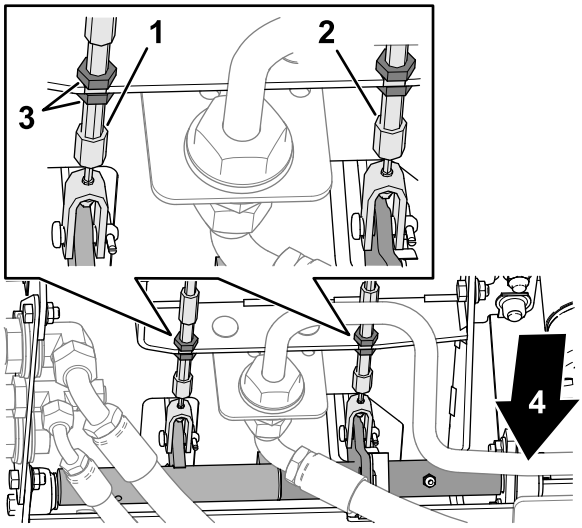
図 159

1. ブレーキペダルロック状態　　2. ブレーキペダルロック解除状態

3. ブレーキケーブルの端にある前ジャムナットをゆるめる図 160。



g370513



g370514

図 160

1. 左ブレーキケーブル
2. 右側ブレーキケーブル
3. ジャムナット
4. 機体前方

4. ブレーキペダルの遊びを減らすために後ナットを締めてケーブルを後方に移動させ、ブレーキペダルの遊びが 0-13 mm になるようにする。

   注 ペダルを踏んでいない時にブレーキケーブルにテンションがかかっていないことを確認してください。

5. 調整ができたら前ジャムナットを締める。
6. 必要に応じてもう一方のブレーキケーブルにもステップ35を行う。

ベルトの整備

オルタネータベルトの整備

整備間隔: 100運転時間ごと

オアウタネータのベルト図 161は100運転時間ごとに点検します。

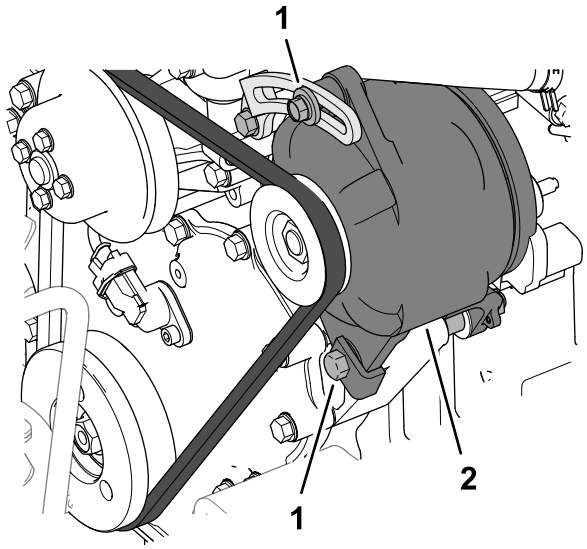
1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. オルタネータベルトの点検を行う。

   注 磨耗したり破損したりしたベルトは交換してください。

4. ベルトの張りを点検する。

   注 プーリとプーリとの中間部を 45N約4.5 kg の力で押した時に、10 mm 程度のたわみがあればベルトの張りは適正です。

5. ベルトのたわみが 10 mm から外れている場合には、オルタネータ取り付けボルト図 161を外して調整を行う。



g370515

図 161

1. 取り付けボルト
2. オルタネータ

6. 適当な張りに調整してボルトを締める。
7. ベルトのたわみが適切に調整されたことを確認する。
8. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

油圧系統の整備

油圧系統に関する安全確保

- 万一、油圧オイルが体内に入ったら、直ちに専門医の治療を受けてください。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受ける必要がある。
- 油圧装置を作動させる前に、全部のラインコネクタが適切に接続されていること、およびラインやホースの状態が良好であることを確認すること。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけない。
- リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。
- 油圧関係の整備を行う時は、内部の圧力を確実に解放する。

油圧ラインとホースの点検

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

油圧ライン・油圧ホースにオイル漏れ、ねじれ、支持部のゆるみ、磨耗、フィッティングのゆるみ、風雨や薬品による劣化などがないか毎日点検してください。異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

油圧作動液の仕様

油圧オイル溜めに高品質の油圧オイルを満たして出荷しています。初めての運転の前に必ず油量を確認し、その後は毎日点検してください 油圧オイルの量を点検する (ページ 80)を参照。

交換用の推奨油圧オイルToro PX Extended Life Hydraulic Fluid19 リットル缶または208 リットル缶。

注 推奨オイルを使用するとオイルやフィルタ交換の回数を減らすことができます。

使用可能な他のオイルToro PX Extended Life Hydraulic Fluidが入手できない場合は、以下に挙げる特性条件および産業規格を満たす石油系の油圧オイルを使用することができます。合成オイルは使用しないでください。オイルの専門業者と相談の上、適切なオイルを選択してください

注 不適切なオイルの使用による損害については弊社は責任を持ちかねますので、品質の確かな製品をお使い下さる様お願いいたします。

高粘度インデックス低流動点アンチウェア油圧作動液, ISO VG 46

物性	
粘度, ASTM D445	cSt @ 40°C 44-48
粘性インデックス ASTM D2270	140 以上
流動点 ASTM D97	-37°C–45°C
産業規格	Eaton Vickers 694 (I-286-S, M-2950-S/35VQ25 or M-2952-S)

高粘度インデックス低流動点アンチウェア油圧作動液, ISO VG 46 (cont'd.)

注 多くの油圧オイルはほとんど無色透明であり、そのためオイル洩れの発見が遅れがちです。油圧オイル用の着色剤20 ml 瓶をお使いいただくと便利です。1瓶で15-22 リットルのオイルに使用できます。パーツ番号はP/N 44-2500 ご注文は Toro 代理店へ。

***重要*トロ・プレミアム合成生分解油圧作動液は、トロ社がこの製品への使用を認めた唯一の合成生分解オイルです。このオイルは、トロ社の油圧装置で使用しているエラストマーに悪影響を与えず、また広範囲な温度帯での使用が可能です。このオイルは通常の鉱物性オイルと互換性がありますが、十分な生分解性を確保し、オイルそのものの性能を十分に発揮させるためには、通常オイルと混合せず、完全に入れ替えて使用することが望まれます。この生分解オイルは、モービル代理店にて 19 リットル缶または 208 リットル缶でお求めになれます。**

油圧オイルの量を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

油圧オイル溜めに高品質の油圧オイルを満たして出荷しています。

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 油圧オイルタンクの注油口周辺をきれいに拭き、キ ャップ図 162を外す。

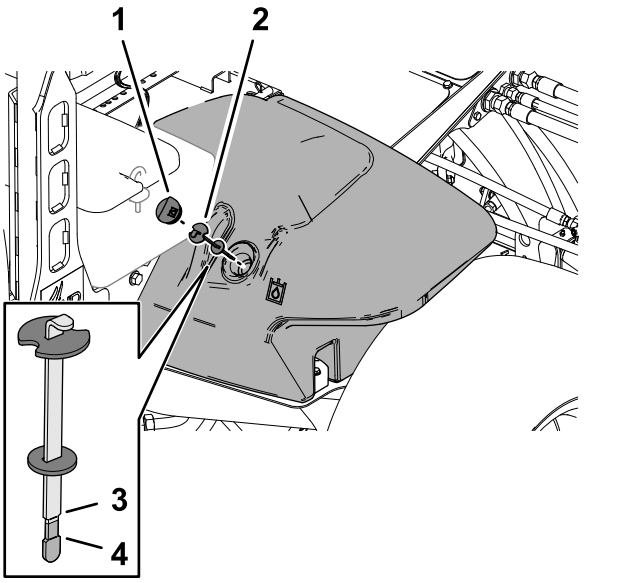


図 162

1. 油圧オイルタンクのキャップ
2. ディップスティック
3. FULL マーク
4. Add要追加マーク

3. 油圧オイルタンクキャップを取り外す。
4. 補給口の首からディップスティックを抜き、ウ ェスできれいに拭う。
5. もう一度首に差し込んで引き抜き、オイルの量を点検する。

   ディップスティックの FuLl マークと Add マークの間にオイルがあれば適正とする。
6. 油量が少なければ所定のオイルを FULL マークまで補給する。
7. ディップスティックとキャップをタンクに取り付ける。

油圧フィルタの交換

整備間隔: 1000運転時間ごと—**推奨オイルをご使用の場合**には、油圧オイルフィルタを交換してください。

800運転時間ごと—**推奨されていない油圧オイルを使用している場合や代替品のオイルを使用したことがある場合**には、油圧オイルフィルタを交換してください。

油圧オイルフィルタは、以下の純正品を使用してください

場所	Toro パーツ番号	地域
リターンフィルタ	94-2621	右側フレームのチャネル部材
チャージフィルタ	75-1310	シートプレートの下
重要 **純正品以外のフィルタを使用すると関連機器の保証が適用されなくなる場合があります。**		

チャージフィルタの交換

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. 運転席を倒す 座席を倒す (ページ 57)を参照。
3. チャージフィルタとフィルタヘッドの周囲をきれいに拭く図 163 。

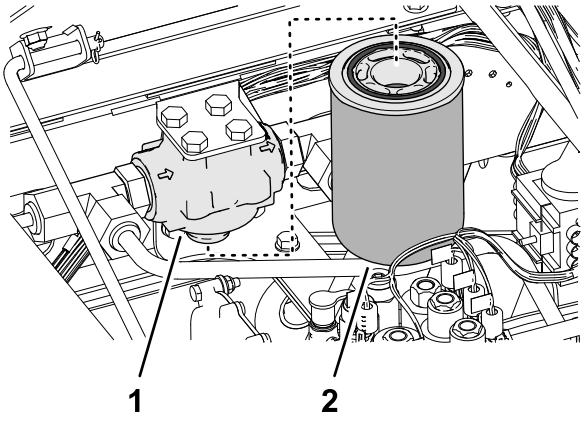


図 163

1. チャージフィルタのヘッド
2. チャージフィルタ

4. フィルタの下に廃油受けを置いてフィルタを外す。
5. フィルタヘッドのフィルタ取り付け部の表面をきれいなウェスで拭く。
6. 新しいフィルタのガスケットに薄くオイルを塗布し、フィルタにオイルを入れる 油圧作動液の仕様 (ページ 80)を参照。
7. ガスケットが取りつけプレートに当たるまで手で回してフィルタを取り付け、そこから更に ½ 回転増し締めする。

リターンフィルタの交換

1. リターンフィルタとフィルタヘッドの周囲をきれいに拭く図 164 。

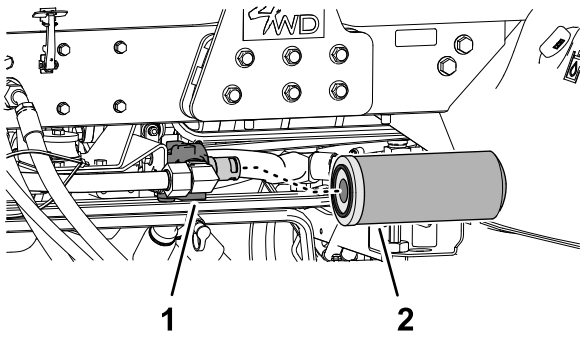


図 164

1. リターンフィルタのヘッド
2. リターンフィルタ

2. リターンフィルタの下に廃油受けを置いてフィルタを外す。

3. フィルタヘッドのフィルタ取り付け部の表面をきれいなウェスで拭く。
4. 新しいフィルタのガスケットに薄くオイルを塗布し、フィルタにオイルを入れ、次にそのオイルを戻す 油圧作動液の仕様 (ページ 80)を参照。
5. ガスケットが取りつけプレートに当たるまで手で回してフィルタを取り付け、そこから更に ½ 回転増し締めする。

油圧システムのエアパージを行う

1. エンジンを始動して 2 分間運転し、システム内のエアをパージする。
2. フィルタとフィルタヘッドの周囲をよく観察しオイル漏れがないことを確かめる。

   注 オイルが漏れている場合はすべて修正する。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. 運転席を倒す 座席をもとに戻す。 (ページ 57)を参照。

油圧オイルの容量

28.4 リットル 油圧作動液の仕様 (ページ 80)を参照。

油圧オイルの交換

整備間隔: 2000運転時間ごと—**推奨オイルをご使用の場合**には、油圧オイルを交換してください。

800運転時間ごと—**推奨されていない油圧オイルを使用している場合、代替品のオイルを使用した場合**には、油圧オイルフィルタを交換してください。

油圧オイルの抜き取り

オイルが汚染されてしまった場合は油圧系統全体を洗浄する必要がありますので、Toro の正規代理店にご連絡ください。汚染されたオイルは乳液状になったり黒ずんだ色になったりします。

受け容器に必要な容量 30 リットル以上

1. マシンの整備の準備を行う 整備作業にかかる前に (ページ 56)を参照。
2. フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
3. 油圧オイルタンクの下にオイルを受ける容器をおく図 165。

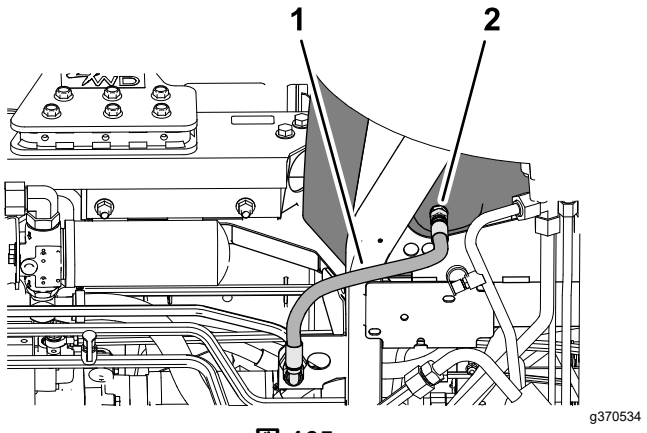


図 165

1. タンクへの戻りホース
2. ストレートフィッティング 油圧オイルタンク底部

4. 油圧オイルタンク底部のストレートフィッティングから戻りホースを外してタンク内部の油圧オイルを排出する。
5. 排出が終わったら、戻りホースを元通りにフィッティングに取り付ける。
6. ホースのフィッティングを 50-63 N·m5.2-6.5 kg.m = 3747 ft-lbにトルク締めする。

油圧オイルの点検と補給を行う

1. タンクに所定の油圧オイルを入れる 油圧作動液の仕様 (ページ 80)と 油圧オイルの容量 (ページ 82)を参照。

   重要 **指定された銘柄のオイル以外は使用しないでください。他のオイルを使用するとシステムを損傷する可能性があります。**
2. ディップスティックとキャップをタンクに取り付ける。

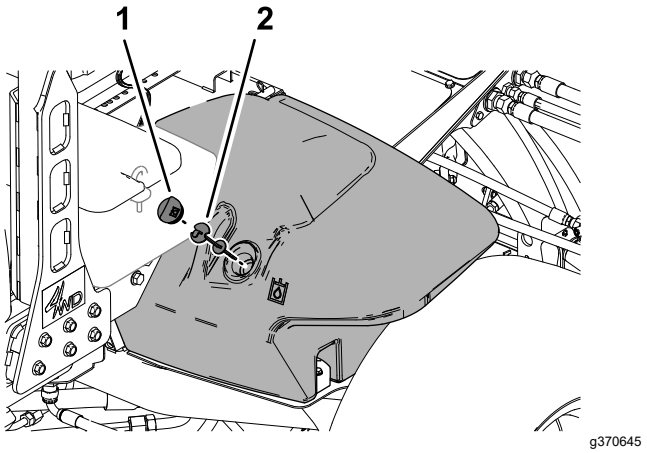


図 166

1. 油圧オイルタンクのキャップ
2. ディップスティック

3. エンジンを始動し、全部の油圧装置を操作して内部にオイルを行き渡らせる。
4. オイル漏れがないか点検し、エンジンを停止させ、キーを抜き取る。

オイルが漏れている場合はすべて修正する。

5. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。
6. 油圧オイルの量を点検する 油圧オイルの量を点検する (ページ 80)を参照。

注 油量が足りなければディップスティックの FULL マークまで補給する。タンクに入れすぎないように注意する。

カッティングユニットの保守

刈り込みブレードについての安全事項

磨耗したり破損したりしたリール刃や下刃は使用中に割れて破片が飛び出す場合があり、これが起こるとオペレータや周囲の人間に多大の危険を及ぼし、最悪の場合には死亡事故となる。

- リール刃や下刃が磨耗や破損していないか定期的に点検すること。
- 刃を点検する時には安全に十分注意してください。必ず手袋を着用してください。リールと下刃は研磨するか交換するかのみ行い、たたいて修復したり溶接したりしないでください。
- 複数のカッティングユニットを持つ機械では、1つのリールを回転させると他のカッティングユニットのリールも回転する場合がありますから注意してください。

カッティングユニットのバックラップ

⚠ 警告

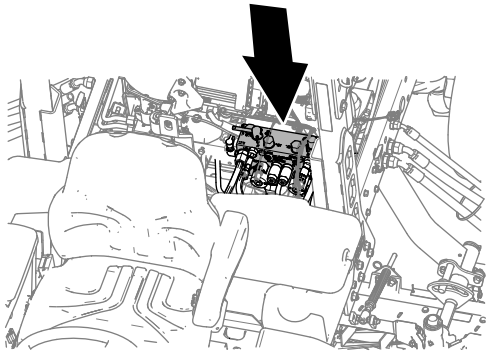
バックラップ中にリールに触れると大けがをする。

- **リールその他の可動部に手指、足、衣類等を近づけないよう注意すること。**
- **エンジンが動いている間は、止まったリールを絶対に手や足で回そうとしないこと。**

注 さらに詳しい説明が、Toro *リール/ロータリーモアのための研磨マニュアルForm No. 80-300 SL*に掲載されています。

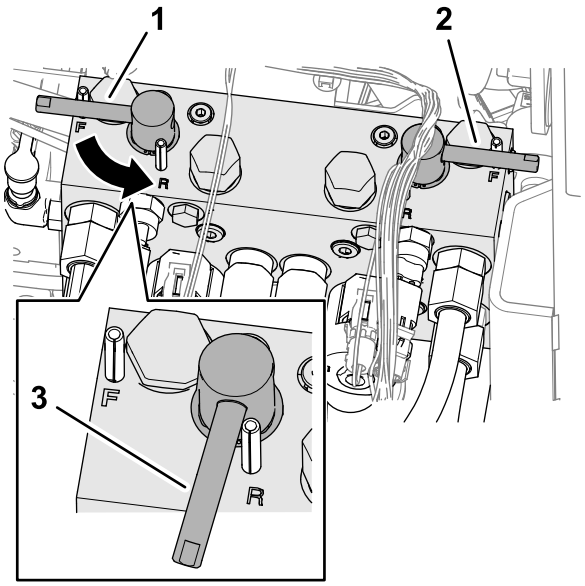
マシンの準備を行う

- 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、PTOスイッチを 切にする。
- フードを開ける フードを開ける (ページ 56)を参照。
- 各カッティングユニットのリールと下刃をバックラップ用に設定するカッティングユニットの*オペレーターズマニュアル*を参照。
- 前、後、または両方のバックラップレバーを Rバックラップ位置にセットする図 167。



g370552

図 167



g370553

図 168

1. バックラップレバー前カッティングユニット 4、1、5番用
2. バックラップレバー後カッティングユニット 2、3番用
3. R逆転バックラップ

リールとベッドナイフのバックラップ

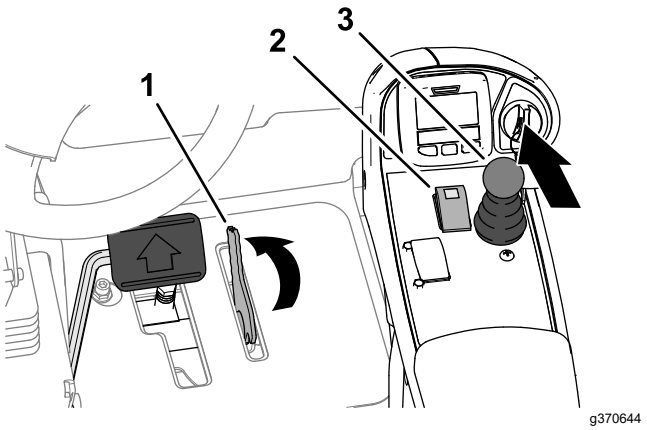
⚠ 危険

バックラップ中にエンジン速度を変えるとリールが停止することがある。

- **バックラップ中は絶対にエンジン速度を変えないこと。**
- **バックラップは、必ずエンジンをアイドリング速度にして行う。**

注 バックラップの時は 前ユニット 後ユニットがそれぞれ共に回転します

1. 走行ペダルがニュートラル位置にあり、駐車ブレーキが掛かっていることを確認する。
2. エンジンを始動し、ローアイドル回転にセットする。
3. 刈り込み速度リミッタを前方に動かして 刈り込み位置にする図 169。



g370644

図 169

1. 刈り込み速度リミッタ
2. PTO スイッチ
3. 昇降コントロールレバー

4. PTO スイッチを入位置にする。
5. 芝刈りコントロールレバーを前に倒す。

   注 バックラップ設定されたリールが逆転を開始する。
6. 長い柄のブラシを使ってリールにラッピングコンパウンドを塗布しながらラッピングを続ける。

   ⚠ 危険

   回転中のリールに触れると大けがをする。

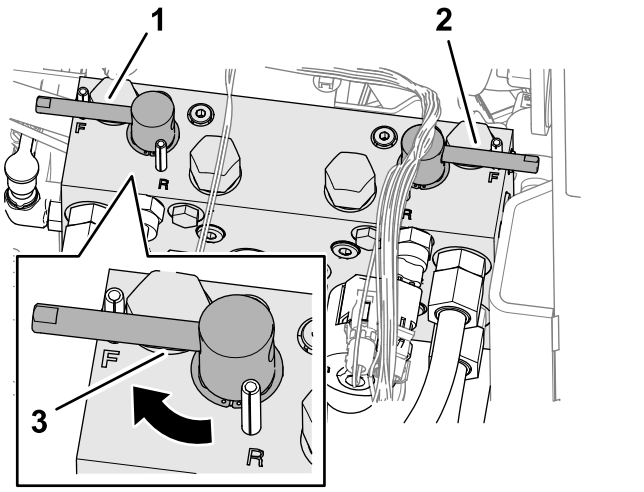
   - **短い柄のブラシは使用しないこと。**
   - **人身事故防止のため、カッティングユニットから十分離れてから次の手順に進むこと。**
7. リールの回転が止まってしまったり、回転が一定しない場合には、スロットル速度を少し上げて安定させる。
8. バックラップちゅうにカッティングユニットの調整を行う必要が出てきた場合
   A. 昇降レバーを後に倒す。

      注 カッティングユニットは停止するが上昇はしない。
   B. PTO スイッチを切位置にする。
   C. エンジンを止め、キーを抜き取る。
   D. カッティングユニットの調整を行う。
   E. 上記の手順2-7を繰り返す。
9. バックラップするユニット全部に上記ステップ6の作業を行う。

バックラップの終了

重要 **バックラップスイッチを OFF 位置に戻さないと、カッティングユニットの上昇などの操作をすることができません。**

1. エンジンを止め、キーを抜き取る。
2. カッティングユニットについているラッピングコンパウンドを完全に洗い落とす。
3. 必要に応じてリールとベッドナイフの刃合わせを行う。
4. バックラップレバーをF刈り込み位置に戻す。



g370556

図 170

1. バックラップレバー前カッティングユニット 4、1、5番用
2. バックラップレバー後カッティングユニット 2、3番用
3. F前転刈り込み

5. バックラップが終わったら、ベッドナイフの前端に軽くヤスリ掛けを行うとさらに切れ味が向上します。

   注 これによりベッドナイフ前端に形成されたバリが除去されます。
6. フードを閉じてラッチで固定する フードを閉じる (ページ 56)を参照。

中期整備

シャーシとエンジン

整備間隔: 2年ごと—油圧ホースを交換する。

2年ごと—冷却液ホースを交換する。

2年ごと—冷却液を交換する。

洗浄

機体の洗浄

必要に応じて水または水と刺激の少ない洗剤で車体を洗浄する。柔らかい布などを使っても構いません。

重要 **塩分を含んだ水や処理水は機体の洗浄に使用しないでください。**

重要 **圧力洗浄機で機体を洗浄しないでください。高圧の水で洗浄すると電気系統の損傷、重要なデカルのはがれ、グリス部への水の浸入などを起こす恐れがあります。コントロールパネル、エンジン、バッテリーの周囲に大量の水を掛けないでください。**

重要 **洗浄はエンジンを止めて行ってください。エンジンを掛けたままで洗浄を行うとエンジン内部に損傷を起こす恐れがあります。**

保管

格納保管時の安全確保

- 運転席を離れる前に
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管格納しないでください。

トラクションユニットの整備

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. トラクションユニット、カッティングユニット、エンジンをていねいに洗浄する。
3. タイヤ空気圧を点検する タイヤ空気圧を点検する (ページ 69)を参照。
4. ボルトナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。
5. グリス注入部やピボット部全部をグリスアップする。余分のグリスやオイルはふき取る。
6. 塗装のはがれている部分に軽く磨きをかけ、タッチアップする。金属部の変形を修理する。
7. バッテリーとケーブルの整備を行う 電気系統に関する安全確保 (ページ 67)を参照。
   A. バッテリー端子からケーブルを外す。
   B. バッテリー本体、端子、ケーブル端部を重曹水とブラシで洗浄する。
   C. 腐食防止のために両方の端子部にワセリンGrafo 112X: P/N 505-47を薄く塗る。
   D. 電極板の劣化を防止するため、60日ごとに24時間かけてゆっくりと充電する。

エンジンの整備

1. エンジンオイルを抜き取り、ドレンプラグをはめる。
2. オイルフィルタを外して捨てる。新しいオイルフィルタを取り付ける。
3. エンジンに推奨モーターオイルを入れる。
4. エンジンを始動し約 2 分間回転させる。
5. エンジンを止め、キーを抜き取る。
6. 新しいきれいな燃料を使って燃料タンクを洗浄する。
7. 燃料関係のフィッティングを確実に固定する。
8. エアクリーナをきれいに清掃する。
9. エアクリーナの吸気口とエンジンの排気口を防水テープでふさぐ。
10. 冷却水エチレングリコール不凍液と水との 50/50 混合液の量を点検し、凍結を考慮して必要に応じて補給する。

バッテリーの保管

格納期間が30日間以上になる場合には、バッテリーを機体から外して満充電してください。充電終了後は、機体に取り付けて保存しても、機体から外したままで保存してもよい。機体に取り付けて保存する場合は、ケーブルを外しておいてください。温度が高いとバッテリーは早く放電しますので、涼しい場所を選んで保管してください。バッテリーを凍結させないためには、完全充電しておくことが大切です。完全充電したバッテリー液の比重は 1.265-1.299 になる

メモ

メモ

EEA/UK におけるプライバシーに関するお知らせ

Toro によるお客様の個人情報の利用について

The Toro Company (“Toro”) は、お客様のプライバシーを尊重します。弊社の製品をお買い上げ頂いた際、弊社ではお客様に関する情報を、お客様から直接、あるいは弊社の支社や代理店を通じて入手いたします。入手した情報は、お客様との契約を履行するために使用されます。具体的には、お客様のための製品保証登録、保証請求の処理、万一製品をリコールする場合のご連絡、さらには弊社の事業を進めるため、たとえばお客様満足度を調査したり、製品の改良、またお客様にとって役に立ちそうな製品のご紹介などに使用します。また、トロが上記の業務を遂行するために必要となる活動のために、弊社の子会社、提携会社、代理店などのビジネスパートナーに情報を開示する場合があります。また、法律に基づく要請があった場合や、事業の売却、買収、合併などが発生した場合にはお客様の情報を開示する場合があります。ただし、マーケティングのためにお客様の個人情報を他社に売ることは絶対にいたしません。

個人情報の保存

Toro では、上記の目的にとって必要な期間にわたり関連法律に従ってお客様の個人情報を保持いたします。具体的な保持期間についての詳細をお知りになりたい方は以下にご連絡くださいlegal@toro.com。

セキュリティーについての Toro のお約束

あなたの個人情報についての情報処理作業は、米国またはあなたが居住される国のデータ保護関連規制よりも規制がゆるやかな第三国で行われる場合があります。あなたが居住する国の外にあなたの個人情報を移動させる場合、弊社は法に則った手続きでそれを行い、あなたに関わる個人情報が適切に保護され、また適切に取り扱われるように細心の注意を払います。

アクセスと訂正

お客様には、ご自身の個人情報を閲覧・訂正する権利があり、また、ご自身に関するデータの処理に対して異議申し立てないしは禁止を申し立てる権利があります。このような権利行使をなさりたい場合には legal@toro.com にメールでご連絡ください。弊社によるあなたの個人情報の取り扱い方法に関して懸念をお持ちの場合は、ご自身で直接弊社にお尋ねくださるようにお願いいたします。なお、ヨーロッパにお住まいの皆様は、Data Protection Authority に対して異議申し立てを行うことができます。

カリフォルニア州第65号決議による警告

この警告は何?

以下のような警告ラベルが張られた製品を見かけることがあるでしょう

警告ガンおよび先天性障害の恐れ —www.p65Warnings.ca.gov.

Prop 65 って何?

Prop 65 は、カリフォルニア州で操業している企業、製品を販売している企業、カリフォルニア州で販売または同州に持ち込まれる可能性のある製品のメーカーを対象とした法律です。この法律では、ガン、先天性などの出生時異常の原因となることが知られている化学物質の一覧をカリフォルニア州知事が作成維持しこれを公表しなければならないと定められています。危険物リストは、日常の生活の中で使用するものから発見された数百種類の化学物質を網羅しており、毎年改訂されます。Prop 65 の目的は、こうした物質に触れる可能性があることを市民にきちんと知らせることです。

Prop 65 は、こうした物質を含む製品の販売を禁じているのではなく、そうした製品、製品の包装、製品に付属する文書などに警告を明記することを求めています。また、こうした警告があるからといって、その製品が何等かの安全基準に違反しているということではありません。実際、カリフォルニア州政府は、Prop 65 警告はその製品が安全か安全でないかを示すものではないと説明しています。こうした物質の多くは、様々な生活用品に何年も前から使用されてきておりますが、それらの物質が今までに何らかの健康問題を起こしたという記録はありません。さらに詳しい情報はこちらへhttps://oag.ca.gov/prop65/faqs-view-all。

Prop 65 の警告は、以下のうちのどちらかを意味していますある企業が自社製品への化学物質の使用量について評価したところ、目立った危険は何一つないとされる基準を超えていることがわかった、または (2) 製品に使用している化学物質は法律で規制されているものだったので、特に評価を行うことはせず、法に従って警告文を添付することにした。

この法律は全世界に適用されるのですか

Prop 65 警告はカリフォルニア州でのみ要求される法律です。Prop 65 警告はカリフォルニア州のいたるところで目にすることができます。レストラン、八百屋、ホテル、学校、病院など、そして非常に多くの製品にも、この警告が印刷されています。さらには、オンラインやメールオーダーのカタログなどにも掲載されています。

カリフォルニア州の警告と連邦政府の上限との関係は

Prop 65 の内容は連邦政府の規制や国際規制よりも厳しいものが大変多いです。Prop 65 の規制基準値は連邦政府基準に比べてはるかに厳しく、連邦政府基準では表示義務がないが、Prop 65 では表示義務があるものが数多く存在します。たとえば、Prop 65 の基準では、一日当たりの鉛の排出量が 0.5 マイクログラムとなっており、これは連邦政府の基準や国際基準よりもはるかに厳しい数値です。

似たような製品なのに警告が付いていないものがあるのはなぜ

- カリフォルニア州内で販売される場合には Prop 65 ラベルが必要でも、他の場所で販売される場合には不要だからです。
- Prop 65 関連で裁判となった企業が、和解条件として Prop 65 警告の表示に同意したが、そうした問題に巻き込まれていない企業の製品には何も表示されていないといったこともあるでしょう。
- Prop 65 の表示は必ずしも一律に行われているわけではないのです。
- 自社内で検討した結果、Prop 65 基準に抵触しないと判断して、警告の表示を行わないことを選択する企業もあります。警告が書かれていないからと言って、その製品に対象化学物質が含まれていないということは言えません。

なぜ Toro 製品にはこの警告が表示されているのですか

Toro では、十分な情報に基づいてお客様ご自身が判断できるようにすることがベストであるという考えから、できる限り多くの情報をお客様に提供することとしております。リスト記載物質のいくつかが自社製品に該当する場合、Toro では、それらの物質のほとんどの量はごくわずかであって実際の表示義務はないことを認識した上で、排出量などを厳密に評価することなく、警告を表示するという判断をすることがあります。Toro では、自社の製品に含まれる化学物質の量が「重大なリスクはない」レベルであると認識した上で、あえてProp 65 警告の表示を行うという選択をしております。これはまた、もし Toro がこうした警告を表示しなかった場合、カリフォルニア州政府や、Prop 65 の施行推進を目指す民間団体などから訴訟を提起される可能性もあるということも視野に入れての判断です。

Toro 製品保証

2 年間または 1,500 時間限定保証

保証条件および保証製品

Toro 社は、Toro 社の製品以下「製品」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2 年間または 1,500 運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレータを除くすべての製品に適用されますエアレータに関する保証については該当製品の保証書をご覧下さい。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラー に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952–888–8801 または 800–952–2740
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

製品のオーナーは、*オペレーターズマニュアル*に記載された整備や調整を実行する責任があります。必要な整備や調整を怠ったことが原因で発生した不具合などの問題点はこの製品保証の対象とはなりません。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品や Toro 以外のアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 製品を使用したことによって消耗した正常なパーツ通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリングシールドタイプ、グリス注入タイプ共、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、フローメータ、チェックバルブが含まれます。
- 以下のような外部要因が原因で発生する不具合天候、格納保管条件、異物、不適切な燃料、冷却液、潤滑剤、添加物、水、薬品などの使用。
- 適正な燃料ガソリン、軽油、バイオディーゼルなどを使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。
- 通常の使用にともなう音、振動、磨耗、損耗および劣化。通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「部品」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

ディープサイクルバッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの保証

ディープサイクルバッテリーやリチウムイオンバッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。注リチウムイオンバッテリーバッテリーの保証内容をご確認ください。

クランクシャフトのライフタイム保証プロストライプ 02657 モデルのみ

トロ社の純正摩擦ディスクおよびクランク安全ブレードブレーキクラッチ統合ブレードブレーキクラッチBBC摩擦ディスクアセンブリを当初から搭載し、当初の購入者様がトロ社の推奨する運転方法および定期整備を遵守してご使用されたプロストライプ製品には、クランクシャフトの曲がり不具合に対するライフタイム保証が適用されます。摩擦ワッシャ、ブレードブレーキクラッチBBCその他のデバイスを搭載した製品には、このクランクシャフトのライフタイム保証は適用されません。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

Toro 社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。当社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

排ガス保証についてのご注意

米国においては環境保護局EPAやカリフォルニア州法CARBで定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店ディストリビュータまたはディーラへおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は弊社の正規サービスセンターにご相談ください。